

調査結果の分析

1. 産業を振興するための取り組み

台東区には、上野、浅草など、大きな商業地があり、さまざまな産業が集まっています。しかし、小さな会社や商店が多く、景気などの影響を受けやすい面があります。

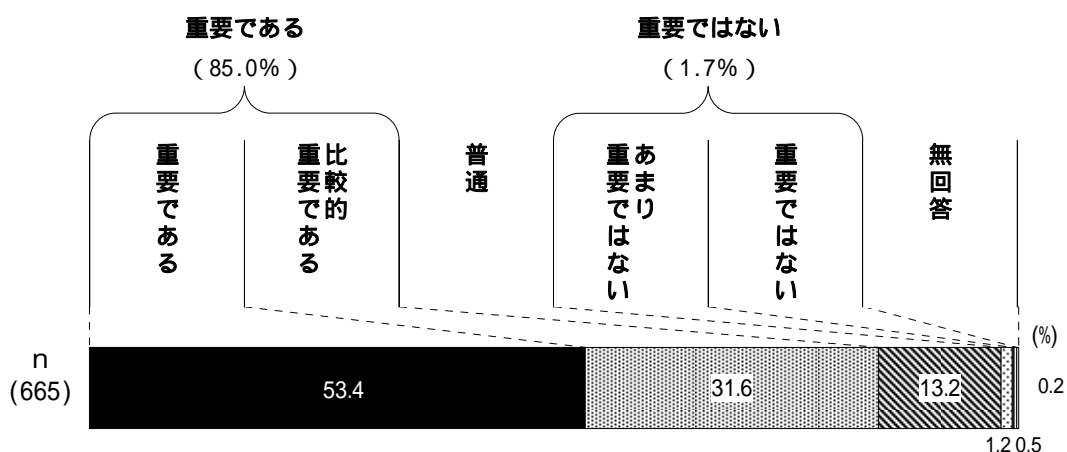
区では、中小企業への融資や相談などの経営への支援、地場産業や商店街の振興など、産業全体の活性化に取り組んでいます。

(1) 産業の振興についての重要度

《重要である》が8割台半ば

問1 産業の振興についてどの程度重要だと思いますか。(1つだけをおつけください)

<図表1-1> 産業の振興についての重要度



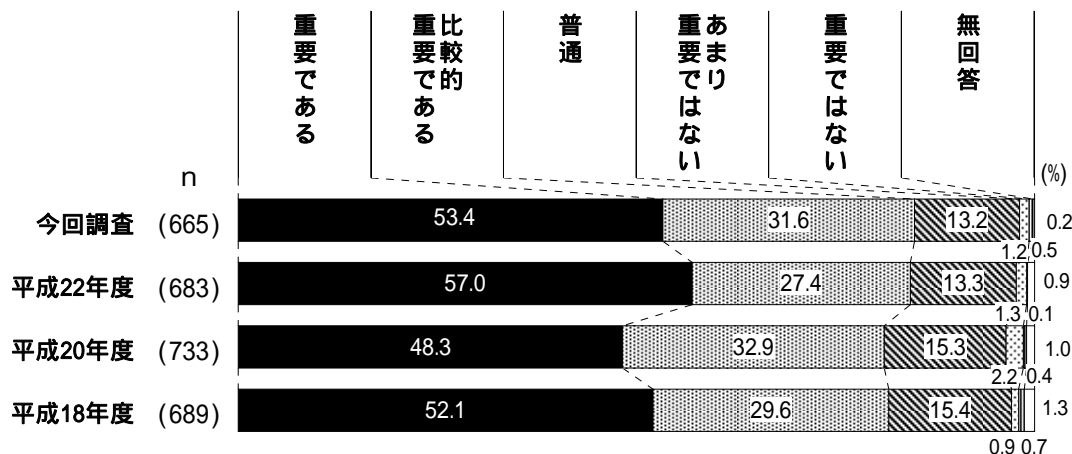
産業の振興についてどの程度重要か聞いたところ、「重要である」(53.4%)が5割台半ばとなっている。これに「比較的である」(31.6%)を合わせると、《重要である》は85.0%で8割台半ばとなっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.7%である。

(図表1-1)

過去の調査結果と比較すると、《重要である》(85.0%)は、平成18年度(81.7%)と平成20年度(81.2%)では8割を超える程度であったが、平成22年度(84.4%)以降は8割台半ばとなっている。

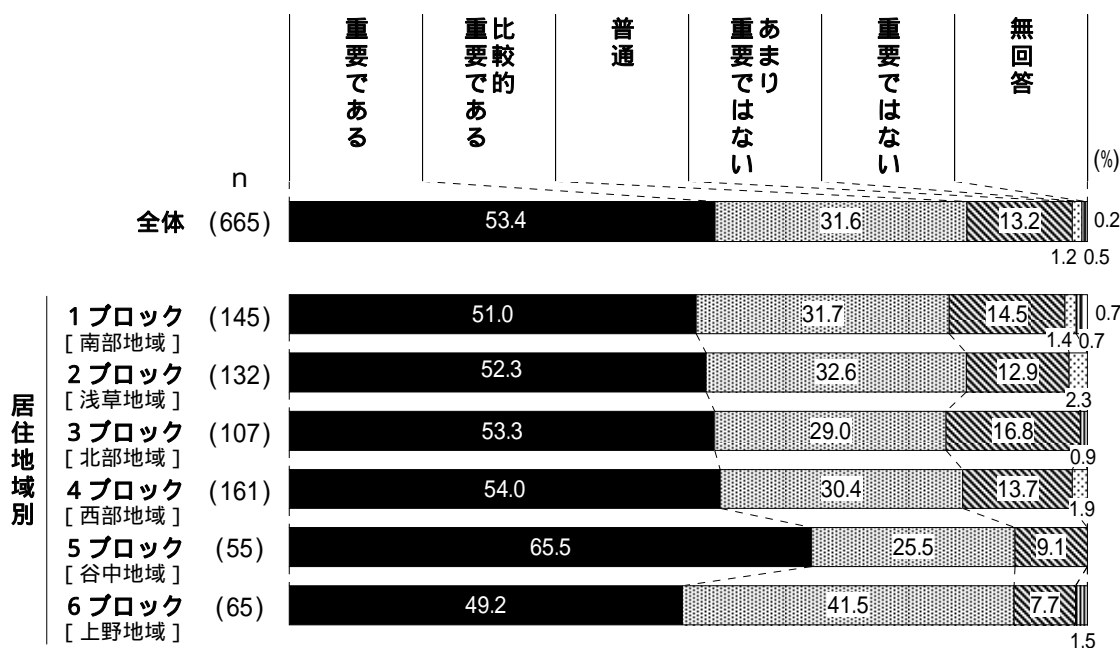
(図表1-2)

<図表1-2> 産業の振興についての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、5ブロック[谷中地域](91.0%)と6ブロック[上野地域](90.7%)で9割台となっている。「重要である」に限れば、5ブロック[谷中地域](65.5%)で6割台半ばと特に高くなっている。(図表1-3)

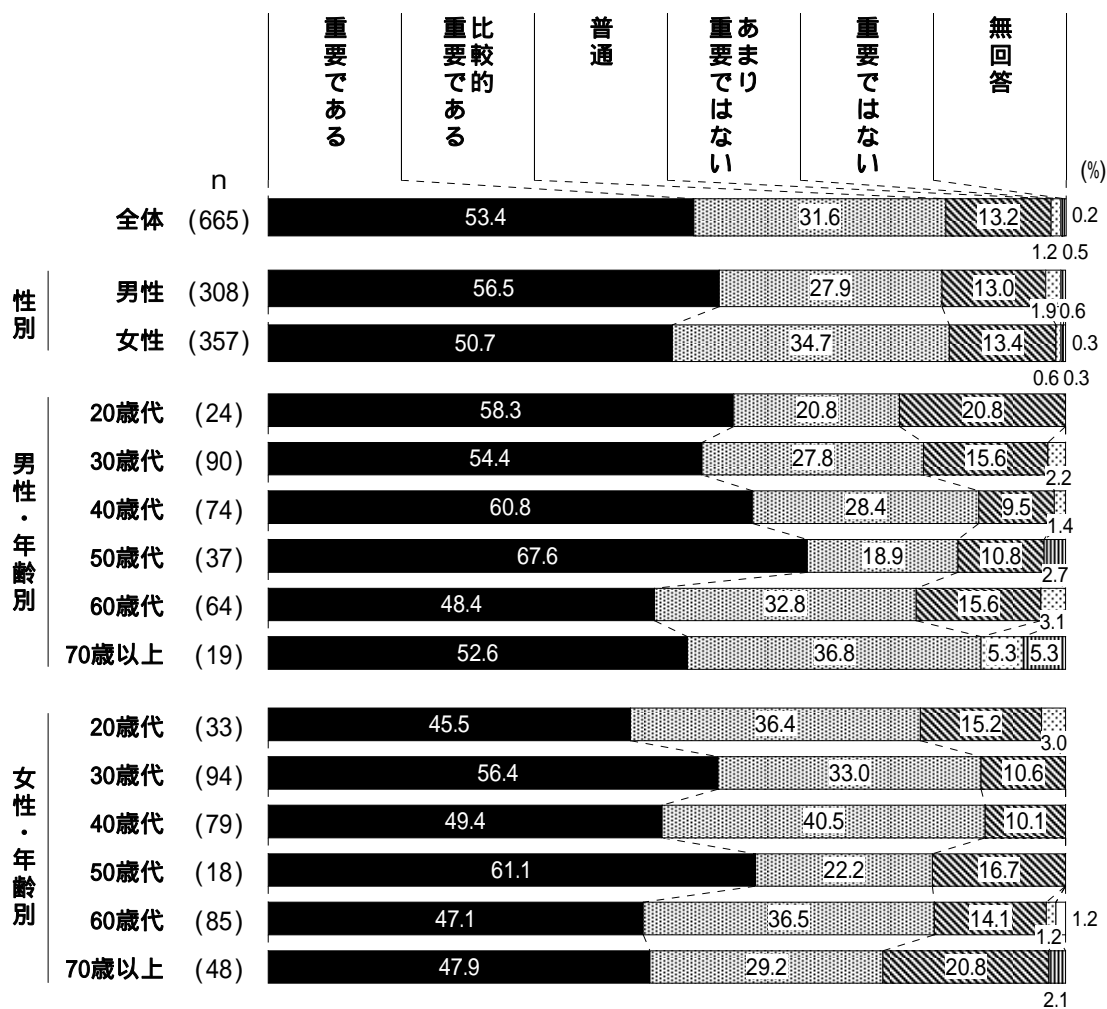
<図表1-3> 産業の振興についての重要度 居住地域別



性別でみると、《重要である》に大きな違いはみられないが、「重要である」に限れば、男性（56.5%）の方が女性（50.7%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、男女の40歳代と女性の30歳代（89.4%）で約9割と高くなっている。（図表1 - 4）

<図表1 - 4> 産業の振興についての重要度 性別/性・年齢別

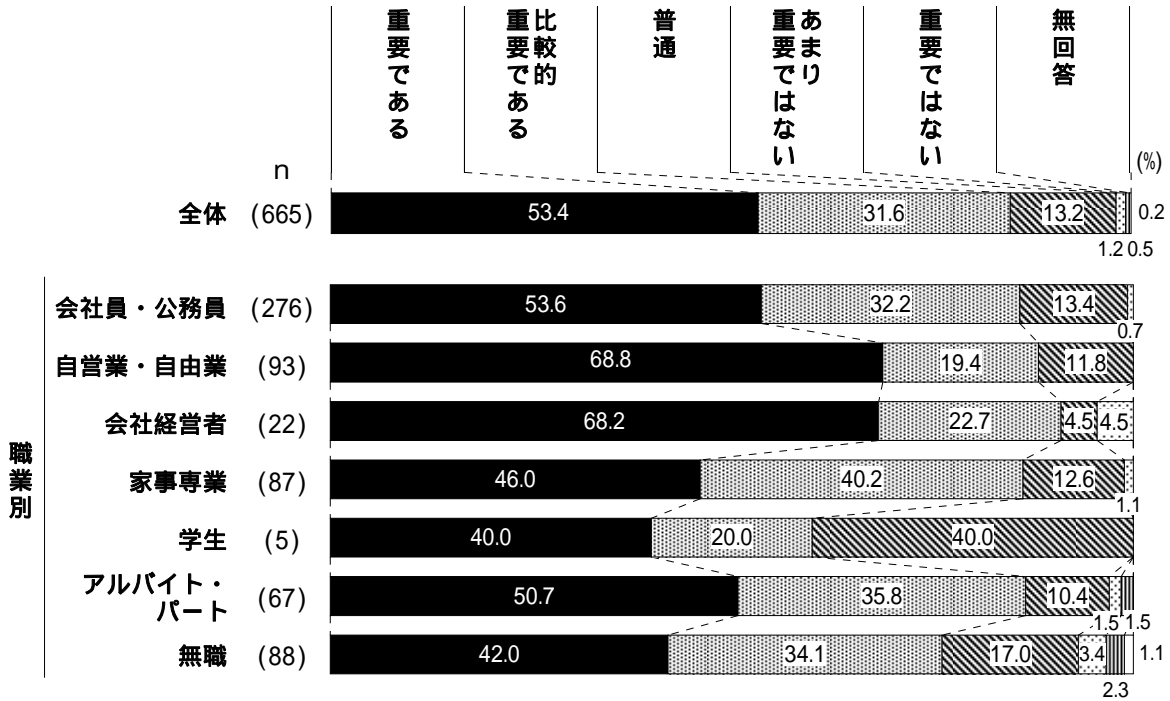


（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

職業別でみると、《重要である》は、自営業・自由業（88.2%）で約9割と高くなっている。

(図表1 - 5)

<図表1 - 5> 産業の振興についての重要度 職業別



(注)“会社経営者”および“学生”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

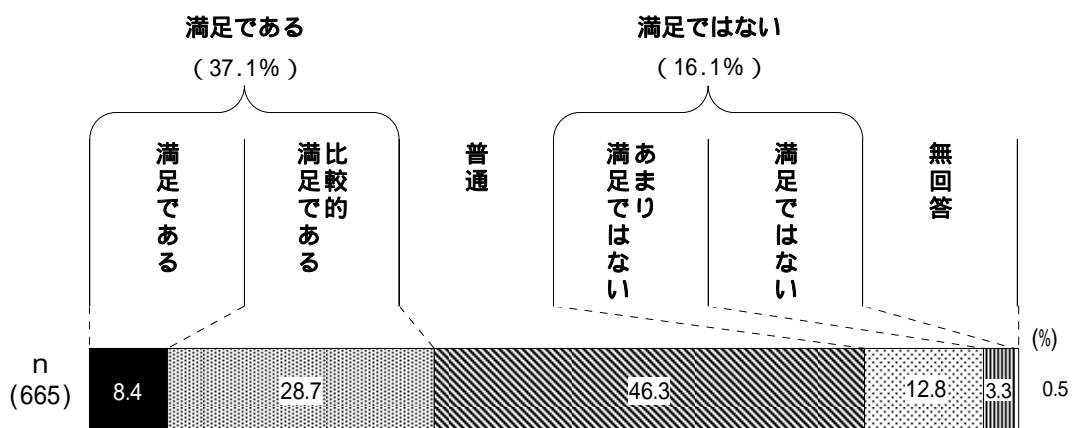
(2) 産業の振興への区の取り組みについての満足度

「普通」が4割台半ば、《満足である》は約4割

問2 産業の振興への区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

<図表1-6> 産業の振興への区の取り組みについての満足度

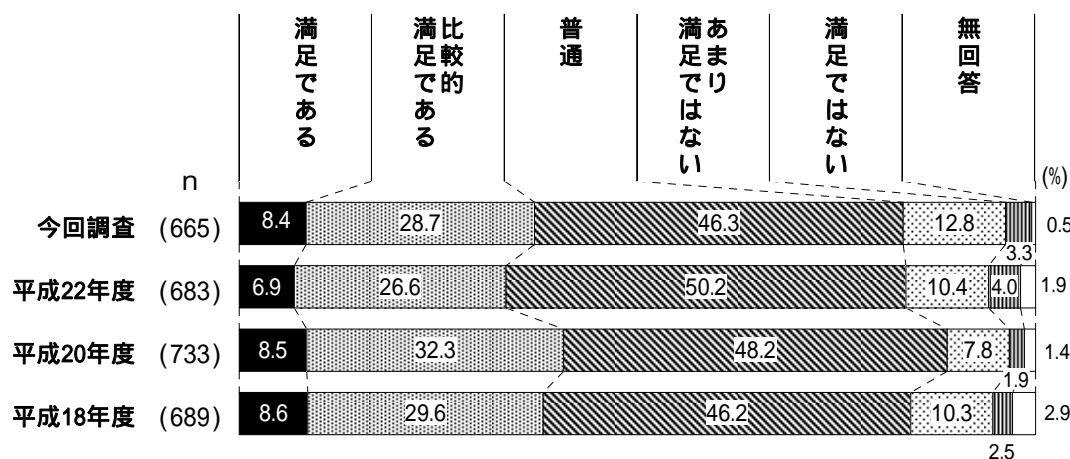


産業の振興への区の取り組みについて、どの程度満足しているかを聞いたところ、「普通」(46.3%)が4割台半ばで最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は37.1%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は16.1%である。

(図表1-6)

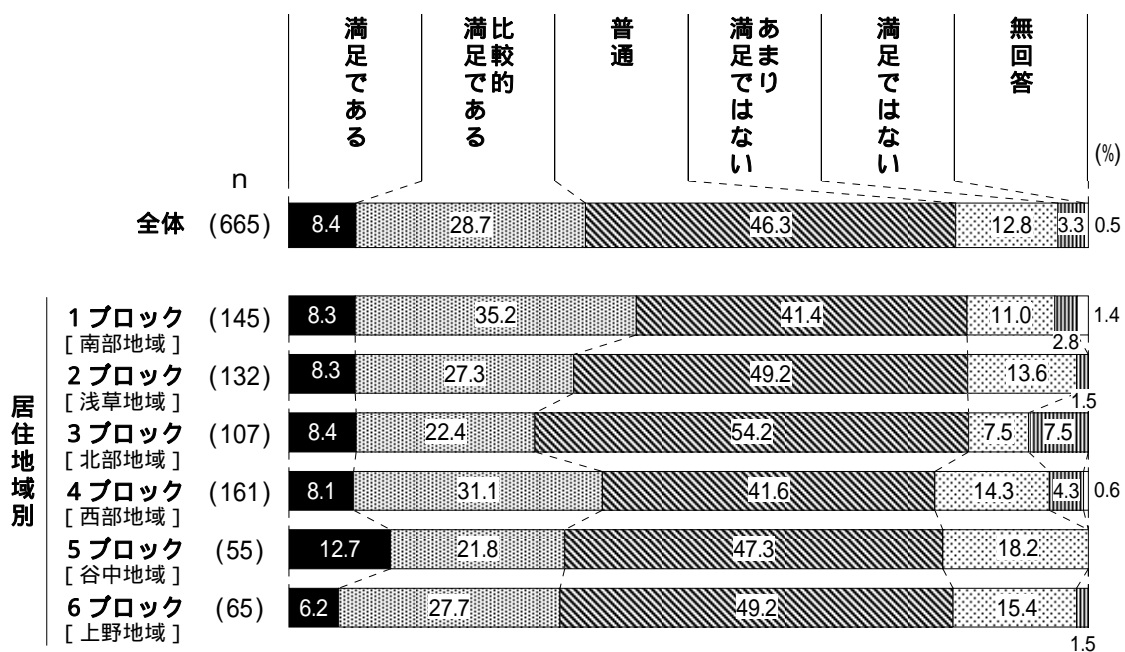
過去の調査結果と比較すると、《満足である》(37.1%)は、平成22年度(33.5%)より3.6ポイント増加している。(図表1-7)

<図表1-7> 産業の振興への区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、1ブロック[南部地域]（43.5%）で4割台半ばと最も高くなっている。一方、《満足ではない》は、4ブロック[西部地域]（18.6%）と5ブロック[谷中地域]（18.2%）で約2割と高くなっている。（図表1 - 8）

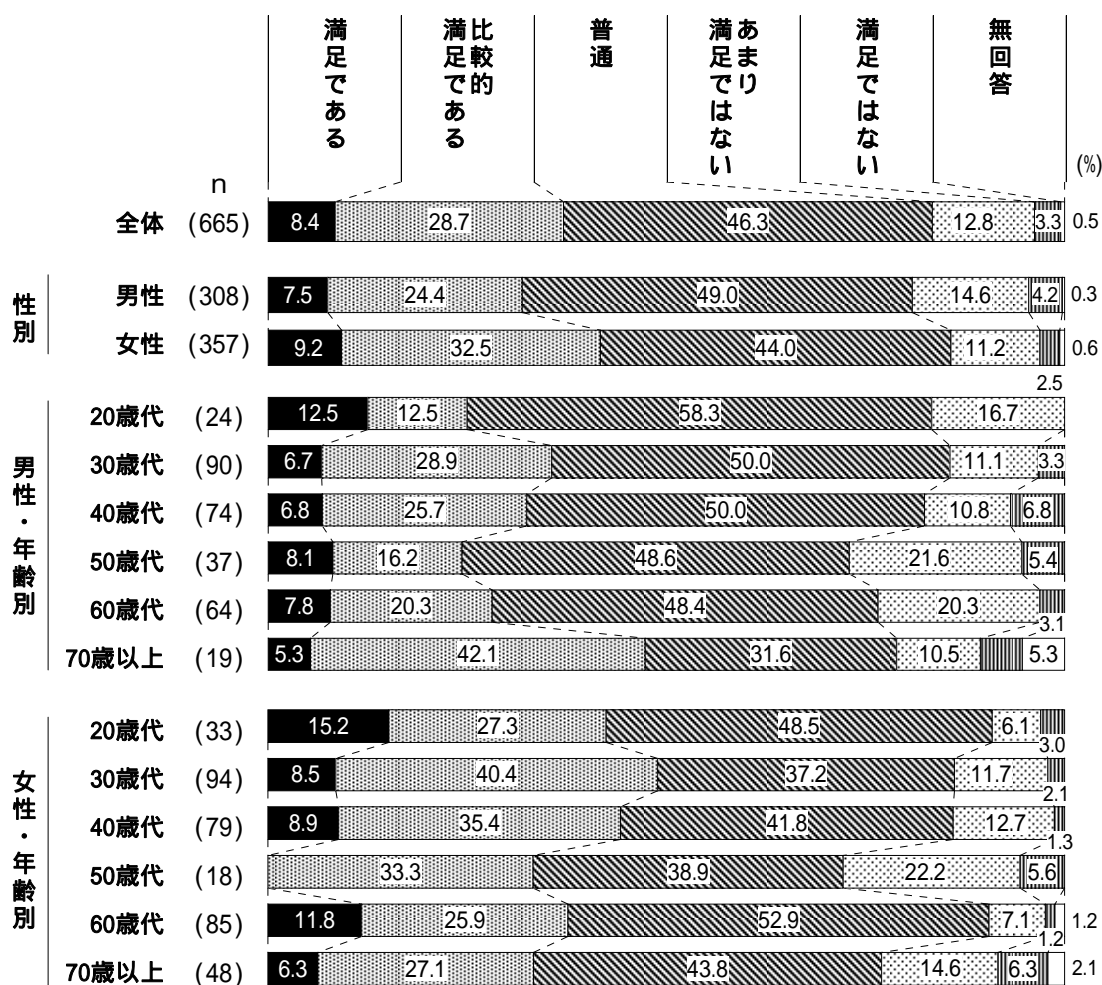
<図表1 - 8> 産業の振興への区の取り組みについての満足度 居住地域別



性別でみると、《満足である》は、女性（41.7%）の方が男性（31.9%）より9.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の30歳代（48.9%）で約5割と最も高く、次いで女性の40歳代（44.3%）で4割台半ばとなっている。一方、《満足ではない》は、男性の50歳代（27.0%）と60歳代（23.4%）、女性の70歳以上（20.9%）で2割台と高くなっている。（図表1 - 9）

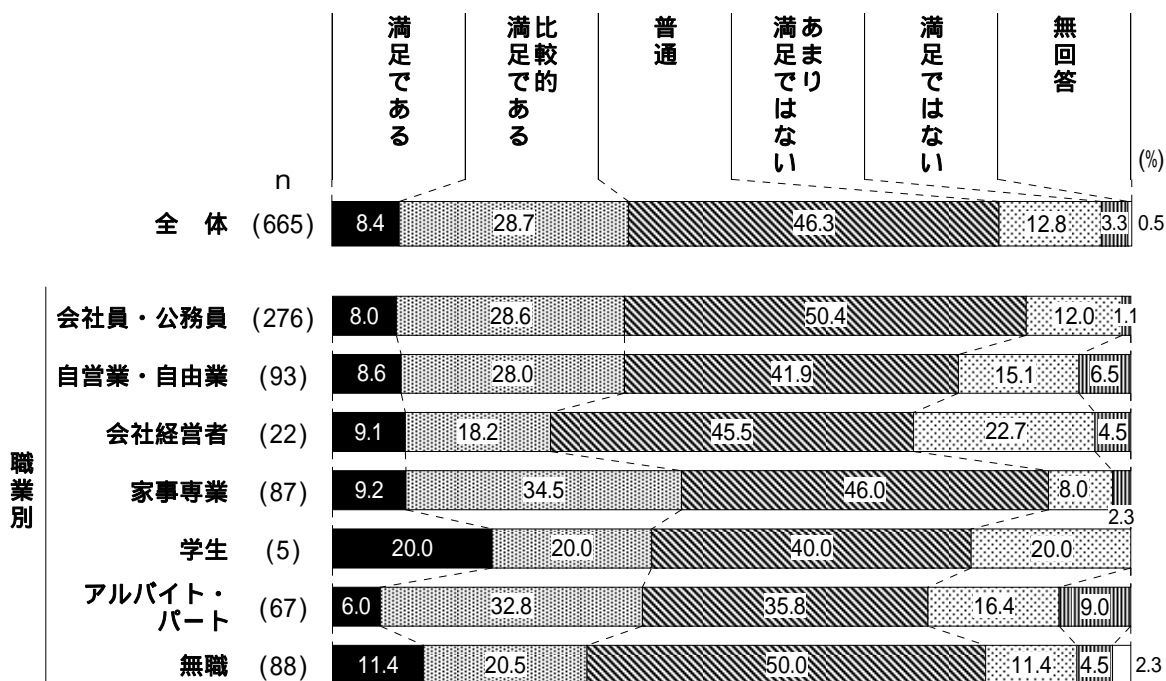
<図表1 - 9> 産業の振興への区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

職業別でみると、《満足である》は、家事専業（43.7%）で4割台半ばと最も高くなっている。一方、《満足ではない》は、アルバイト・パート（25.4%）と自営業・自由業（21.6%）で2割台と高くなっている。（図表1 - 10）

<図表1 - 10> 産業の振興への区の取り組みについての満足度 職業別



（注）“会社経営者”および“学生”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

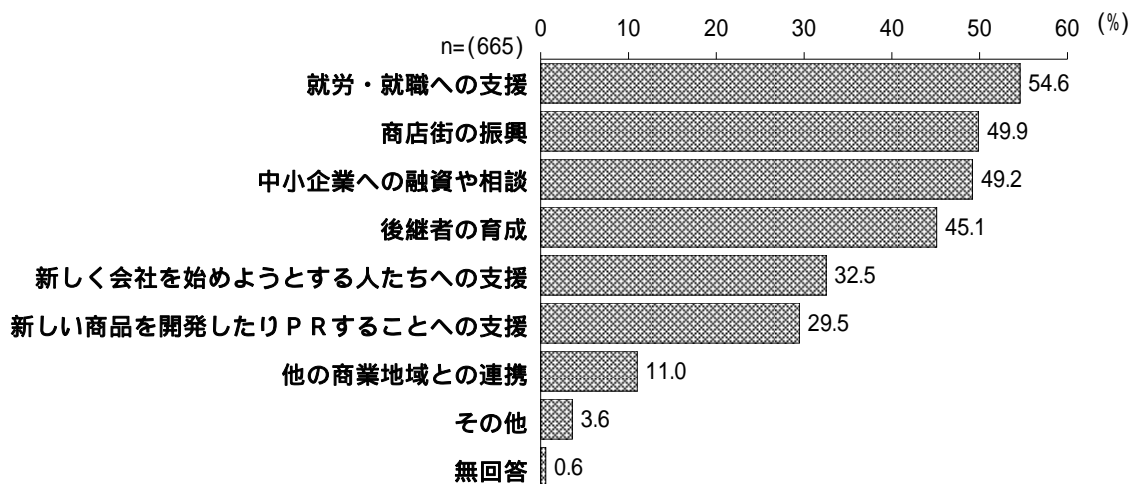
(3) 産業の振興のための取り組みとして大切なもの

「就労・就職への支援」が5割台半ば、「商店街の振興」「中小企業への融資や相談」が約5割

問3 産業の振興のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

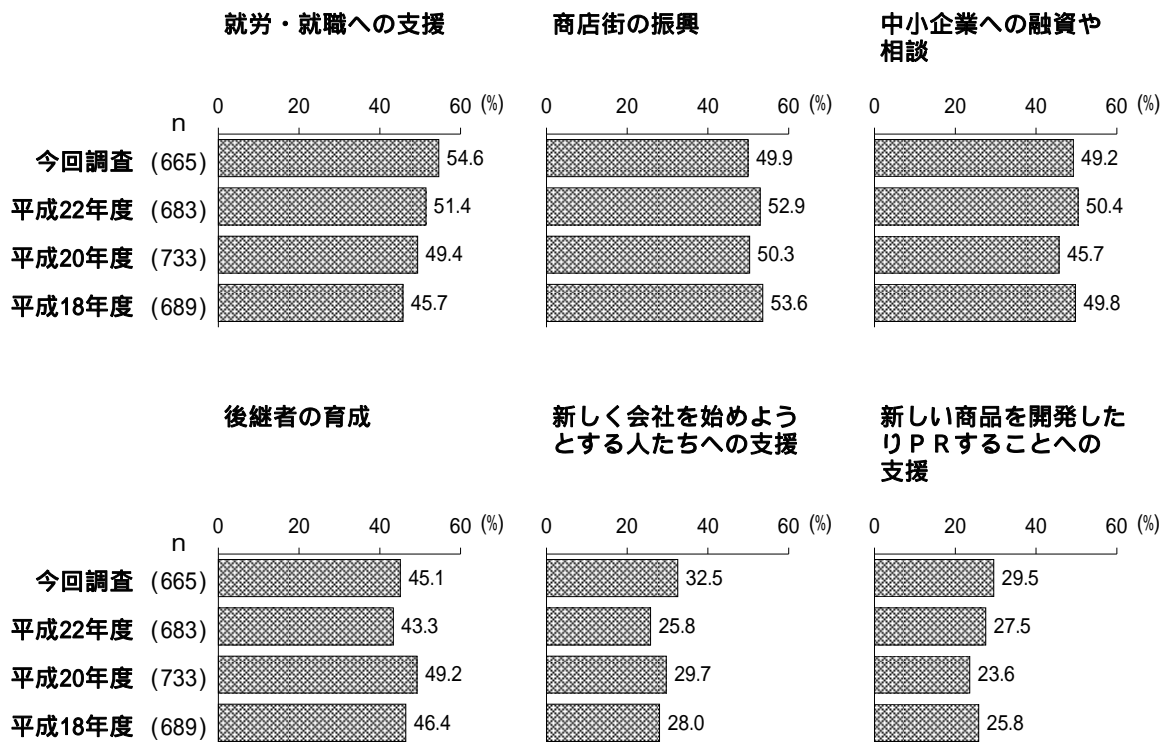
< 図表 1 - 11 > 産業の振興のための取り組みとして大切なもの (複数回答)



産業の振興のため、どのような取り組みが大切かを聞いたところ、「就労・就職への支援」(54.6%) が5割台半ばで最も高くなっている。次いで、「商店街の振興」(49.9%)と「中小企業への融資や相談」(49.2%) が約5割、「後継者の育成」(45.1%) が4割台半ばとなっている。(図表1-11)

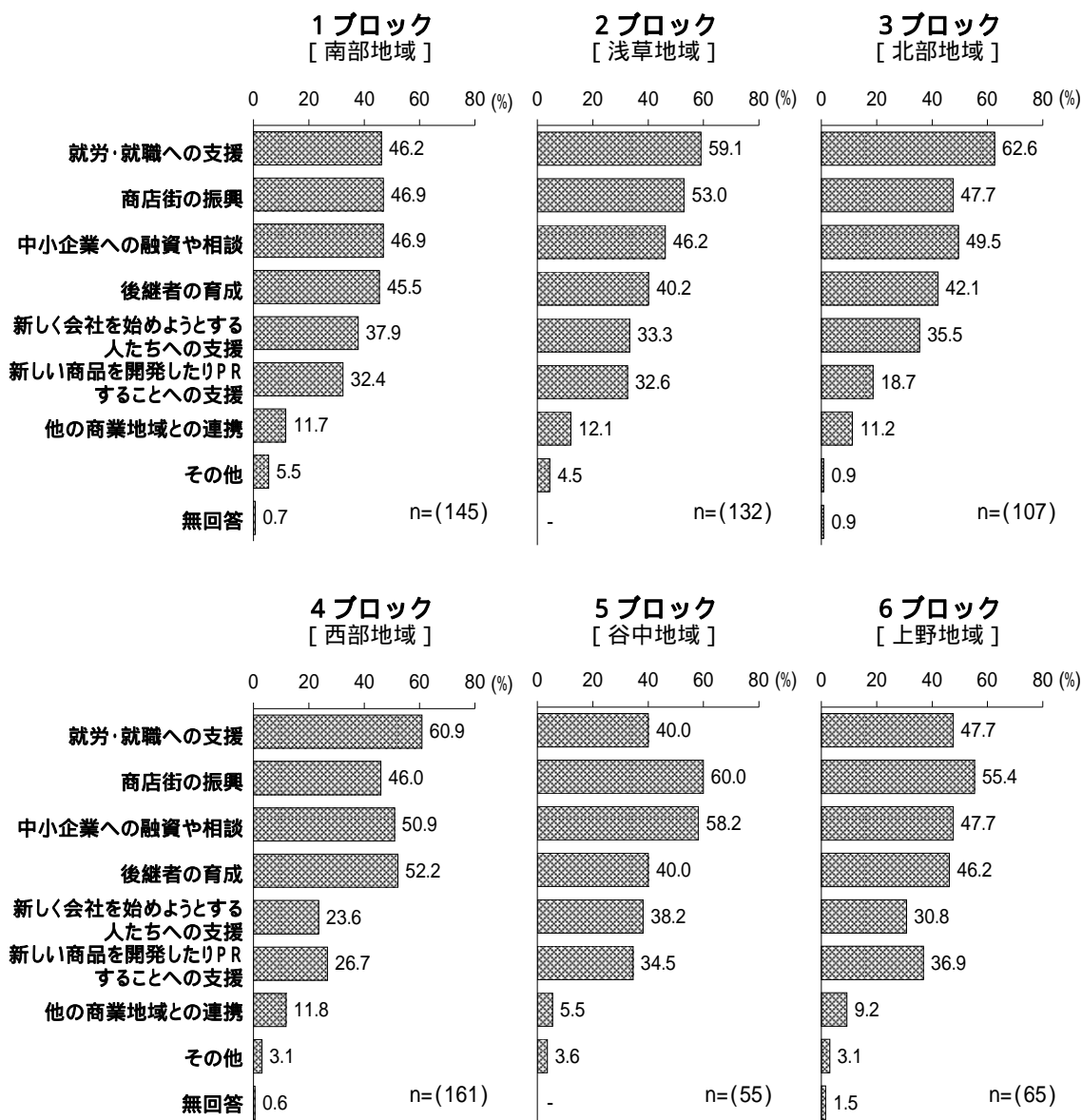
過去の調査結果と比較すると、「就労・就職への支援」(54.6%)は、平成18年度(45.7%)以降増加傾向がみられる。「新しく会社を始めようとする人たちへの支援」(32.5%)は、平成22年度(25.8%)から6.7ポイント増加している。(図表1-12)

<図表1-12> 産業の振興のための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



居住地域別でみると、「就労・就職への支援」は、3ブロック[北部地域]（62.6%）、4ブロック[西部地域]（60.9%）、2ブロック[浅草地域]（59.1%）で6割前後と高くなっている。また、5ブロック[谷中地域]と6ブロック[上野地域]では、「就労・就職への支援」より「商店街の振興」が高くなっている。（図表1 - 13）

<図表1 - 13> 産業の振興のための取り組みとして大切なもの 居住地域別

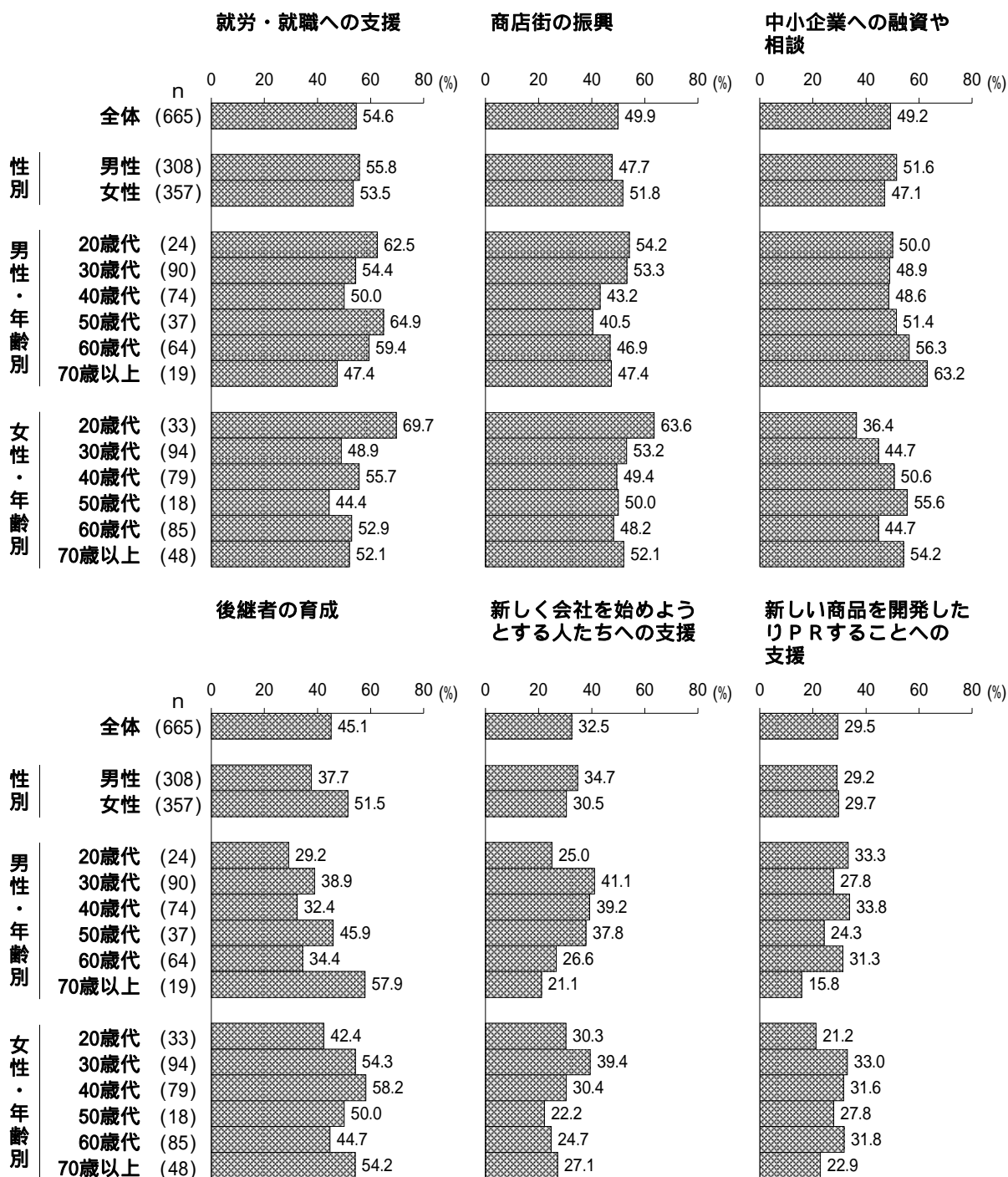


性別でみると、「後継者の育成」は、女性（51.5%）の方が男性（37.7%）より13.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「就労・就職への支援」は、女性の20歳代（69.7%）と男性の50歳代（64.9%）で6割台と高くなっている。「商店街の振興」は、女性の20歳代（63.6%）で6割台半ばと高くなっている。「新しく会社を始めようとする人たちへの支援」は、男女の30歳代で4割前後と高くなっている。

（図表1-14）

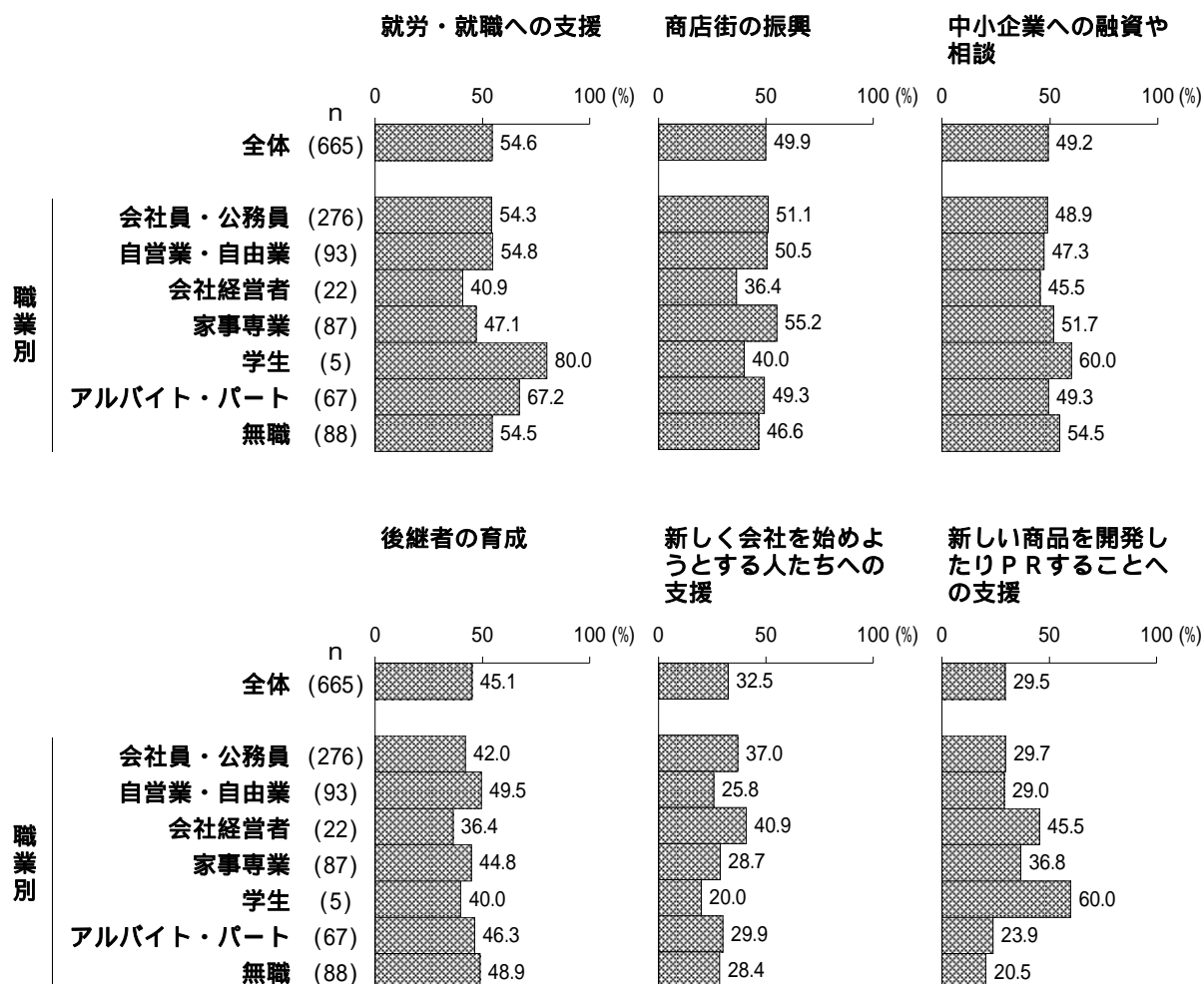
<図表1-14> 産業の振興のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

職業別でみると、「就労・就職への支援」は、アルバイト・パート（67.2%）で約7割と高くなっている。「新しく会社を始めようとする人たちへの支援」は会社員・公務員（37.0%）、「新しい商品を開発したりPRすることへの支援」は家事専業（36.8%）で高くなっている。（図表1 - 15）

<図表1 - 15> 産業の振興のための取り組みとして大切なもの 職業別（上位6項目）



（注）“会社経営者”および“学生”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

2. 観光を振興するための取り組み

台東区には、上野、浅草という、全国的な観光地があり、さまざまな行事などで年間4,000万人を超える人たちが訪れています。

また、史跡や博物館、芸能など、豊かな観光資源があります。

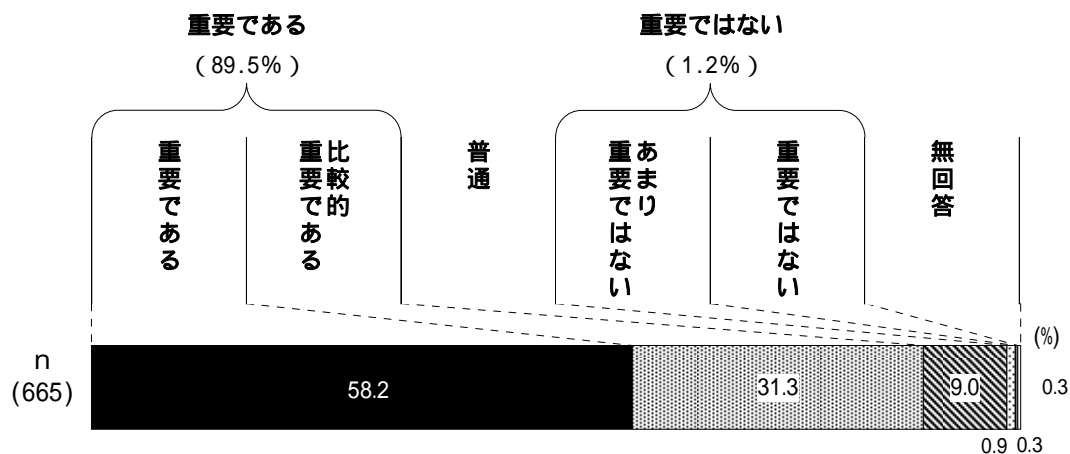
これらの豊富な観光資源を活かして、国内外に情報発信するとともに、より魅力のあるまちにするため、観光コースの整備や観光案内の充実、おもてなし運動などに取り組んでいます。

(1) 観光の振興についての重要度

《重要である》が約9割

問4 観光の振興についてどの程度重要だと思いますか。(1つだけをおつけください)

<図表2-1> 観光の振興についての重要度

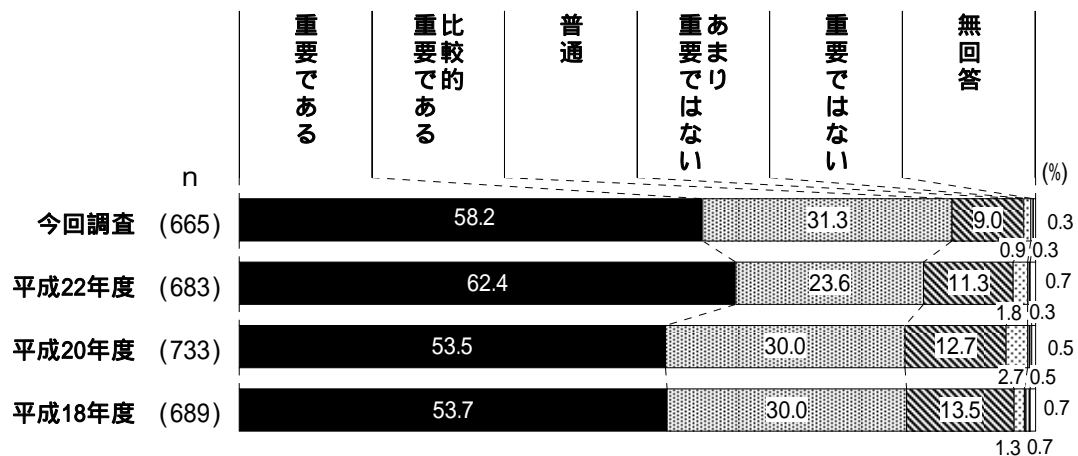


観光の振興がどの程度重要かを聞いたところ、「重要である」(58.2%)が約6割で最も高くなっている。これに「比較的である」(31.3%)を合わせると、《重要である》は89.5%で約9割となっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.2%である。

(図表2-1)

過去の調査結果と比較すると、《重要である》(89.5%)は、平成22年度(86.0%)より3.5ポイント増加している。(図表2-2)

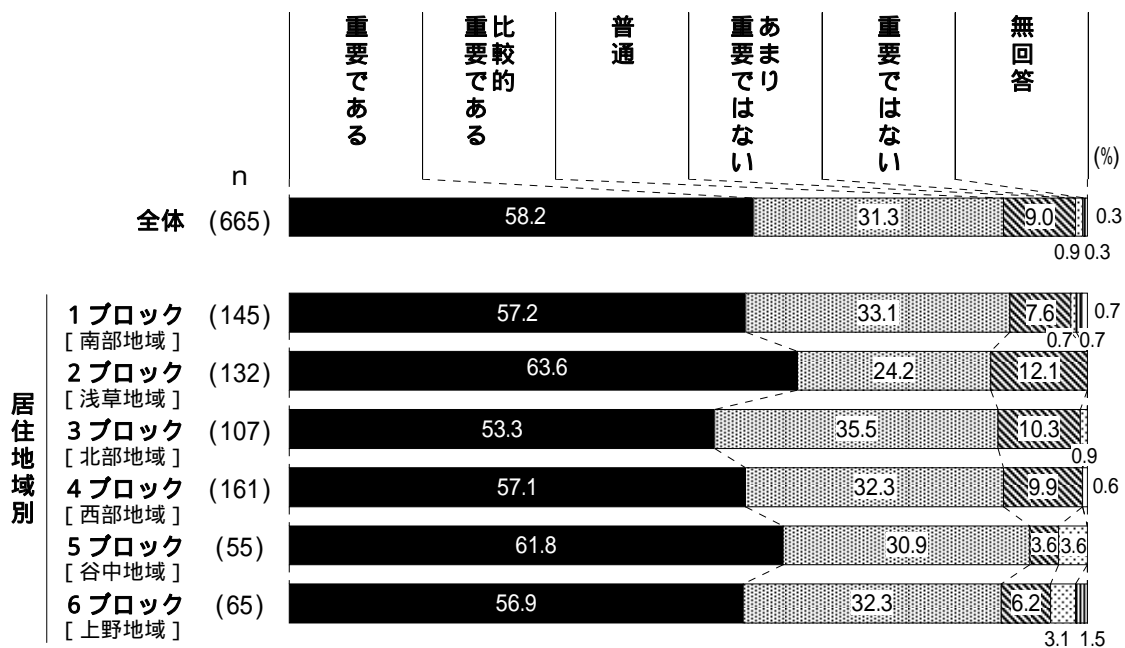
<図表2-2> 観光の振興についての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、地域間で大きな違いはみられない。「重要である」に限れば、2ブロック[浅草地域](63.6%)と5ブロック[谷中地域](61.8%)で6割台と高くなっている。

(図表2-3)

<図表2-3> 観光の振興についての重要度 居住地域別

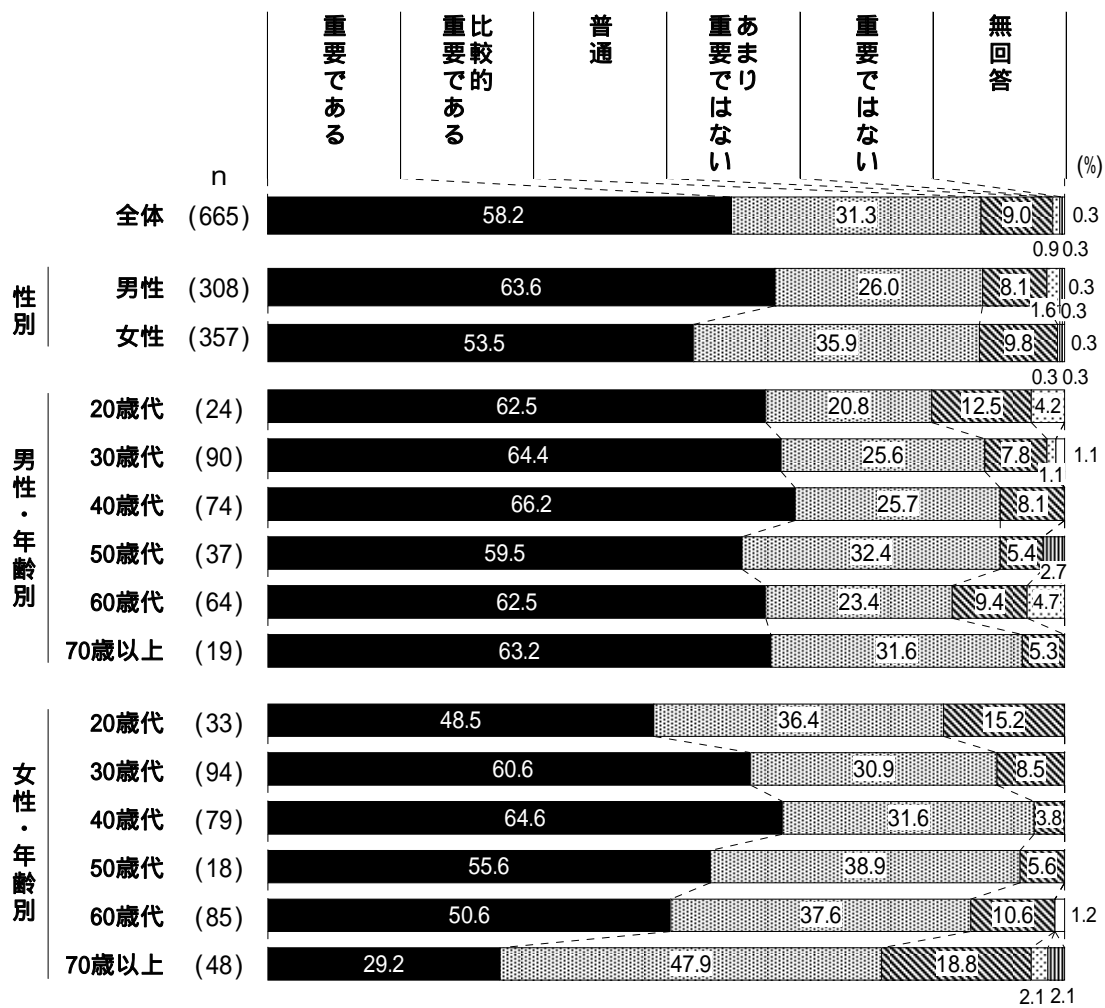


性別でみると、《重要である》に大きな違いはみられないが、「重要である」に限れば、男性（63.6%）の方が女性（53.5%）より10.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の40歳代（96.2%）で9割台半ばと高くなっている。

（図表2 - 4）

<図表2 - 4> 観光の振興についての重要度 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

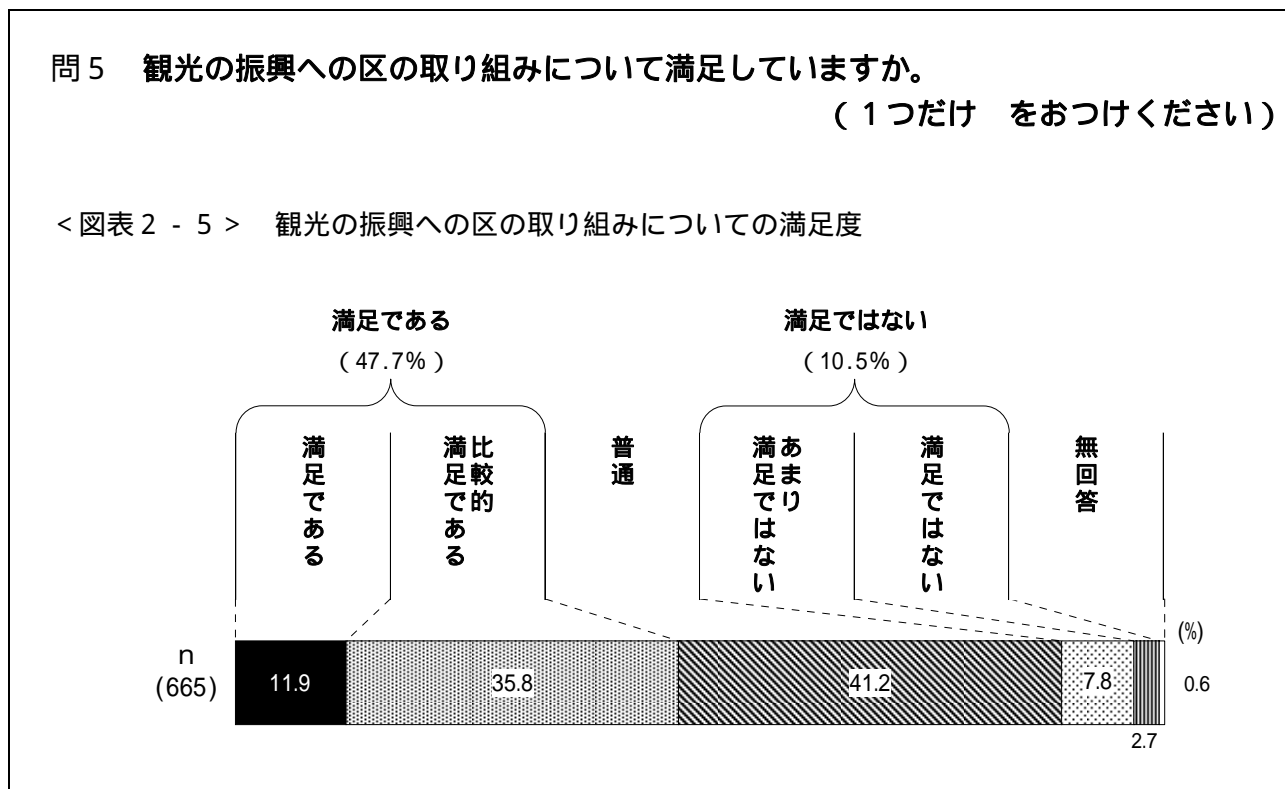
(2) 観光の振興への区の取り組みについての満足度

《満足である》が約5割

問5 観光の振興への区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

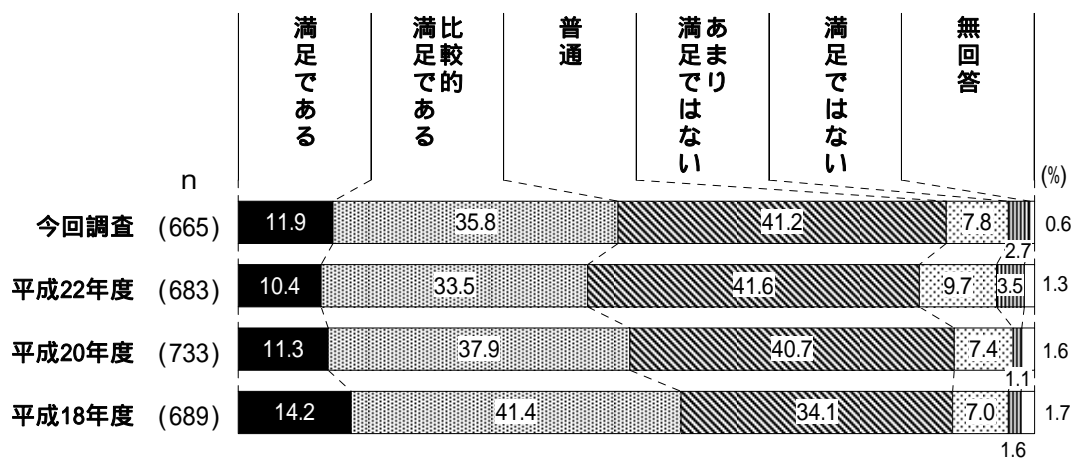
<図表2-5> 観光の振興への区の取り組みについての満足度



観光の振興への区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は47.7%で約5割となっている。一方、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は10.5%である。(図表2-5)

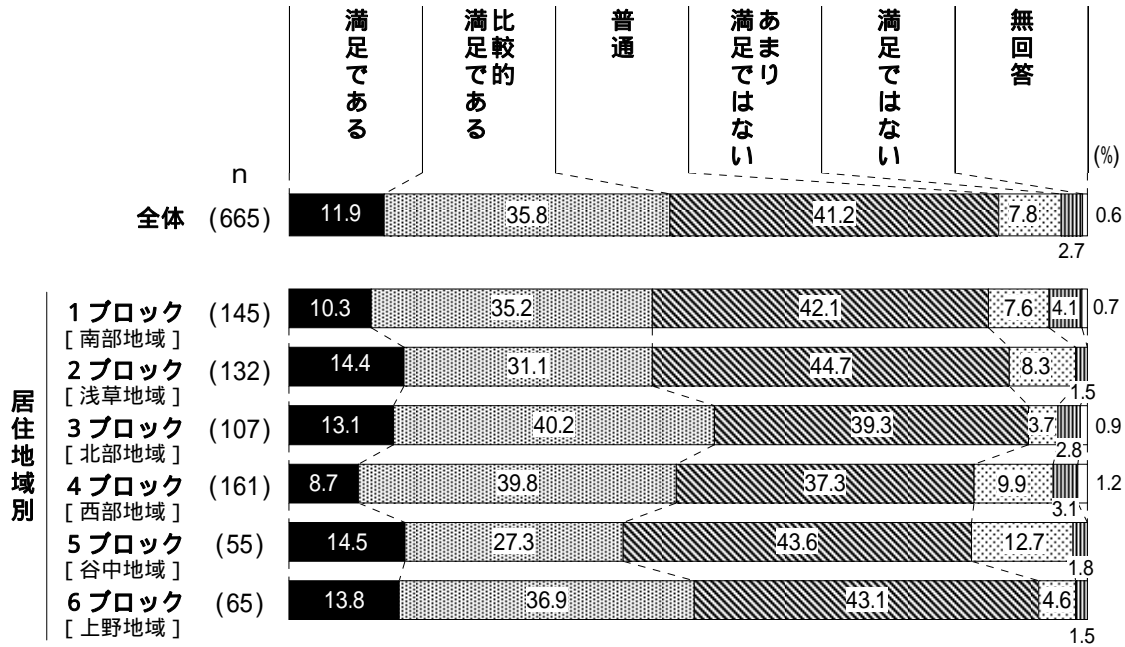
過去の調査結果と比較すると、《満足である》(47.7%)は、平成22年度(43.9%)より3.8ポイント増加している。(図表2-6)

<図表2-6> 観光の振興への区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、3ブロック[北部地域] (53.3%)と6ブロック[上野地域] (50.7%)で5割台と高くなっている。(図表2 - 7)

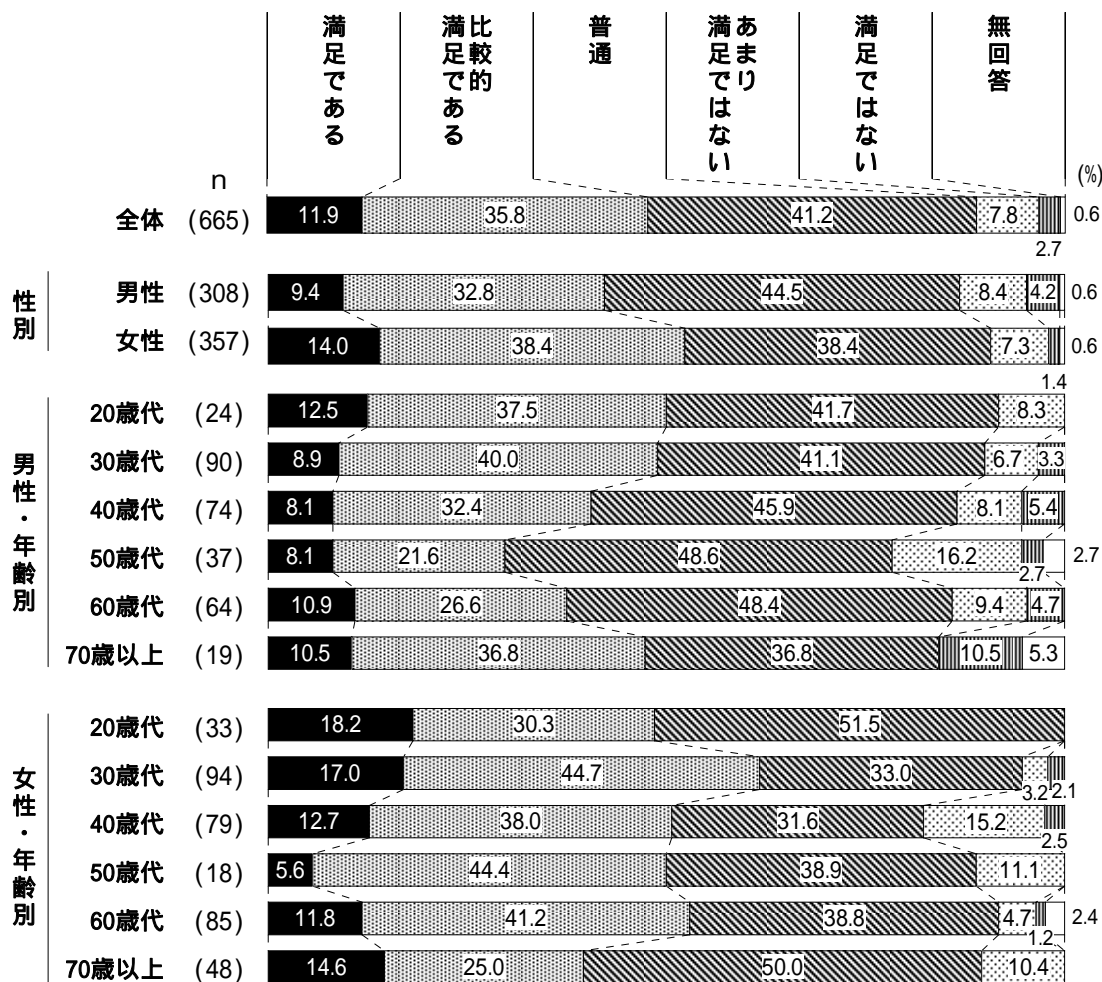
<図表2 - 7> 観光の振興への区の取り組みについての満足度 居住地域別



性別で見ると、《満足である》は、女性（52.4%）の方が男性（42.2%）より10.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、《満足である》は、女性の30歳代（61.7%）で6割を超えて高くなっている。一方、《満足ではない》は、男性の50歳代（18.9%）と女性の40歳代（17.7%）で約2割と高くなっている。（図表2 - 8）

<図表2 - 8> 観光の振興への区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別



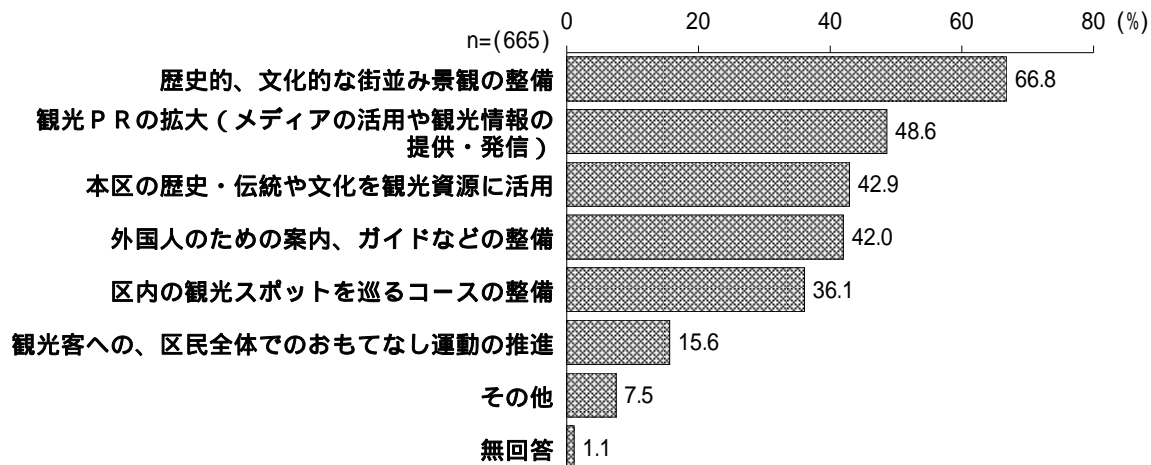
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(3) 観光の振興のための取り組みとして大切なもの

「歴史的、文化的な街並み景観の整備」が6割台半ば

問6 観光の振興のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。
(3つまで をおつけください)

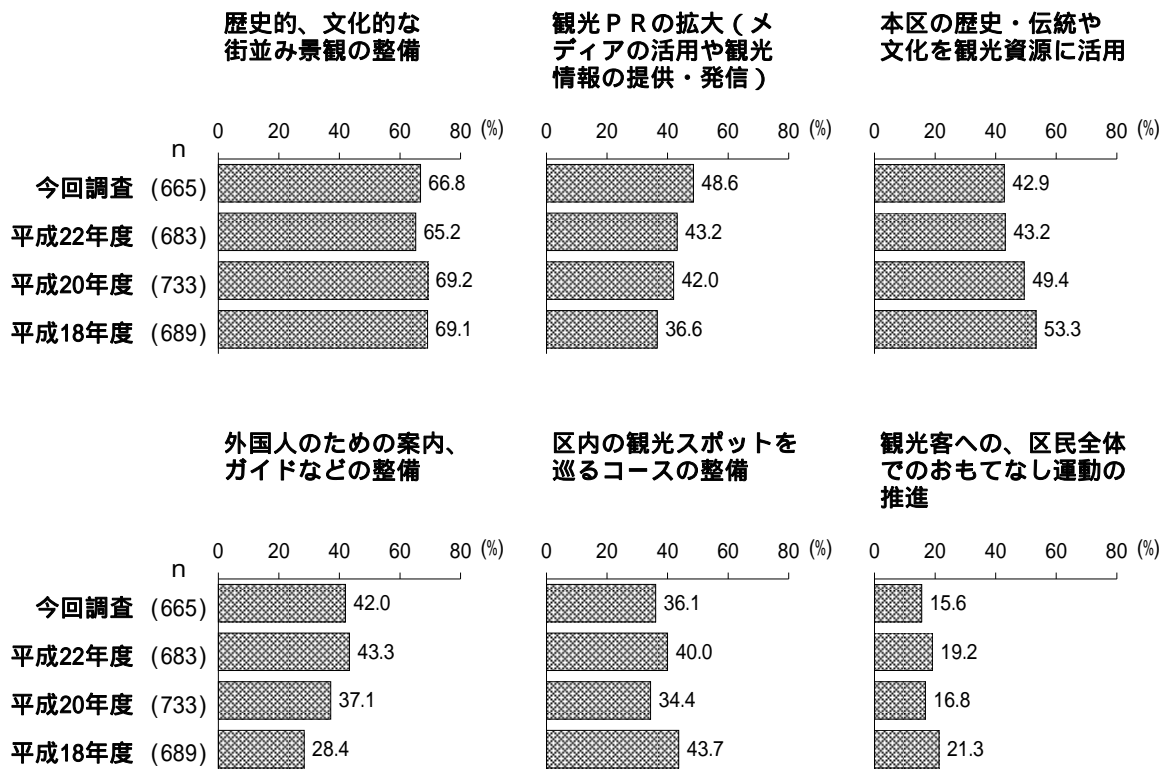
< 図表 2 - 9 > 観光の振興のための取り組みとして大切なもの (複数回答)



観光の振興のための取り組みとして、大切なものを聞いたところ、「歴史的、文化的な街並み景観の整備」(66.8%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「観光PRの拡大(メディアの活用や観光情報の提供・発信)」(48.6%)が約5割、「本区の歴史・伝統や文化を観光資源に活用」(42.9%)が4割を超える。(図表2-9)

過去の調査結果と比較すると、「観光PRの拡大(メディアの活用や観光情報の提供・発信)」(48.6%)は、平成18年度(36.6%)以降増加傾向がみられる。(図表2-10)

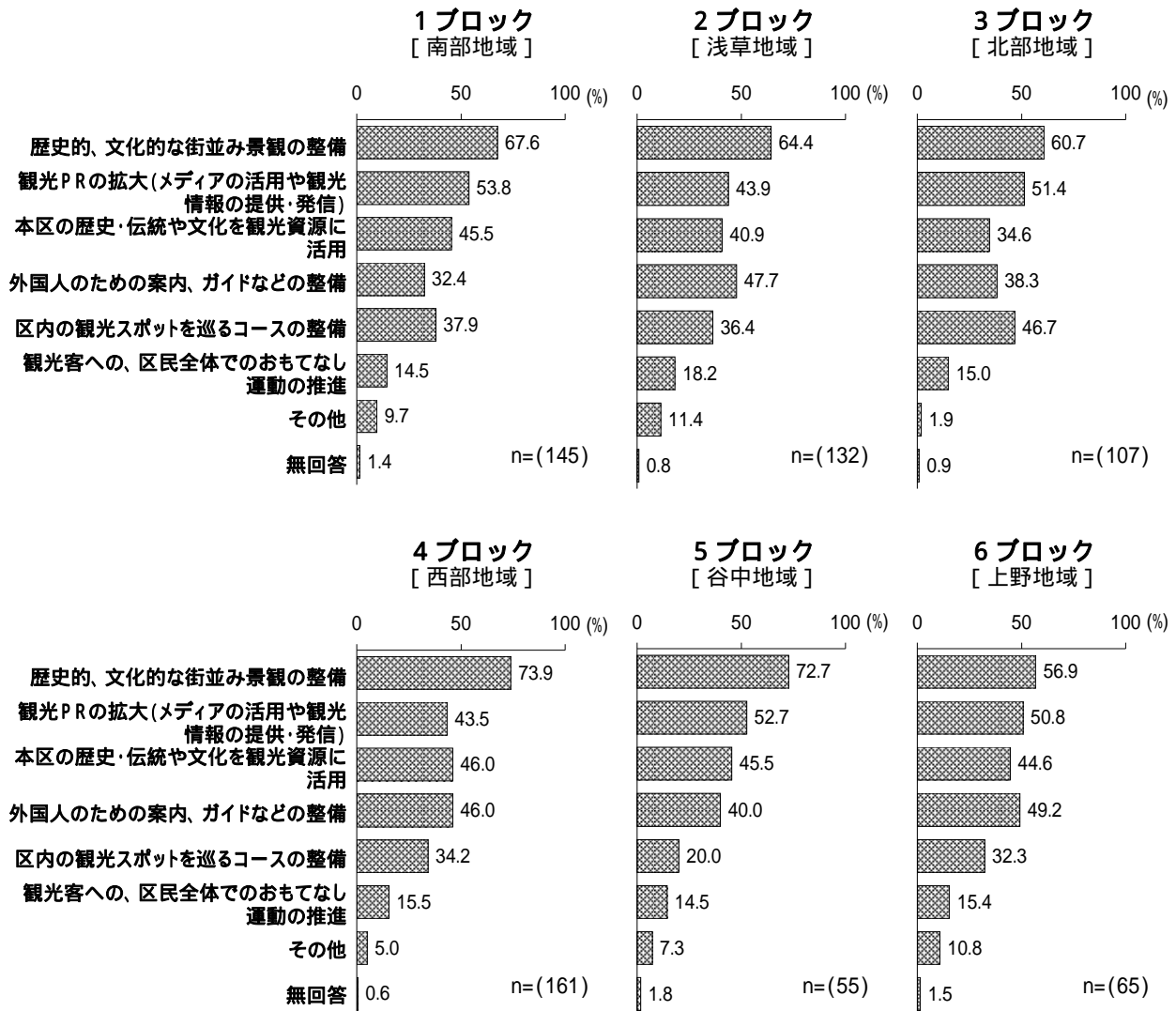
<図表2-10> 観光の振興のための取り組みとして大切なもの 経年比較



平成18年度は「国内、国外へのPRの拡大」、平成20年度と平成22年度は「観光PRの拡大」、今回調査は「観光PRの拡大(メディアの活用や観光情報の提供・発信)」

居住地域別でみると、いずれの地域でも「歴史的、文化的な街並み景観の整備」が最も高く、特に4ブロック[西部地域]（73.9%）と5ブロック[谷中地域]（72.7%）で7割台となっている。また、「区内の観光スポットを巡るコースの整備」は、3ブロック[北部地域]（46.7%）で4割台半ばと高くなっている。（図表2 - 11）

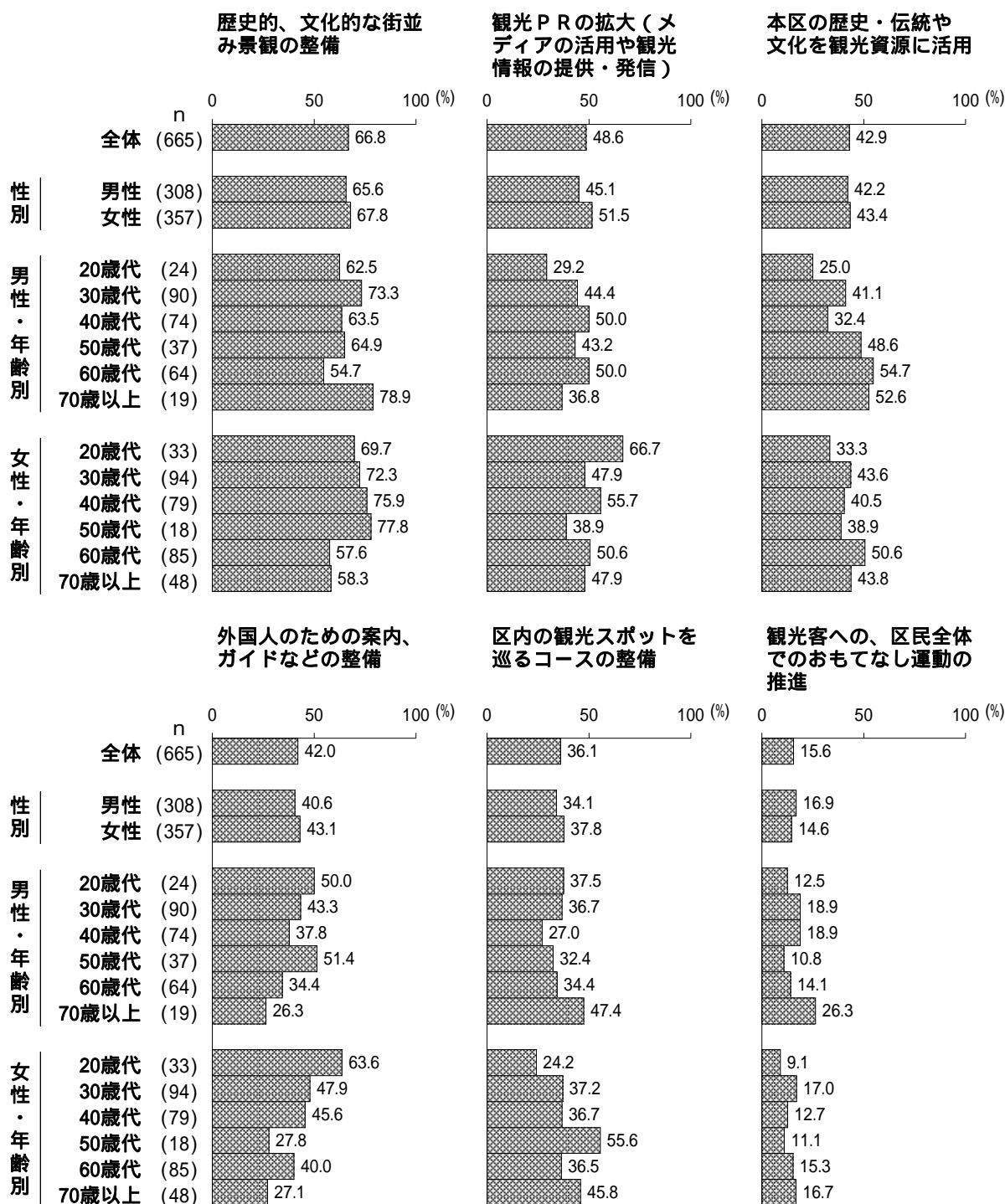
<図表2 - 11> 観光の振興のための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「観光PRの拡大（メディアの活用や観光情報の提供・発信）」は、女性（51.5%）の方が男性（45.1%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「歴史的、文化的な街並み景観の整備」は、男性の30歳代（73.3%）、女性の30歳代（72.3%）と40歳代（75.9%）で7割台と高くなっている。「観光PRの拡大（メディアの活用や観光情報の提供・発信）」と「外国人のための案内、ガイドなどの整備」は、いずれも女性の20歳代で6割台半ばと最も高くなっている。（図表2 - 12）

<図表2 - 12> 観光の振興のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

3 . 文化を振興するための取り組み

台東区には、数多くの史跡や芸術、芸能など、豊かな文化資源があります。

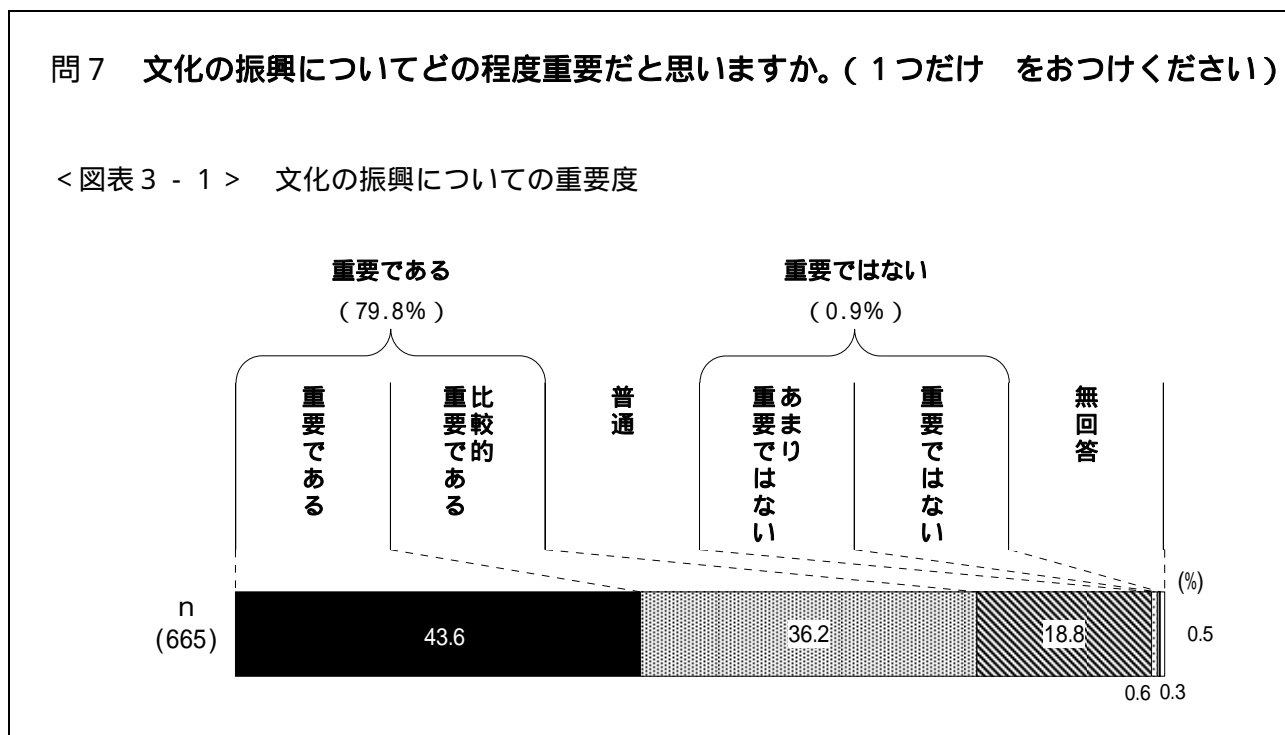
この特徴を活かして、より豊かな生活を創っていくため、伝統的な文化の保存、新たな文化の創造、芸術家と区民の創作活動の振興などに取り組んでいます。

(1) 文化の振興についての重要度

《重要である》が約 8 割

問7 文化の振興についてどの程度重要だと思いますか。(1 つだけ をおつけください)

< 図表 3 - 1 > 文化の振興についての重要度

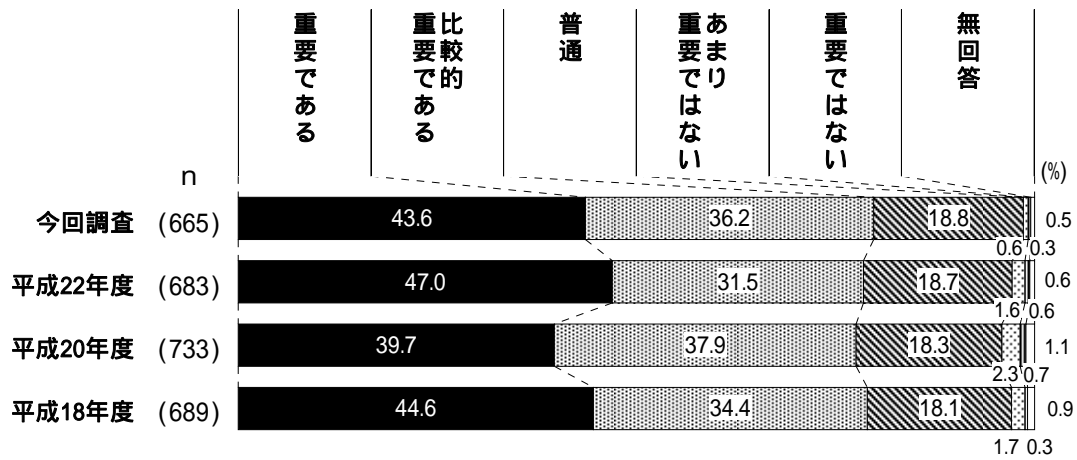


文化の振興についての重要度を聞いたところ、「重要である」(43.6%) が 4 割台半ばで最も高く、これに「比較的重要な」(36.2%) を合わせると、《重要である》は 79.8% で約 8 割となっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計) は 0.9% である。

(図表 3 - 1)

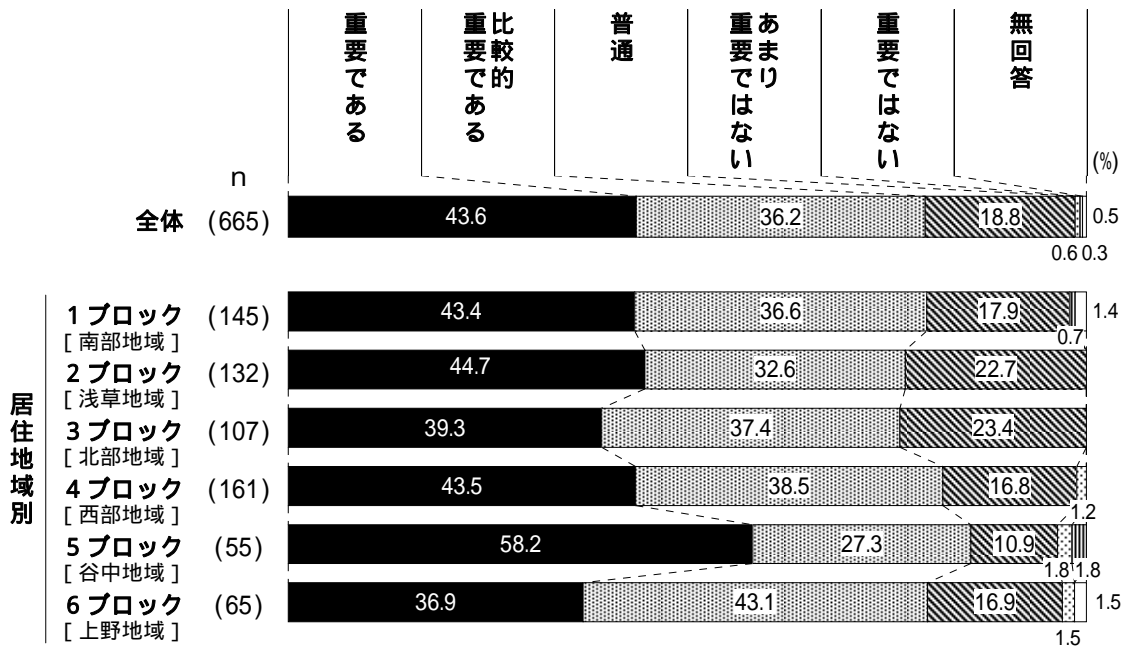
過去の調査結果と比較すると、《重要である》に大きな変化はみられない。(図表3 - 2)

<図表3 - 2> 文化の振興についての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、5ブロック[谷中地域] (85.5%) で8割台半ばと最も高くなっている。(図表3 - 3)

<図表3 - 3> 文化の振興についての重要度 居住地域別



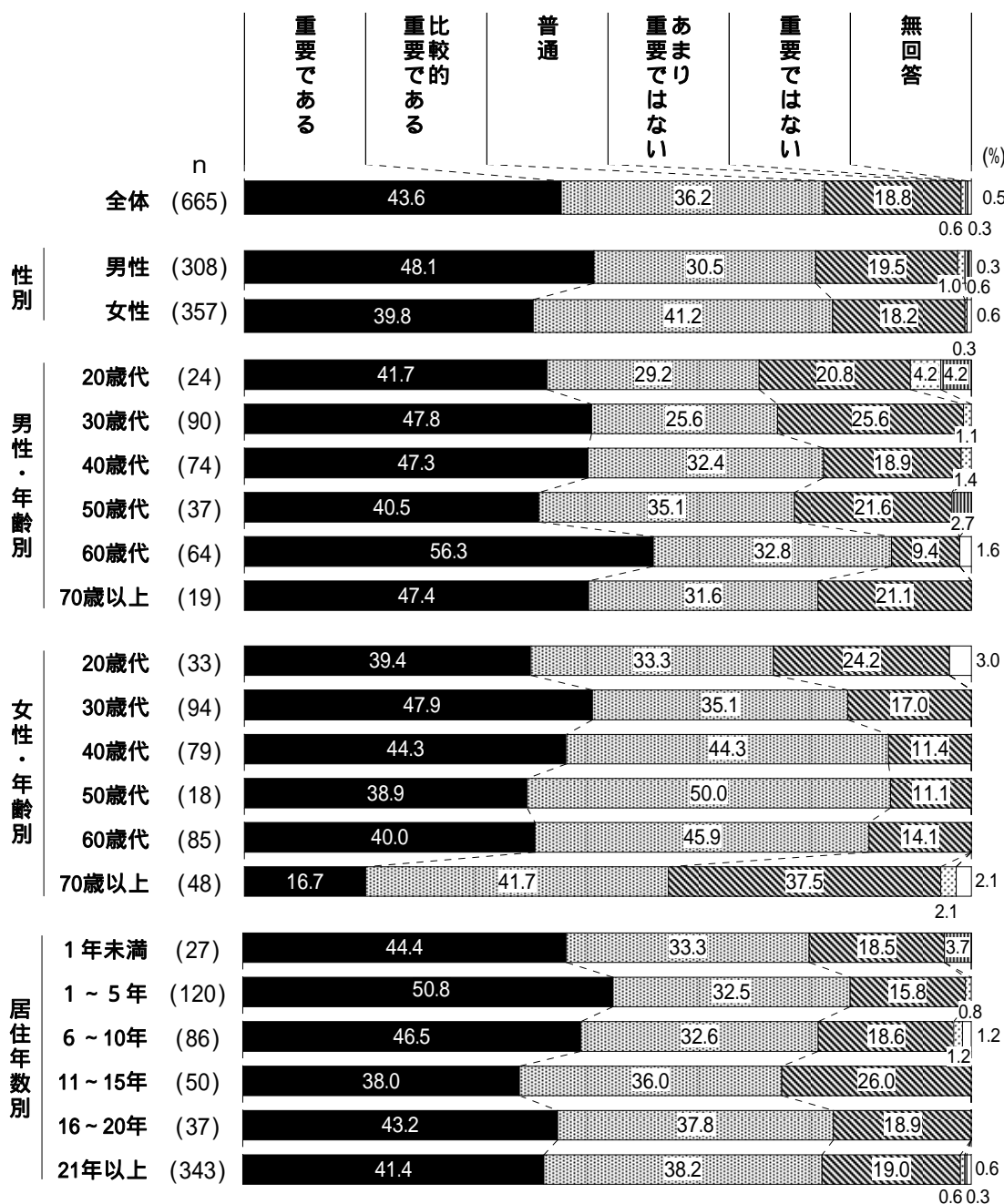
性別でみると、《重要である》に大きな違いはみられないが、「重要である」に限れば、男性（48.1%）の方が女性（39.8%）より8.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、男性の60歳代（89.1%）と女性の40歳代（88.6%）で約9割と高くなっている。

居住年数別でみると、《重要である》は、1～5年（83.3%）で8割台半ばと最も高くなっている。

（図表3 - 4）

<図表3 - 4> 文化の振興についての重要度 性別/性・年齢別/居住年数別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

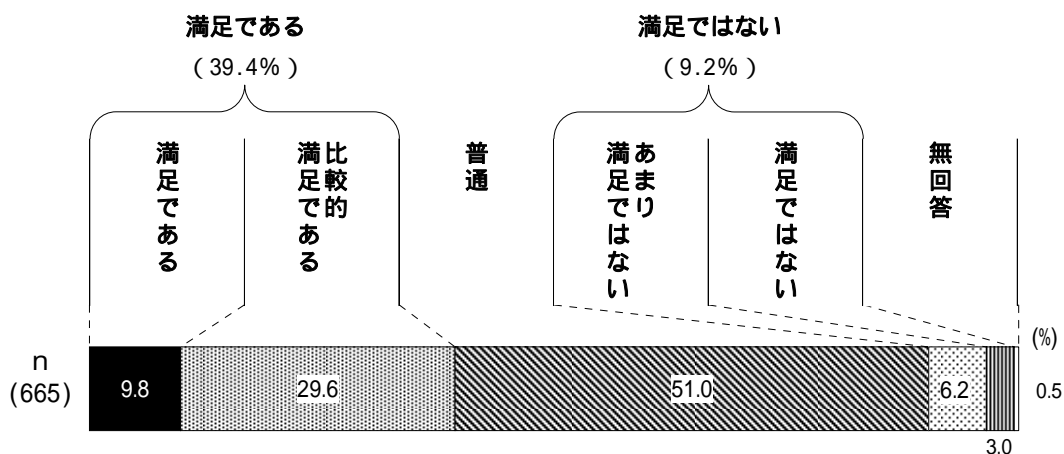
(2) 文化の振興への区の取り組みについての満足度

「普通」が5割を超え、「満足である」は約4割

問8 文化の振興への区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

<図表3-5> 文化の振興への区の取り組みについての満足度

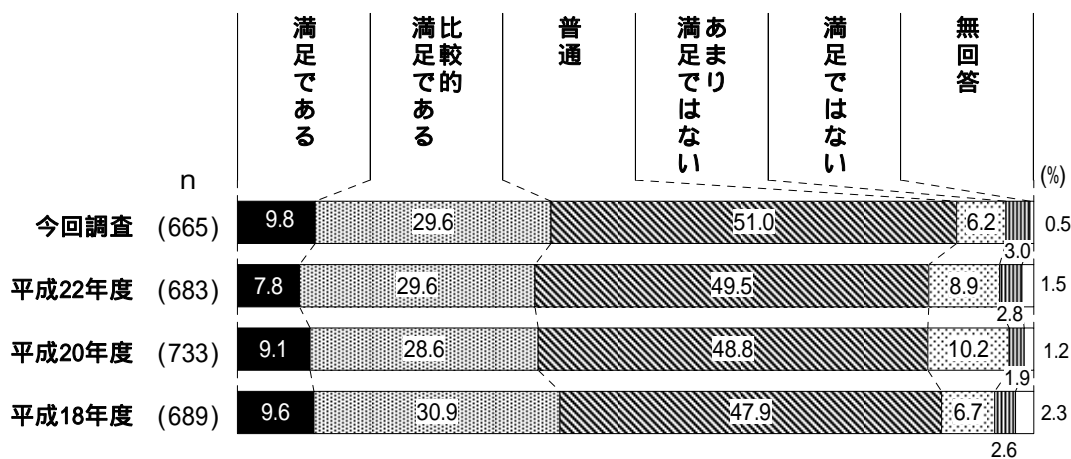


文化の振興への区の取り組みについて、どの程度満足しているかを聞いたところ、「普通」(51.0%)が5割を超えて最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は39.4%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は9.2%である。

(図表3-5)

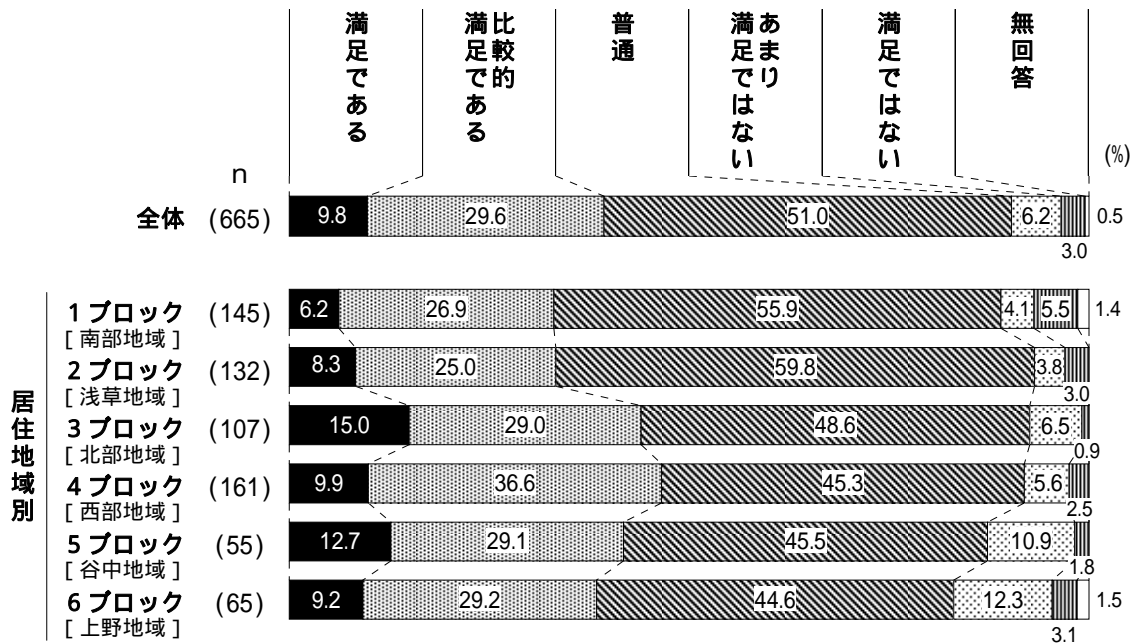
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表3-6)

<図表3-6> 文化の振興への区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、4ブロック[西部地域] (46.5%)と3ブロック[北部地域] (44.0%)で4割台半ばと高くなっている。一方、《満足ではない》は、6ブロック[上野地域] (15.4%)と5ブロック[谷中地域] (12.7%)で1割台となっている。(図表3 - 7)

<図表3 - 7> 文化の振興への区の取り組みについての満足度 居住地域別

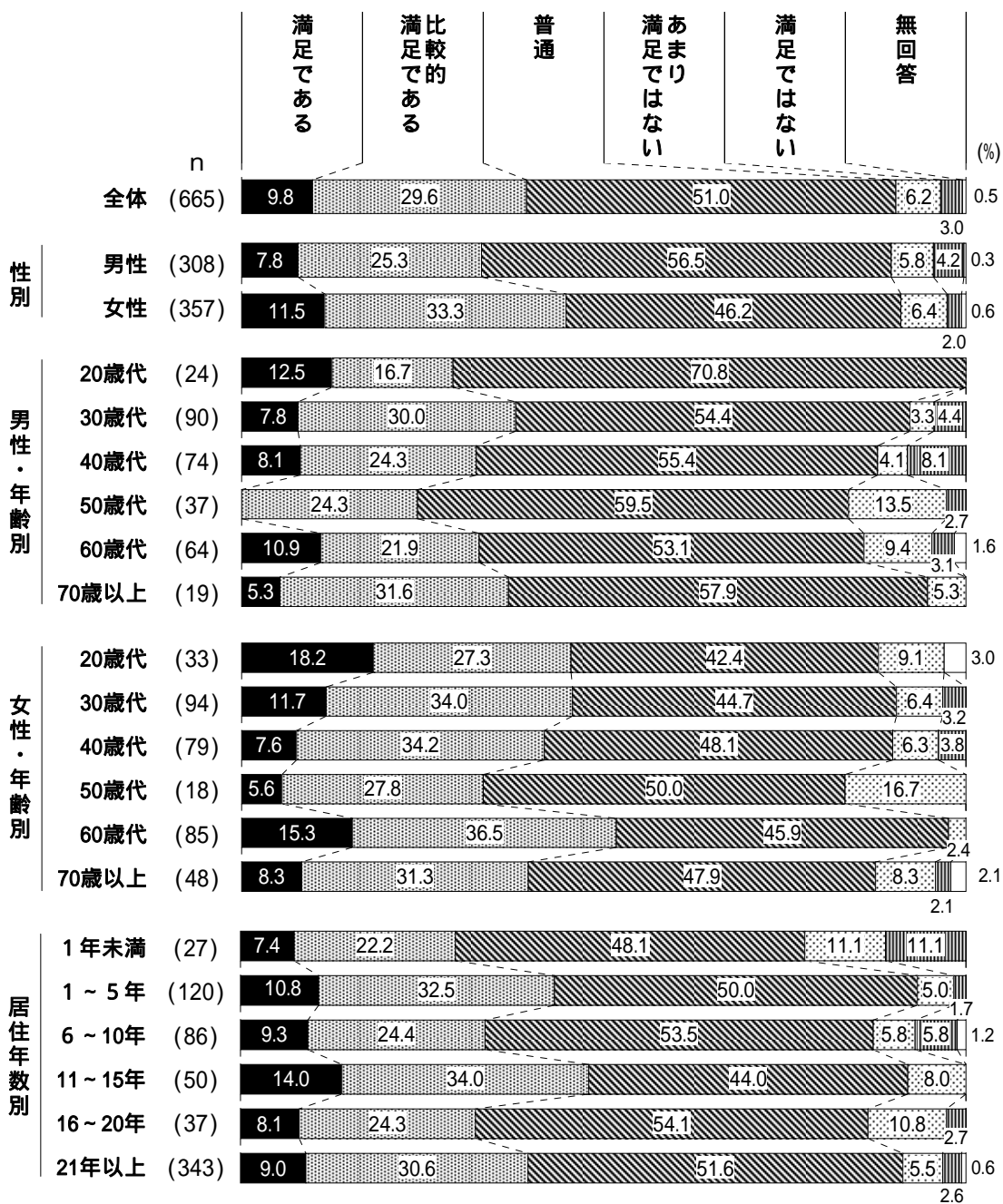


性別でみると、《満足である》は、女性（44.8%）の方が男性（33.1%）より11.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の60歳代（51.8%）で5割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、《満足である》は、1～5年（43.3%）と11～15年（48.0%）で4割台と高くなっている。（図表3-8）

<図表3-8> 文化の振興への区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別/居住年数別



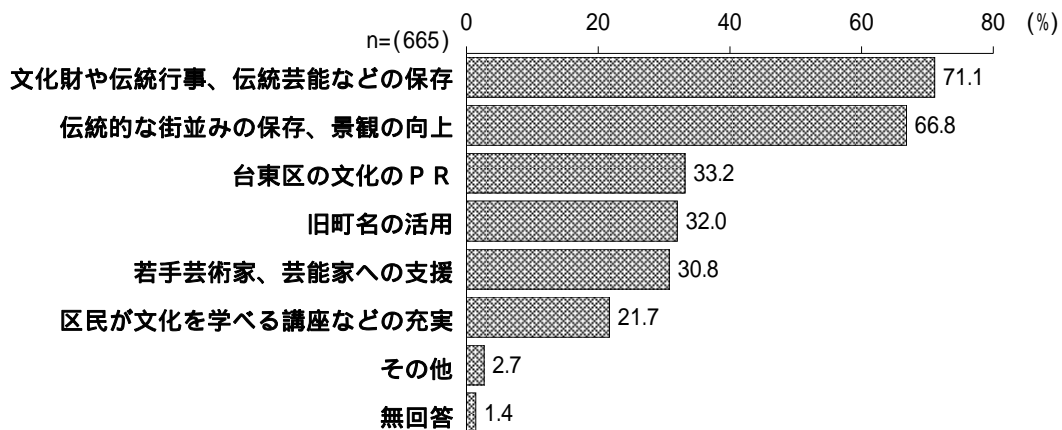
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(3) 文化の振興のための取り組みとして大切なもの

「文化財や伝統行事、伝統芸能などの保存」が7割を超える

問9 文化の振興のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。
(3つまで をおつけください)

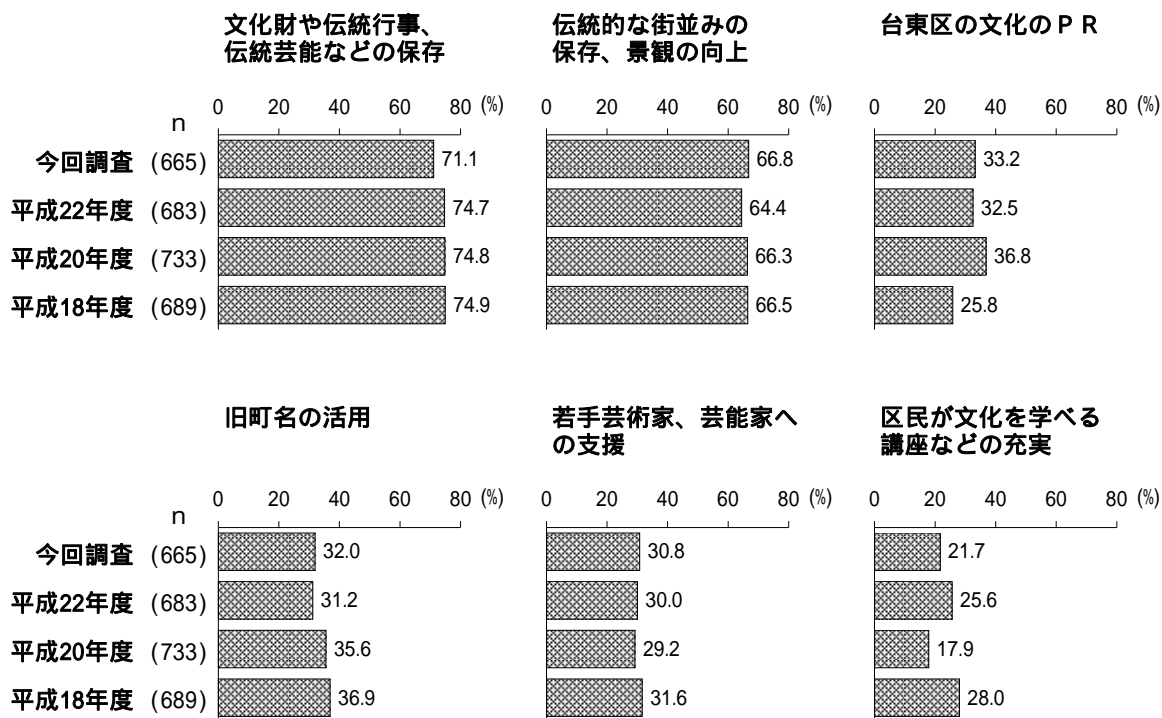
< 図表 3 - 9 > 文化の振興のための取り組みとして大切なもの (複数回答)



文化の振興のための取り組みとして、何が大切かを聞いたところ、「文化財や伝統行事、伝統芸能などの保存」(71.1%)が7割を超えて最も高くなっている。次いで、「伝統的な街並みの保存、景観の向上」(66.8%)が6割台半ばと、これら上位2つが高くなっている。(図表3-9)

過去の調査結果と比較すると、「文化財や伝統行事、伝統芸能などの保存」(71.1%)は平成22年度(74.7%)から3.6ポイント、「区民が文化を学べる講座などの充実」(21.7%)は平成22年度(25.6%)から3.9ポイント減少している。(図表3-10)

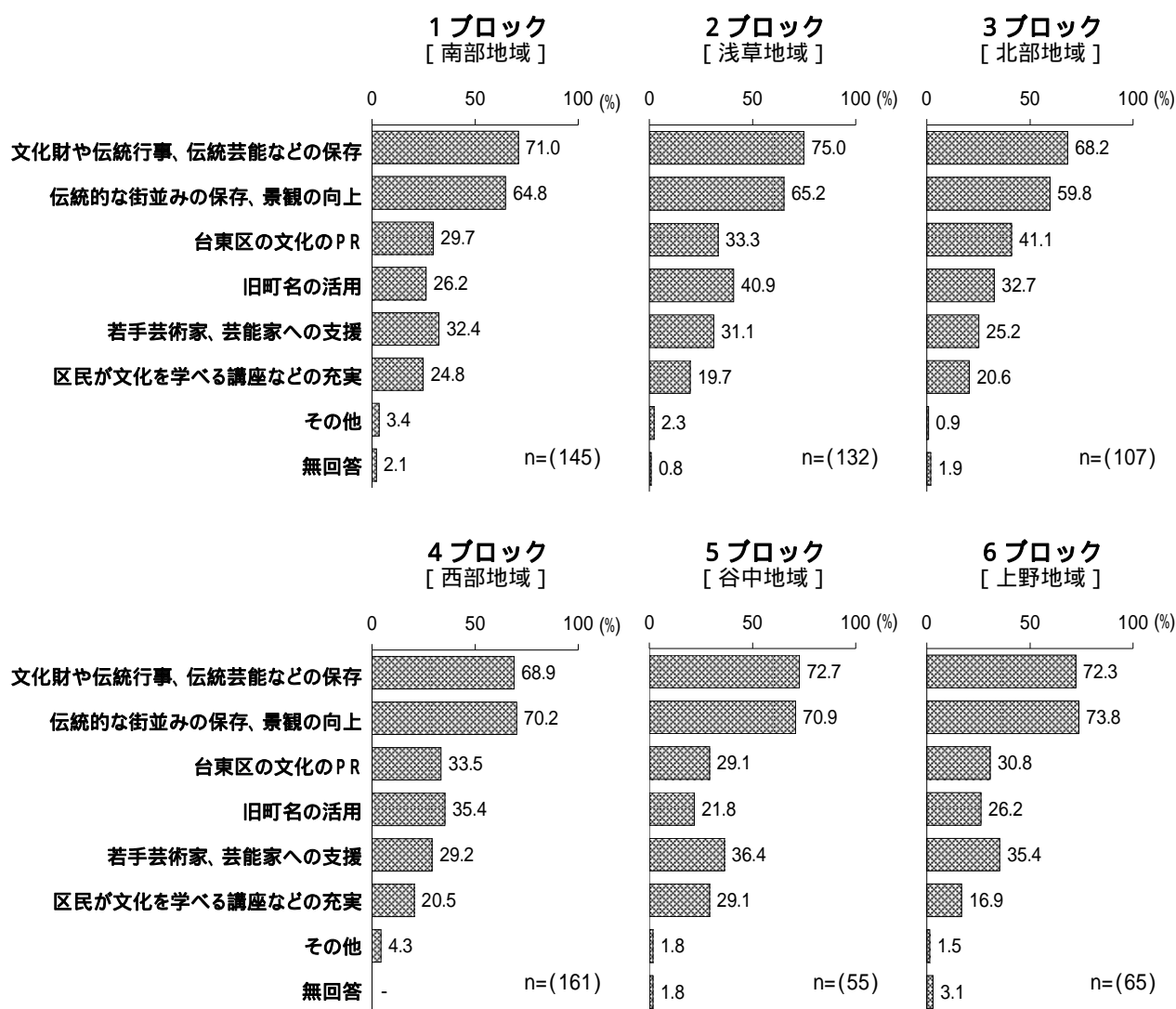
<図表3-10> 文化の振興のための取り組みとして大切なもの 経年比較



平成18年度は「国内国外への、台東区の文化のPR」、平成20年度以降は「台東区の文化のPR」

居住地域別でみると、いずれの地域でも「文化財や伝統行事、伝統芸能などの保存」と「伝統的な街並みの保存、景観の向上」が高くなっている。その他の項目では、「台東区の文化のPR」が3ブロック[北部地域]（41.1%）で、「旧町名の活用」が2ブロック[浅草地域]（40.9%）でそれぞれ4割台と高くなっている。（図表3 - 11）

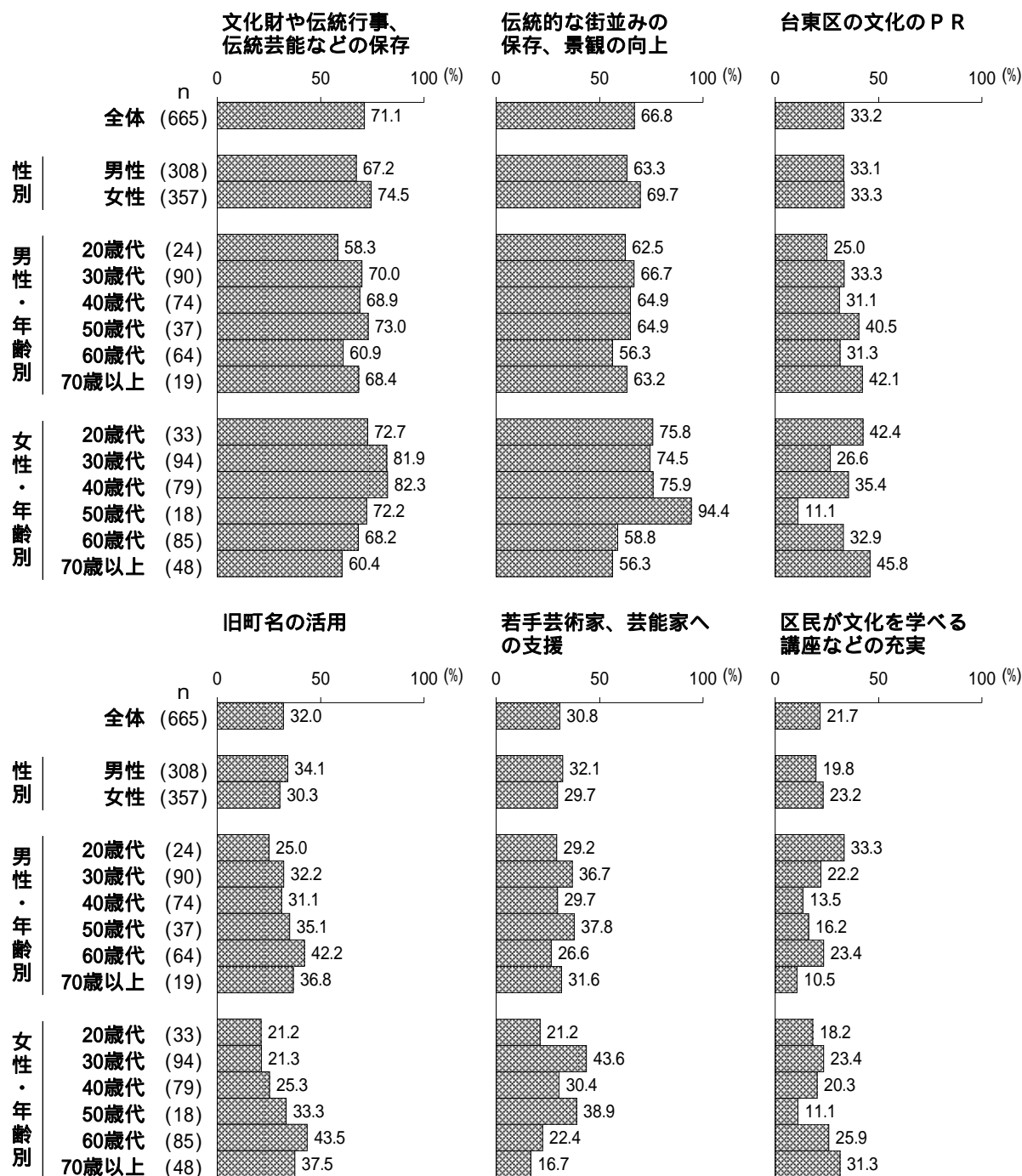
<図表3 - 11> 文化の振興のための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別でみると、「文化財や伝統行事、伝統芸能などの保存」は、女性（74.5%）の方が男性（67.2%）より7.3ポイント、「伝統的な街並みの保存、景観の向上」は、女性（69.7%）の方が男性（63.3%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「文化財や伝統行事、伝統芸能などの保存」は、女性の30歳代（81.9%）と40歳代（82.3%）で8割を超えて高くなっている。「伝統的な街並みの保存、景観の向上」は、女性の20歳代から40歳代で7割台半ばと高くなっている。（図表3 - 12）

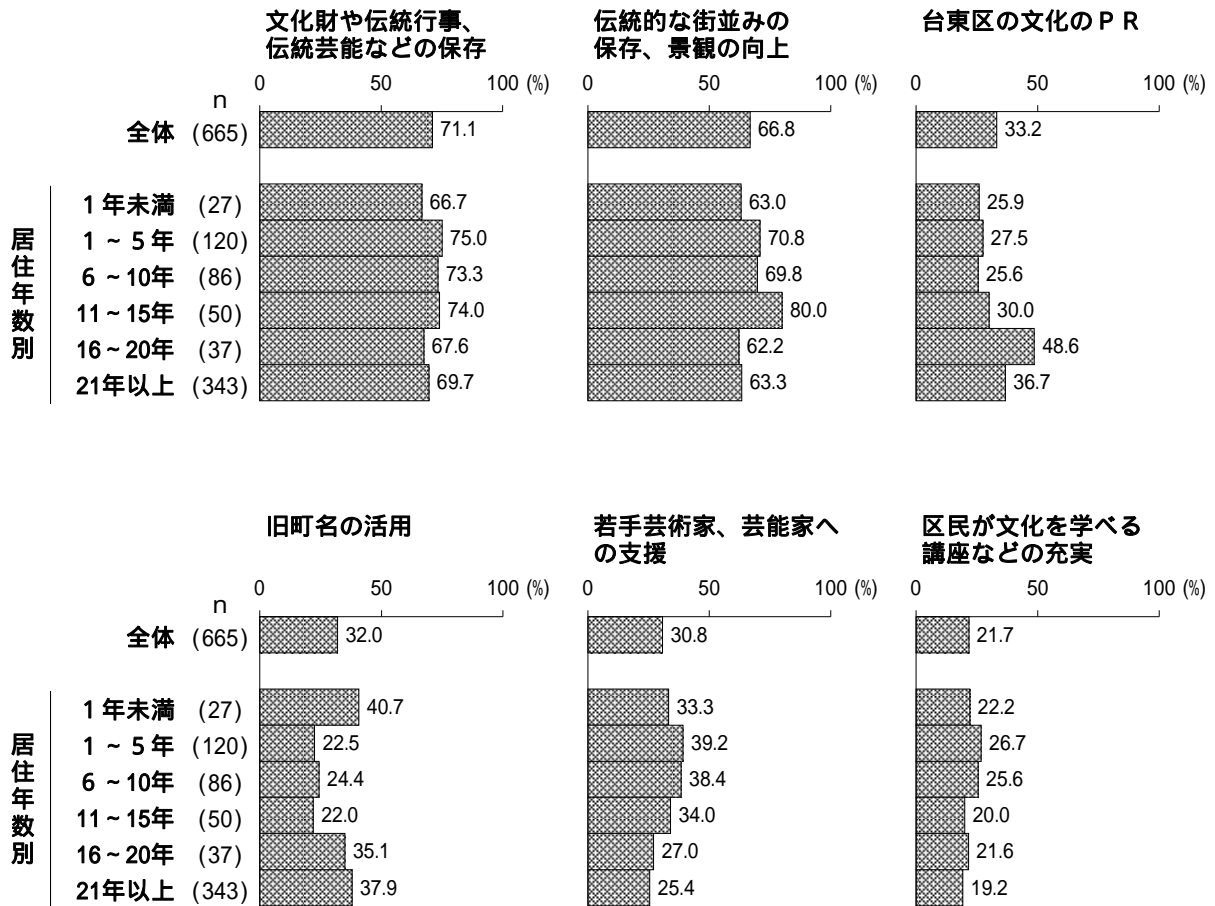
<図表3 - 12> 文化の振興のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

居住年数別でみると、「伝統的な街並みの保存、景観の向上」は、11～15年（80.0%）で8割と高くなっている。「台東区の文化のPR」は、16～20年（48.6%）で約5割と高くなっている。（図表3 - 13）

<図表3 - 13> 文化の振興のための取り組みとして大切なもの 居住年数別



4. まちづくりのための取り組み

台東区は、地域ごとにまちの個性があります。

その個性を活かし、区民だれもが安全で快適な生活を確保できるまちづくりを推進していきます。

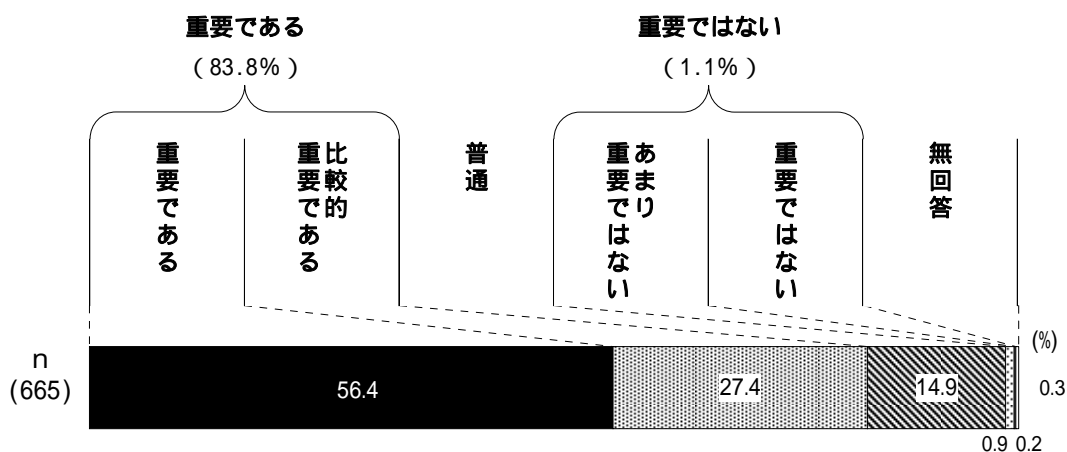
区では、交通、土地利用などの基盤整備、街並み景観の誘導、住まいの環境整備やマンション対策、防災・生活安全の強化などに取り組んでいます。

(1) まちづくりについての重要度

《重要である》が8割台半ば

問10 まちづくりについてどの程度重要だと思いますか。(1つだけをおつけください)

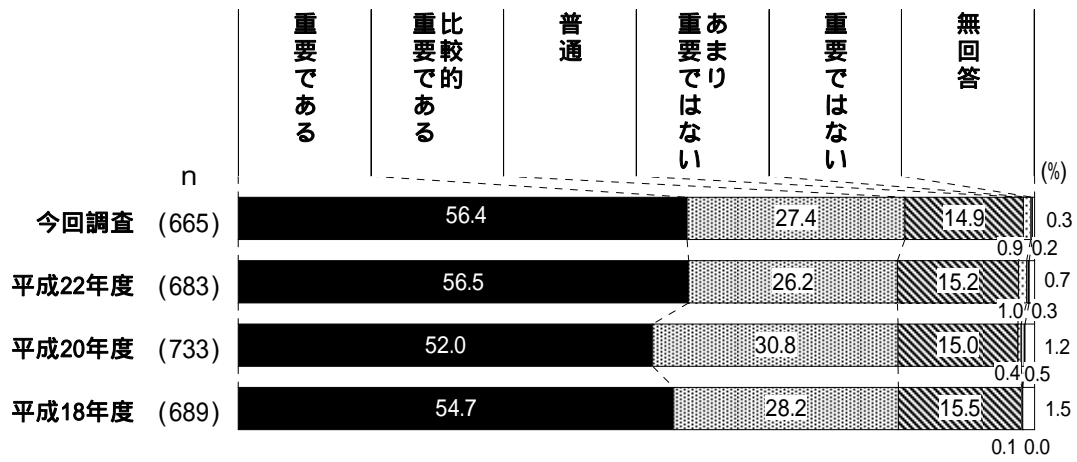
<図表4-1> まちづくりについての重要度



まちづくりについてどの程度重要かを聞いたところ、「重要である」(56.4%)が5割台半ばと最も高くなっている。これに「比較的重要である」(27.4%)を合わせると、《重要である》は83.8%で8割台半ばとなっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.1%である。(図表4-1)

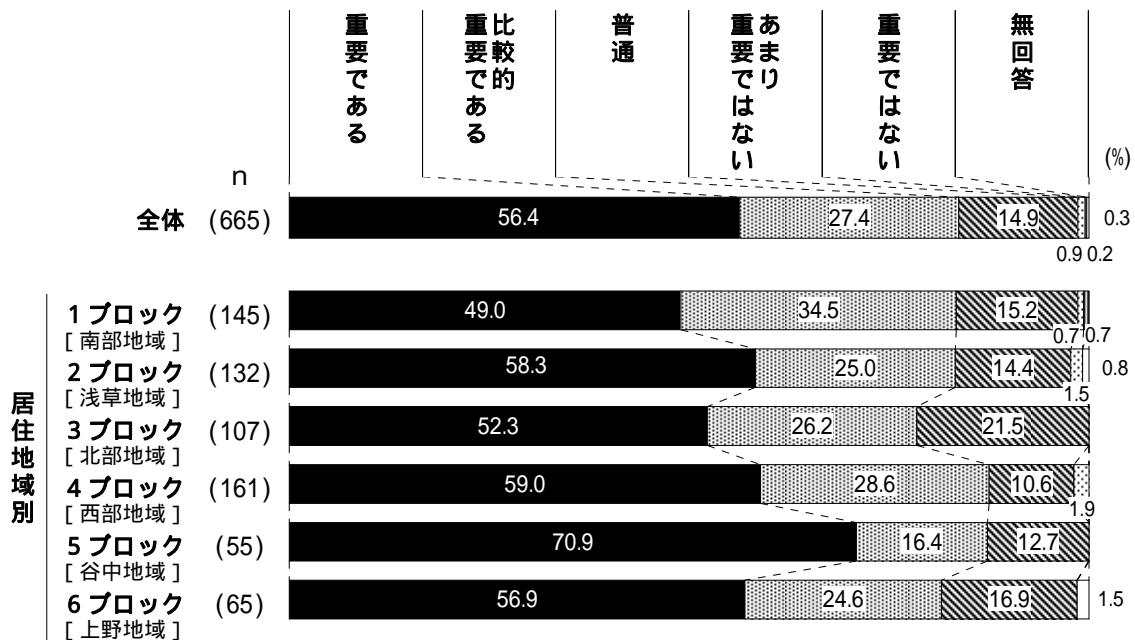
過去の調査結果と比較すると、《重要である》に大きな変化はみられない。(図表4 - 2)

<図表4 - 2> まちづくりについての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、4ブロック[西部地域] (87.6%)と5ブロック[谷中地域] (87.3%)で約9割と高くなっている。「重要である」に限れば、5ブロック[谷中地域] (70.9%)で7割と特に高くなっている。(図表4 - 3)

<図表4 - 3> まちづくりについての重要度 居住地域別

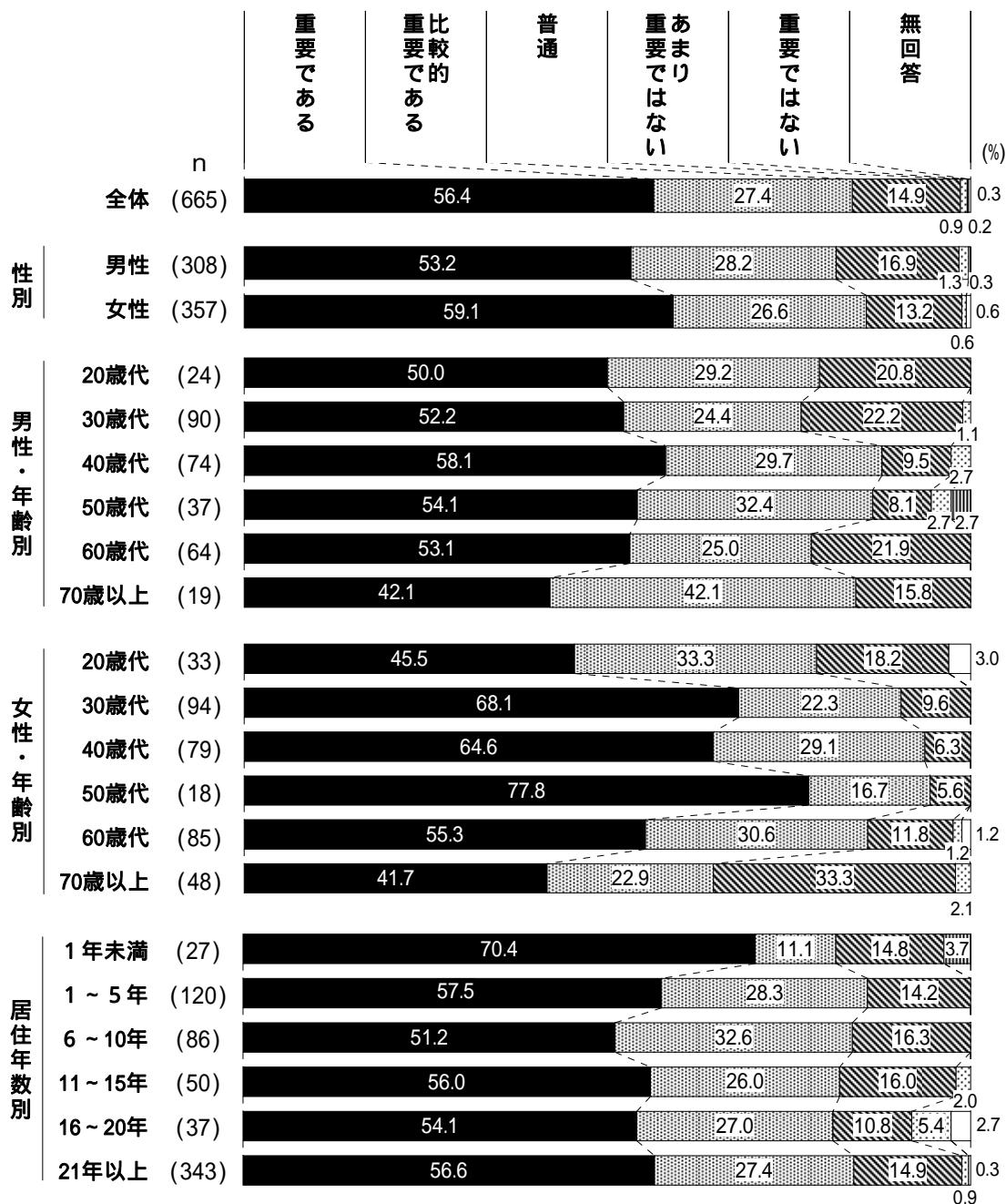


性別でみると、《重要である》は、女性（85.7%）の方が男性（81.4%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の30歳代（90.4%）と40歳代（93.7%）で9割台と高くなっている。

居住年数別でみると、《重要である》に大きな違いはみられないが、「重要である」に限れば、1年未満（70.4%）で7割と高くなっている。（図表4 - 4）

<図表4 - 4> まちづくりについての重要度 性別/性・年齢別/居住年数別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

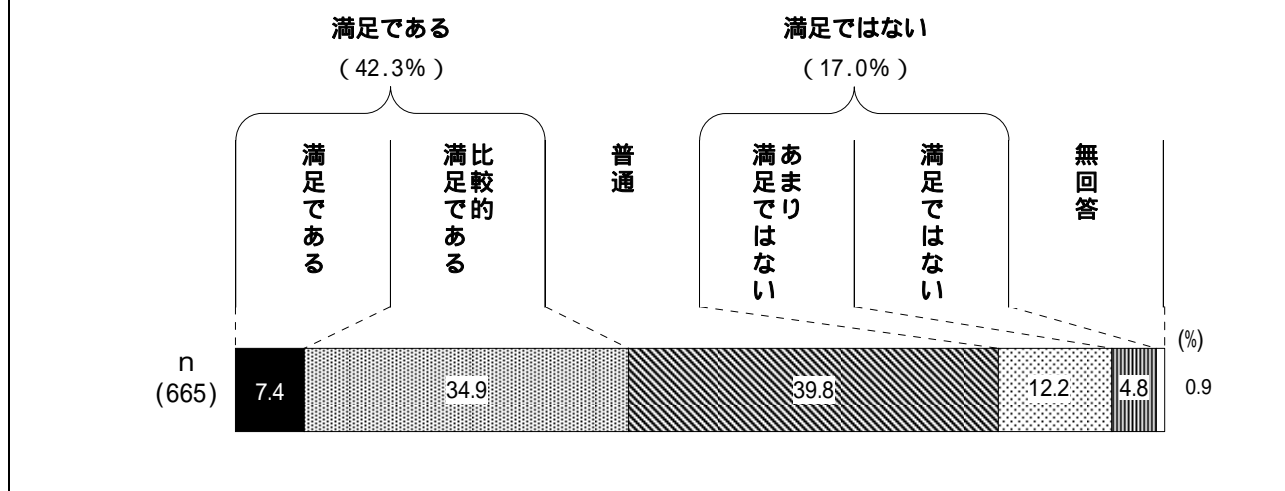
(2) まちづくりへの区の取り組みについての満足度

《満足である》が4割を超える

問11 まちづくりへの区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

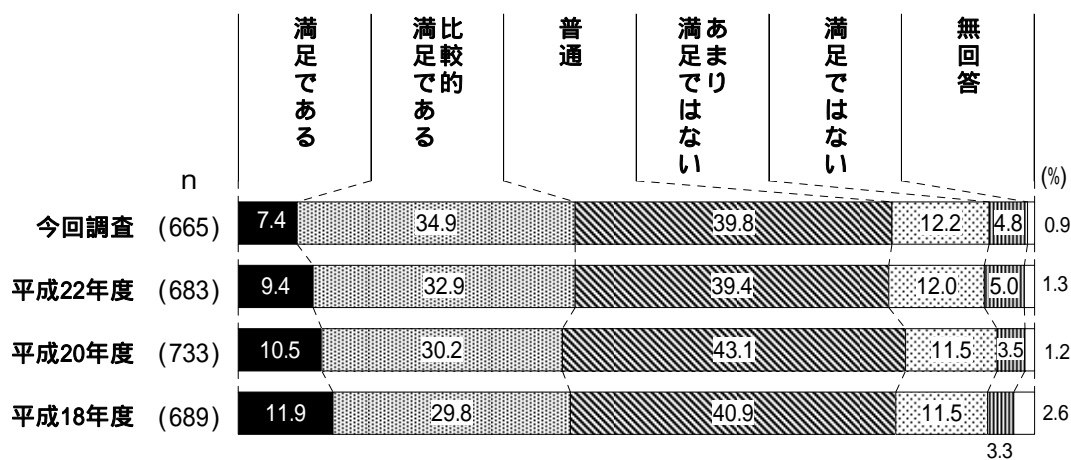
<図表4-5> まちづくりへの区の取り組みについての満足度



まちづくりへの区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は42.3%となっている。一方、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は17.0%である。(図表4-5)

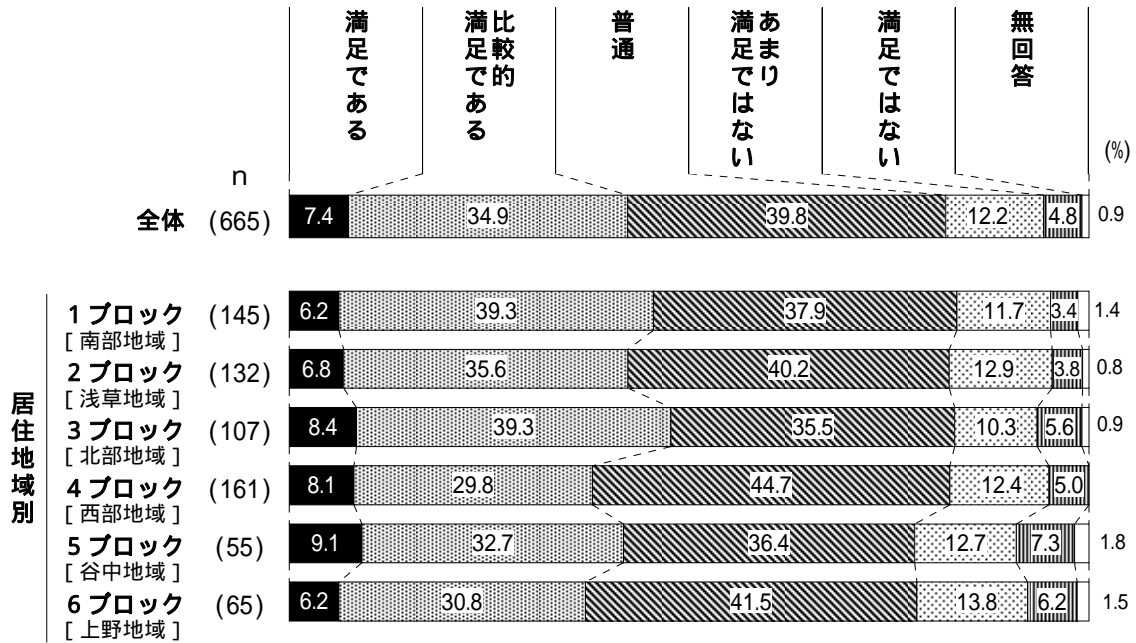
過去の調査結果と比較すると、《満足である》に特に大きな変化はみられない。(図表4-6)

<図表4-6> まちづくりへの区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、3ブロック[北部地域]（47.7%）で約5割と最も高くなっている。（図表4 - 7）

<図表4 - 7> まちづくりへの区の取り組みについての満足度 居住地域別

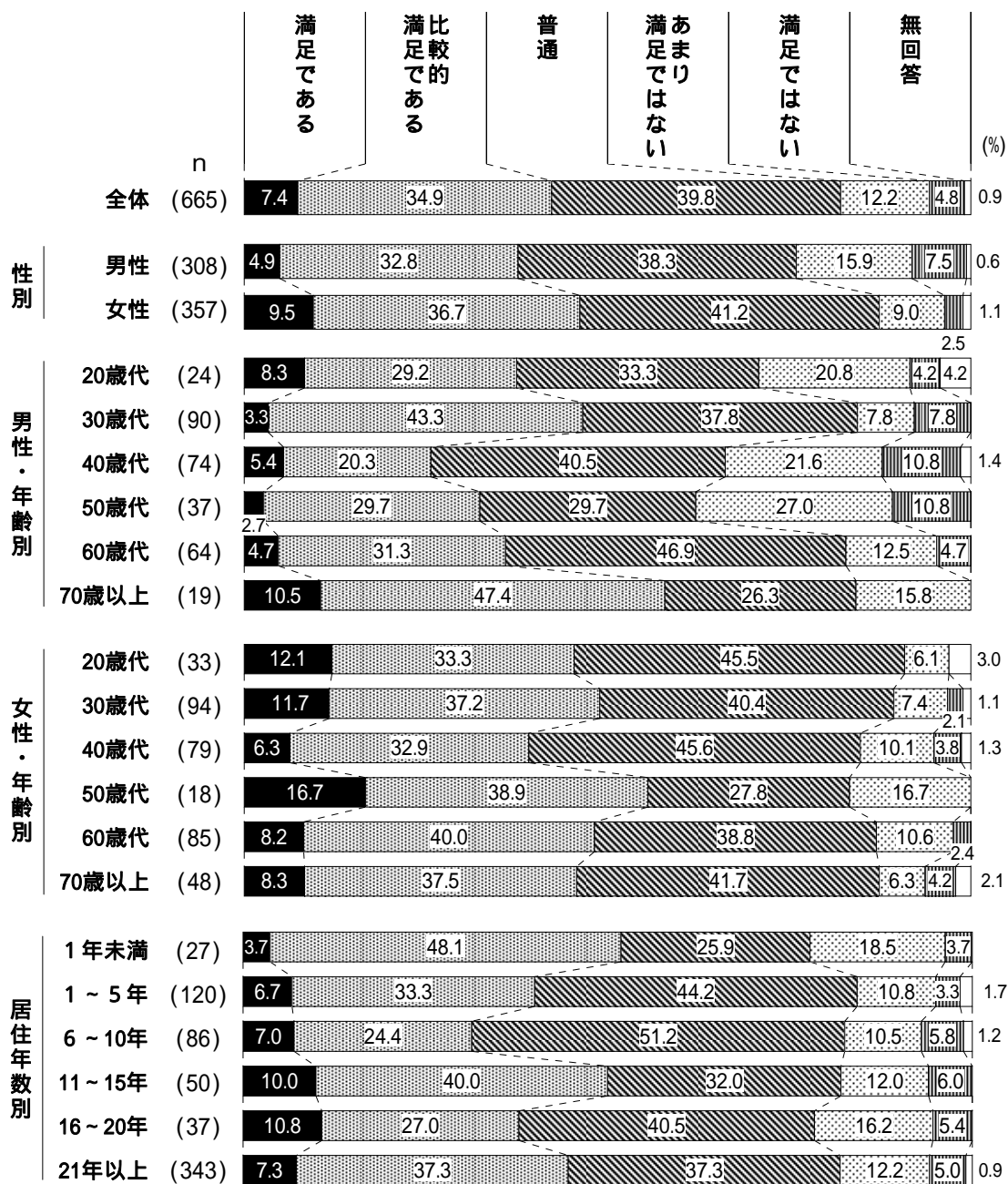


性別でみると、《満足である》は、女性（46.2%）の方が男性（37.7%）より8.5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足ではない》は、男性の50歳代（37.8%）で約4割と高くなっている。

居住年数別でみると、《満足である》は、1年未満（51.8%）と11～15年（50.0%）で5割台と高くなっている。（図表4-8）

<図表4-8> まちづくりへの区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別/居住年数別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

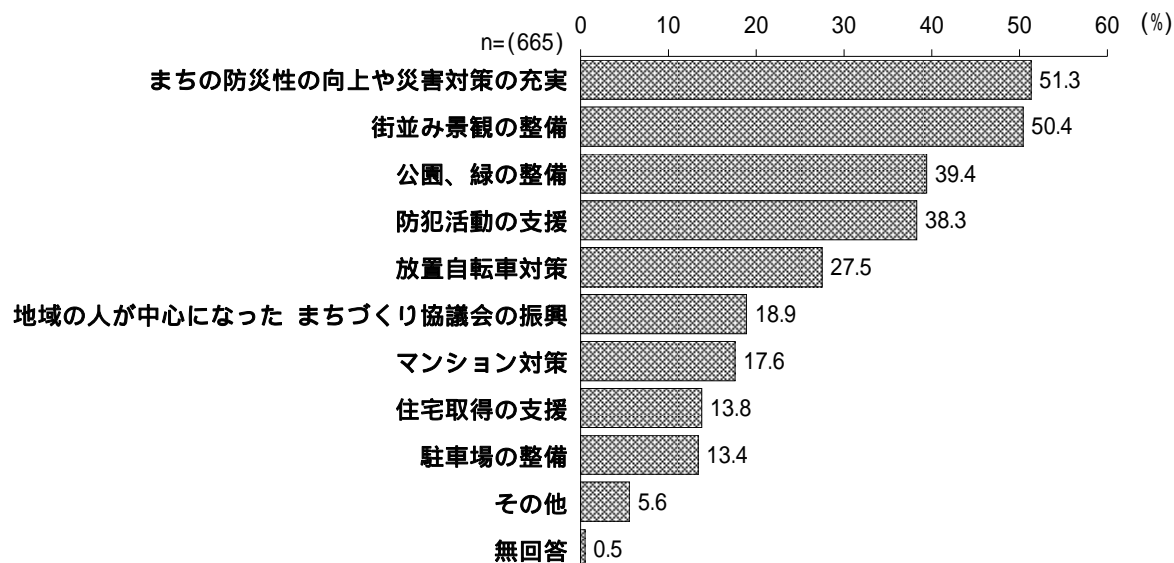
(3) まちづくりのための取り組みとして大切なもの

「まちの防災性の向上や災害対策の充実」と「街並み景観の整備」が5割を超える

問12 まちづくりのため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

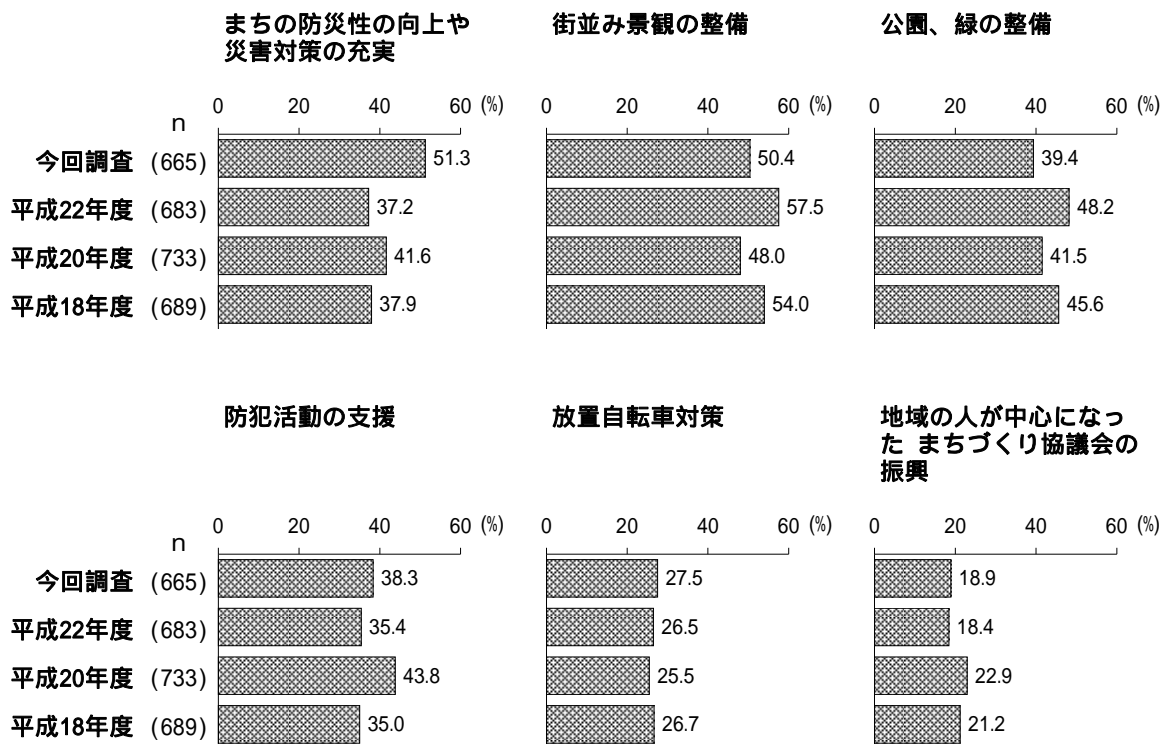
<図表4-9> まちづくりのための取り組みとして大切なもの(複数回答)



まちづくりのための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「まちの防災性の向上や災害対策の充実」(51.3%)と「街並み景観の整備」(50.4%)が5割を超えて高くなっている。次いで、「公園、緑の整備」(39.4%)と「防犯活動の支援」(38.3%)が約4割となっている。(図表4-9)

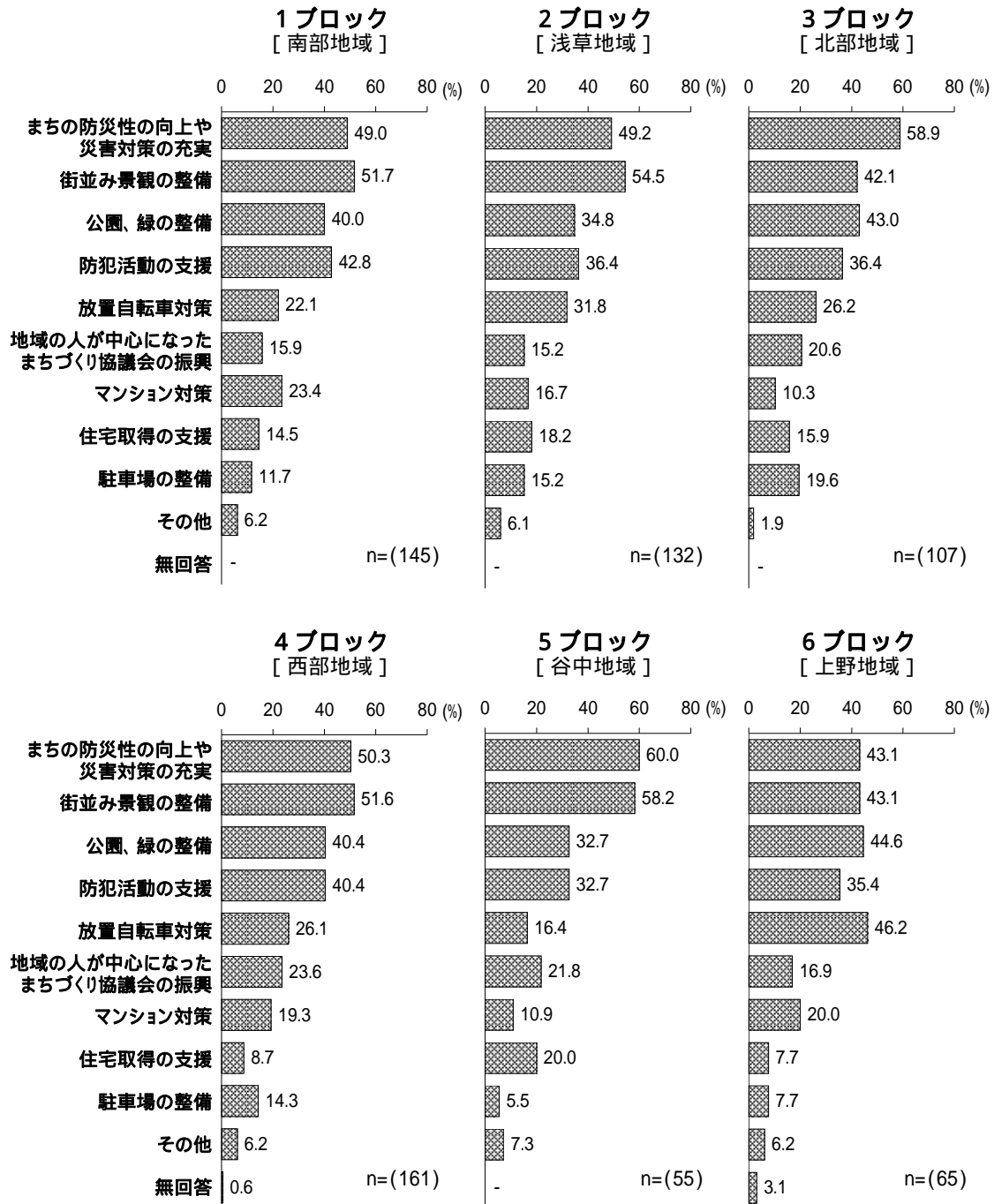
過去の調査結果と比較すると、「まちの防災性の向上や災害対策の充実」(51.3%)は、平成22年度(37.2%)から14.1ポイント増加している。一方、「街並み景観の整備」(50.4%)は平成22年度(57.5%)から7.1ポイント、「公園、緑の整備」(39.4%)は、平成22年度(48.2%)から8.8ポイント減少している。(図表4-10)

<図表4-10> まちづくりのための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



居住地域別でみると、「まちの防災性の向上や災害対策の充実」は、5ブロック[谷中地域](60.0%)と3ブロック[北部地域](58.9%)で約6割と高くなっている。「街並み景観の整備」は、5ブロック[谷中地域](58.2%)で約6割と高くなっている。(図表4-11)

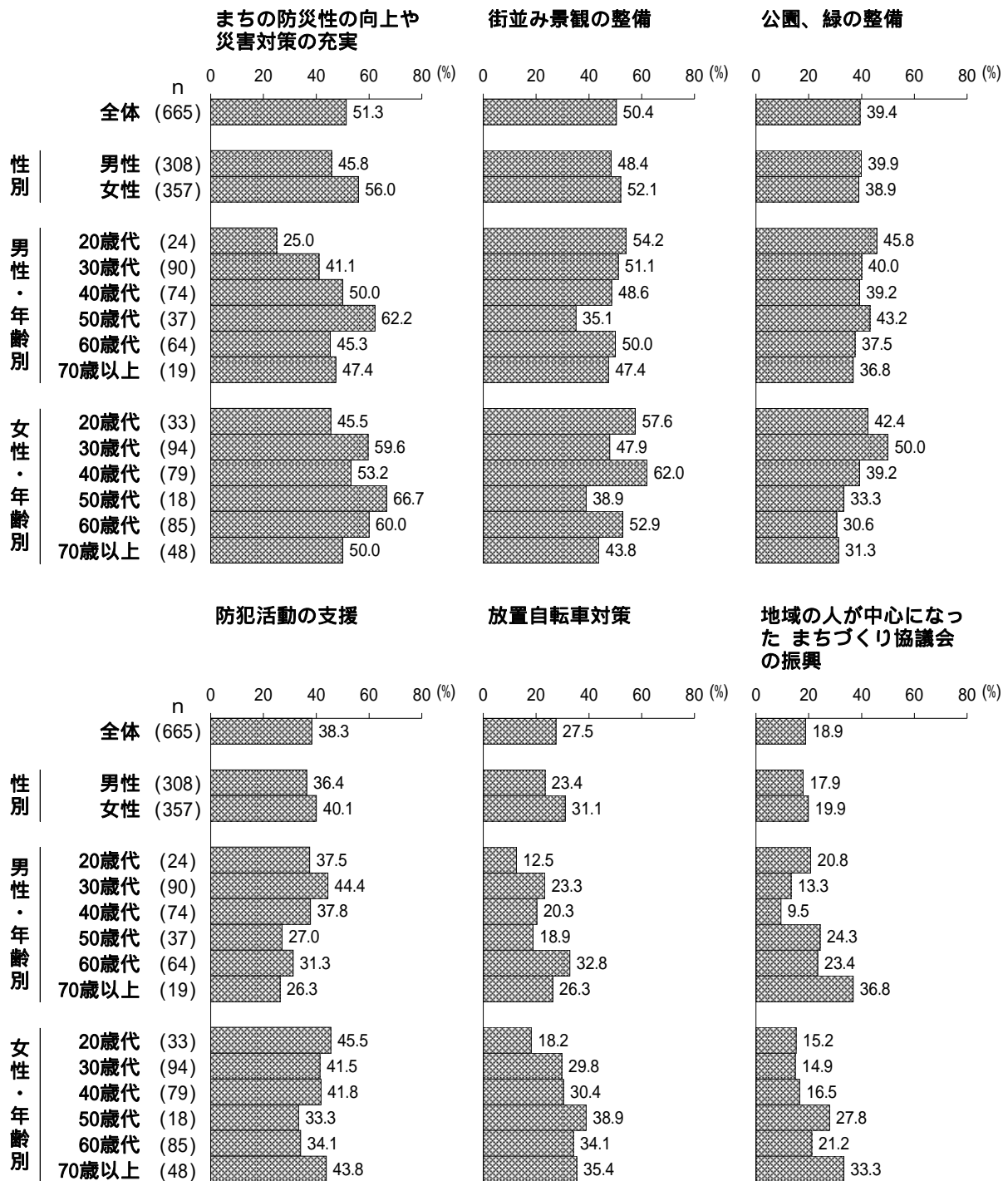
<図表4-11> まちづくりのための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「まちの防災性の向上や災害対策の充実」は、女性（56.0%）の方が男性（45.8%）より10.2ポイント、「放置自転車対策」は、女性（31.1%）の方が男性（23.4%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「まちの防災性の向上や災害対策の充実」は、男性の50歳代（62.2%）、女性の60歳代（60.0%）で6割台と高くなっている。「街並み景観の整備」は女性の40歳代（62.0%）で6割を超え、「公園、緑の整備」は女性の30歳代（50.0%）で5割と高くなっている。（図表4-12）

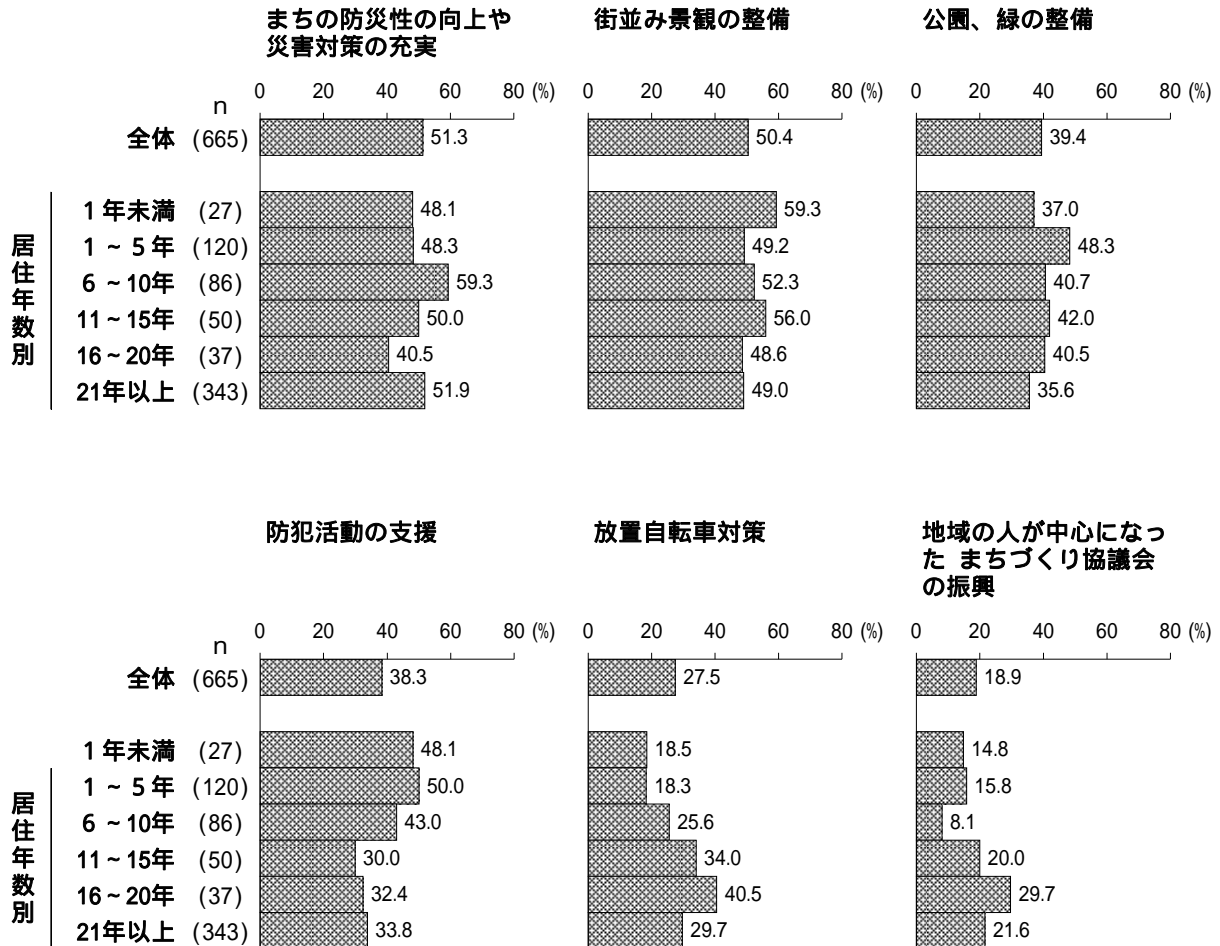
<図表4-12> まちづくりのための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

居住年数別でみると、「まちの防災性の向上や災害対策の充実」は6～10年（59.3%）、「街並み景観の整備」は1年未満（59.3%）でいずれも約6割、「公園、緑の整備」は1～5年（48.3%）で約5割と高くなっている。「防犯活動の支援」は10年以下の層で高くなっている。「放置自転車対策」と「地域の人を中心になったまちづくり協議会の振興」は、いずれも16～20年で高くなっている。（図表4-13）

<図表4-13> まちづくりのための取り組みとして大切なもの 居住年数別（上位6項目）



5 . 災害に対する備え、取り組み

台東区は、区民の生命・財産を守るため、災害対策の強化及び災害発生後の災害応急対策を早急
に実施するための体制の整備を進めています。

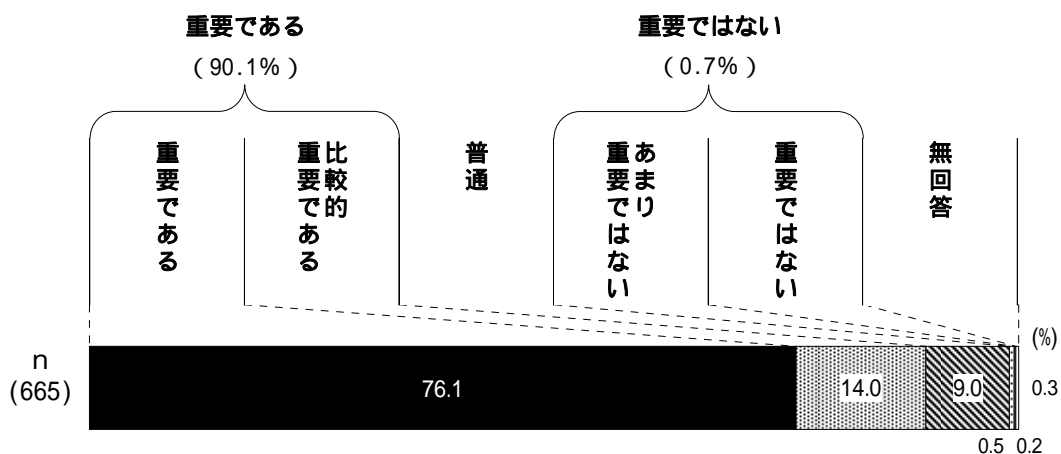
(1) 災害に対する備え、取り組みについての重要度

《重要である》が9割

問13 災害に対する備え、取り組みについてどの程度重要だと思いますか。

(1つだけ をおつけください)

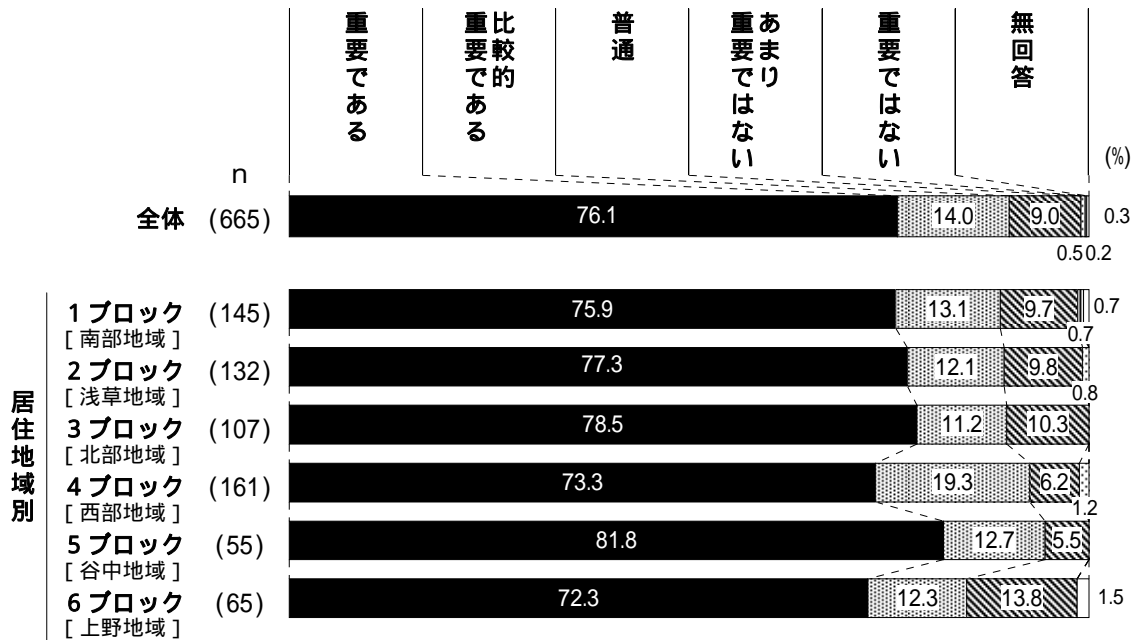
<図表5 - 1> 災害に対する備え、取り組みについての重要度



災害に対する備え、取り組みについての重要度を聞いたところ、「重要である」(76.1%)が7割台半ばと最も高くなっている。これに「比較的重要である」(14.0%)を合わせると、《重要である》は90.1%となっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は0.7%である。(図表5 - 1)

居住地域別でみると、《重要である》は、5ブロック[谷中地域] (94.5%)と4ブロック[西部地域] (92.6%)で9割台と高くなっている。(図表5 - 2)

<図表5 - 2> 災害に対する備え、取り組みについての重要度 居住地域別



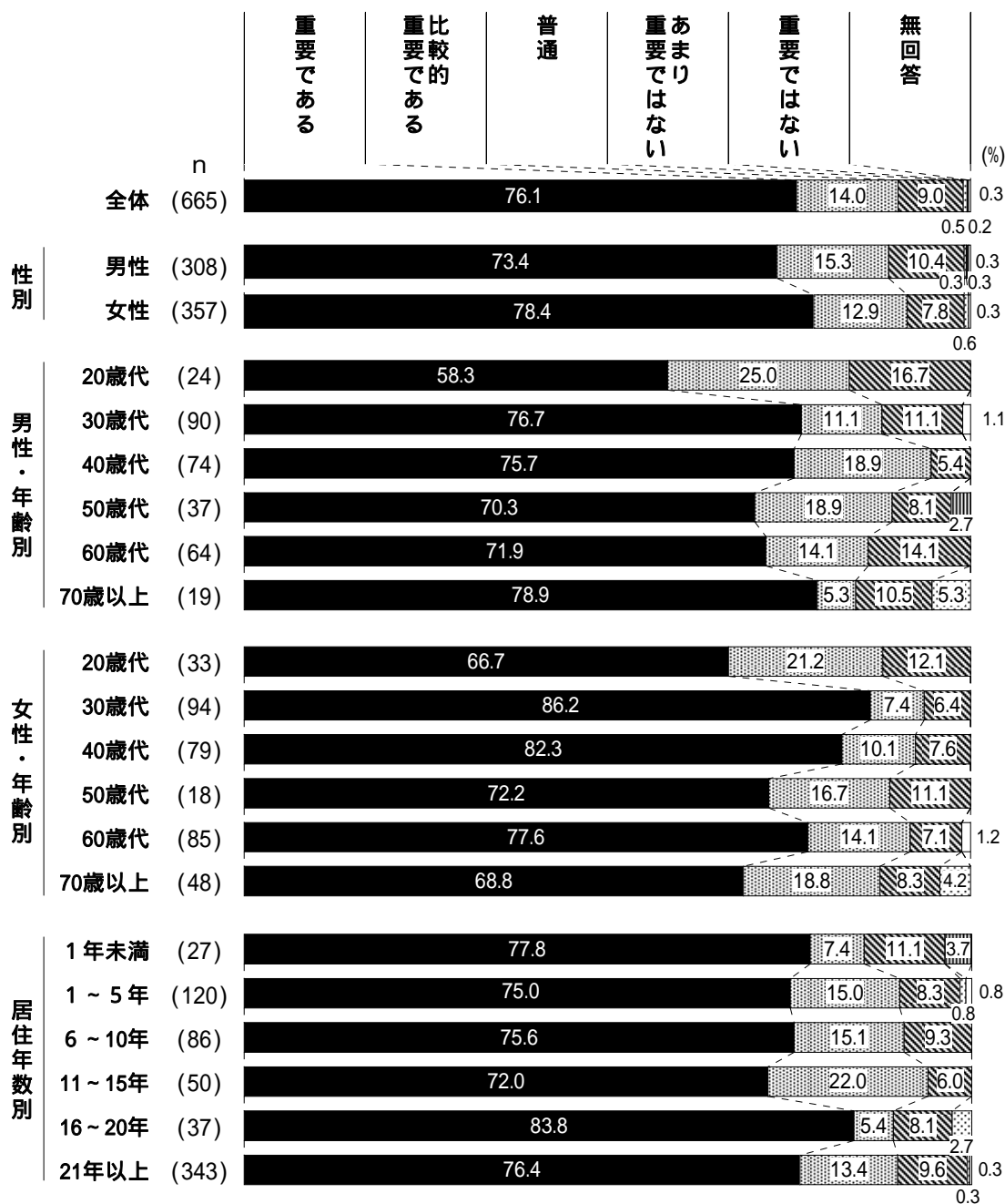
性別でみると、《重要である》に大きな違いはみられないが、「重要である」に限れば、女性（78.4%）の方が男性（73.4%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、男性の40歳代（94.6%）と女性の30歳代から60歳代で9割台と高くなっている。

居住年数別でみると、《重要である》は、11～15年（94.0%）で9割台半ばと最も高くなっている。

（図表5-3）

<図表5-3> 災害に対する備え、取り組みについての重要度 性別/性・年齢別/居住年数別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

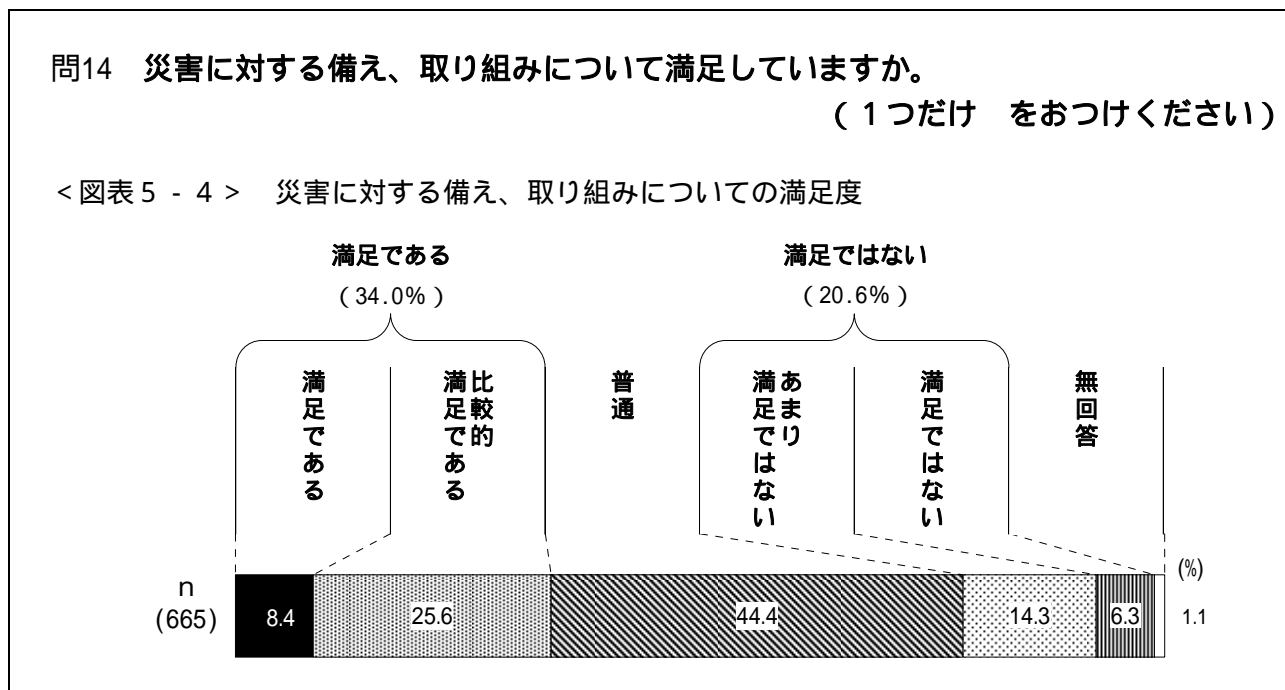
(2) 災害に対する備え、取り組みについての満足度

「普通」が4割台半ば、《満足である》は3割台半ば

問14 災害に対する備え、取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

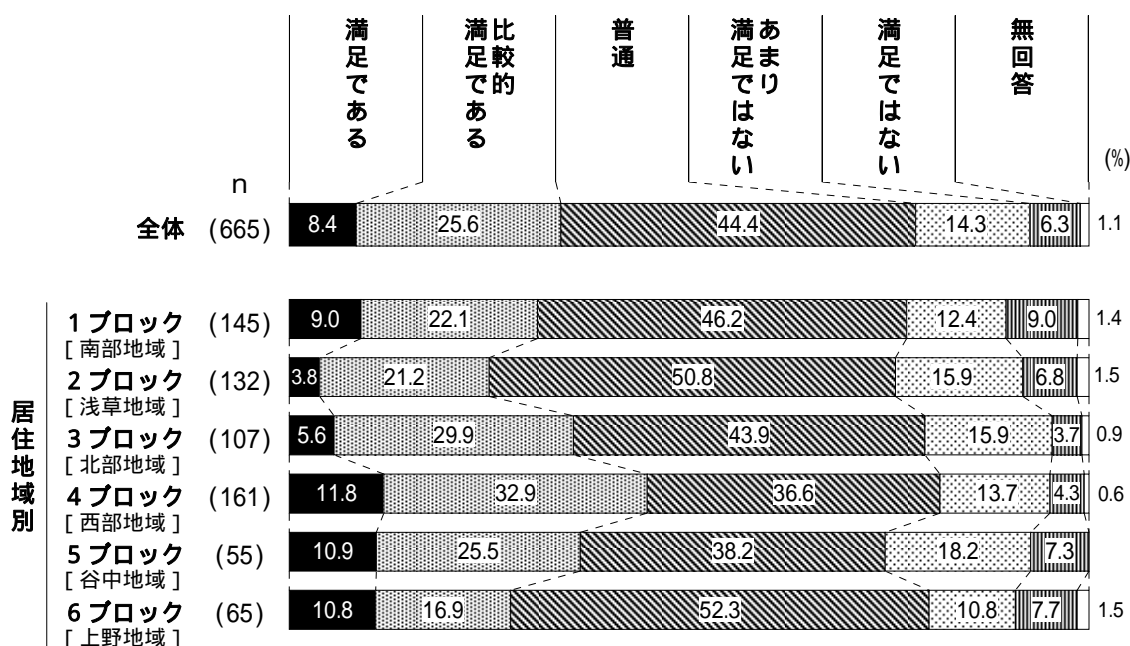
<図表5-4> 災害に対する備え、取り組みについての満足度



災害に対する備え、取り組みについて、満足度を聞いたところ、「普通」(44.4%)が4割台半ばで最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は34.0%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は20.6%である。(図表5-4)

居住地域別でみると、《満足である》は、4ブロック[西部地域](44.7%)で4割台半ばと最も高くなっている。一方、《満足ではない》は、5ブロック[谷中地域](25.5%)で2割台半ばとなっている。(図表5-5)

<図表5-5> 災害に対する備え、取り組みについての満足度 居住地域別



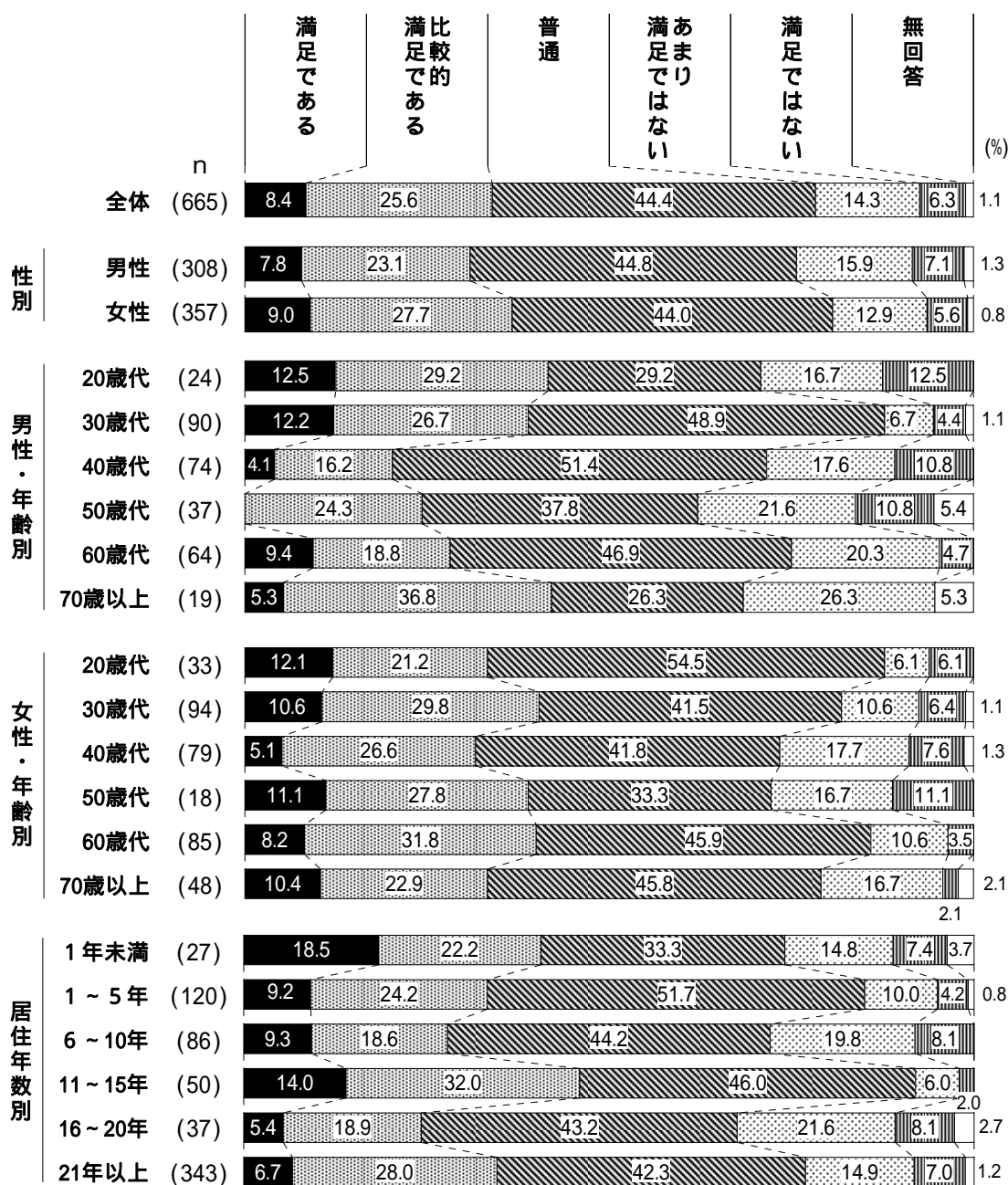
性別でみると、《満足である》は、女性（36.7%）の方が男性（30.9%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の30歳代（40.4%）と60歳代（40.0%）で4割台と高くなっている。一方、《満足ではない》は、男性の50歳代（32.4%）で3割を超えて高くなっている。

居住年数別でみると、《満足である》は、11～15年（46.0%）で4割台半ばと最も高くなっている。

（図表5 - 6）

<図表5 - 6> 災害に対する備え、取り組みについての満足度 性別/性・年齢別/居住年数別



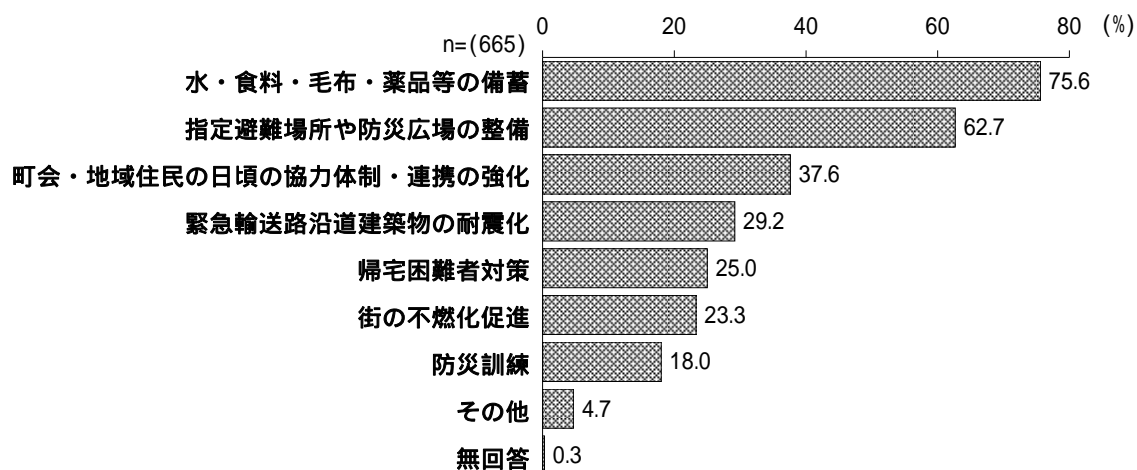
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(3) 災害に対する備え、取り組みとして大切なもの

「水・食料・毛布・薬品等の備蓄」が7割台半ば

問15 災害に対する備え、対応として、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。
(3つまで をおつけください)

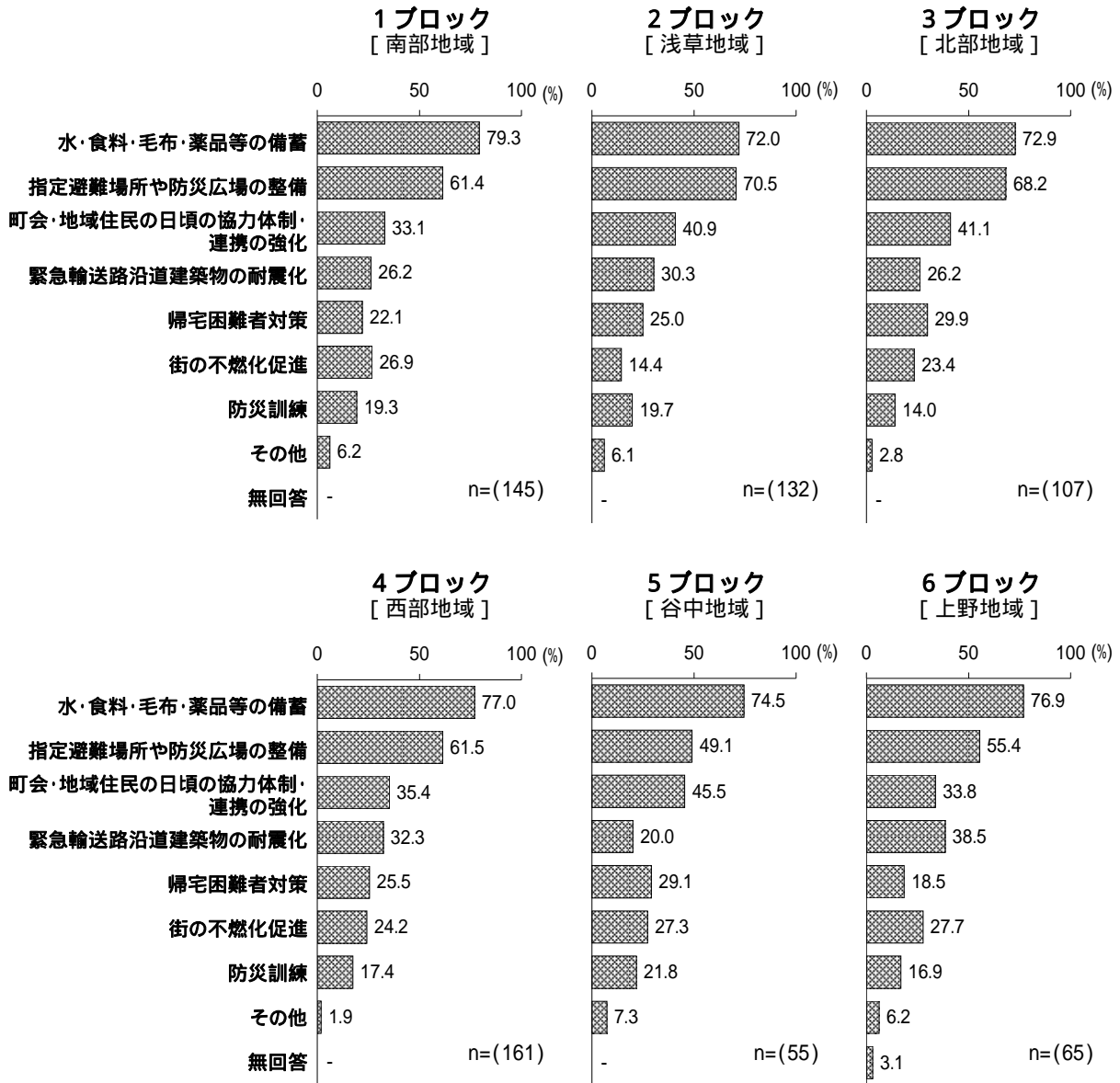
<図表5 - 7> 災害に対する備え、取り組みとして大切なもの(複数回答)



災害に対する備え、取り組みとして大切なものを聞いたところ、「水・食料・毛布・薬品等の備蓄」(75.6%)が7割台半ばで最も高く、次いで、「指定避難場所や防災広場の整備」(62.7%)が6割を超えている。このほか、「町会・地域住民の日頃の協力体制・連携の強化」(37.6%)が約4割となっている。(図表5 - 7)

居住地域別でみると、いずれの地域でも「水・食料・毛布・薬品等の備蓄」が7割台で最も高くなっている。「指定避難場所や防災広場の整備」はいずれの地域でも2番目に高く、2ブロック[浅草地域]（70.5%）と3ブロック[北部地域]（68.2%）では7割前後と特に高くなっている。（図表5 - 8）

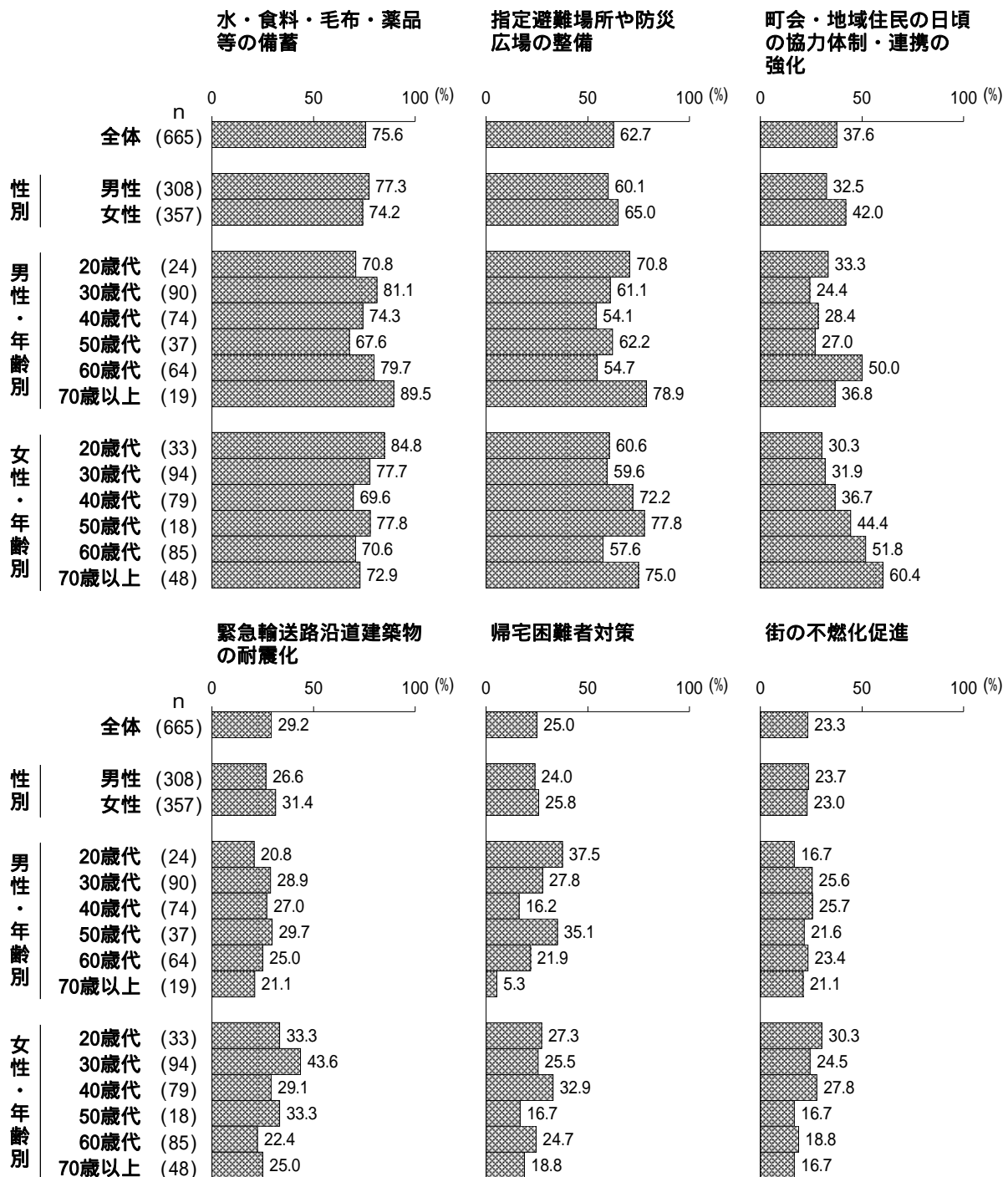
<図表5 - 8> 災害に対する備え、取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「町会・地域住民の日頃の協力体制・連携の強化」は、女性(42.0%)の方が男性(32.5%)より9.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「水・食料・毛布・薬品等の備蓄」は、女性の20歳代(84.8%)で8割台半ばと最も高くなっている。「指定避難場所や防災広場の整備」は、女性の40歳代(72.2%)と70歳以上(75.0%)で7割台と高くなっている。「町会・地域住民の日頃の協力体制・連携の強化」は、女性で年齢が上がるほど割合も高くなっている。(図表5-9)

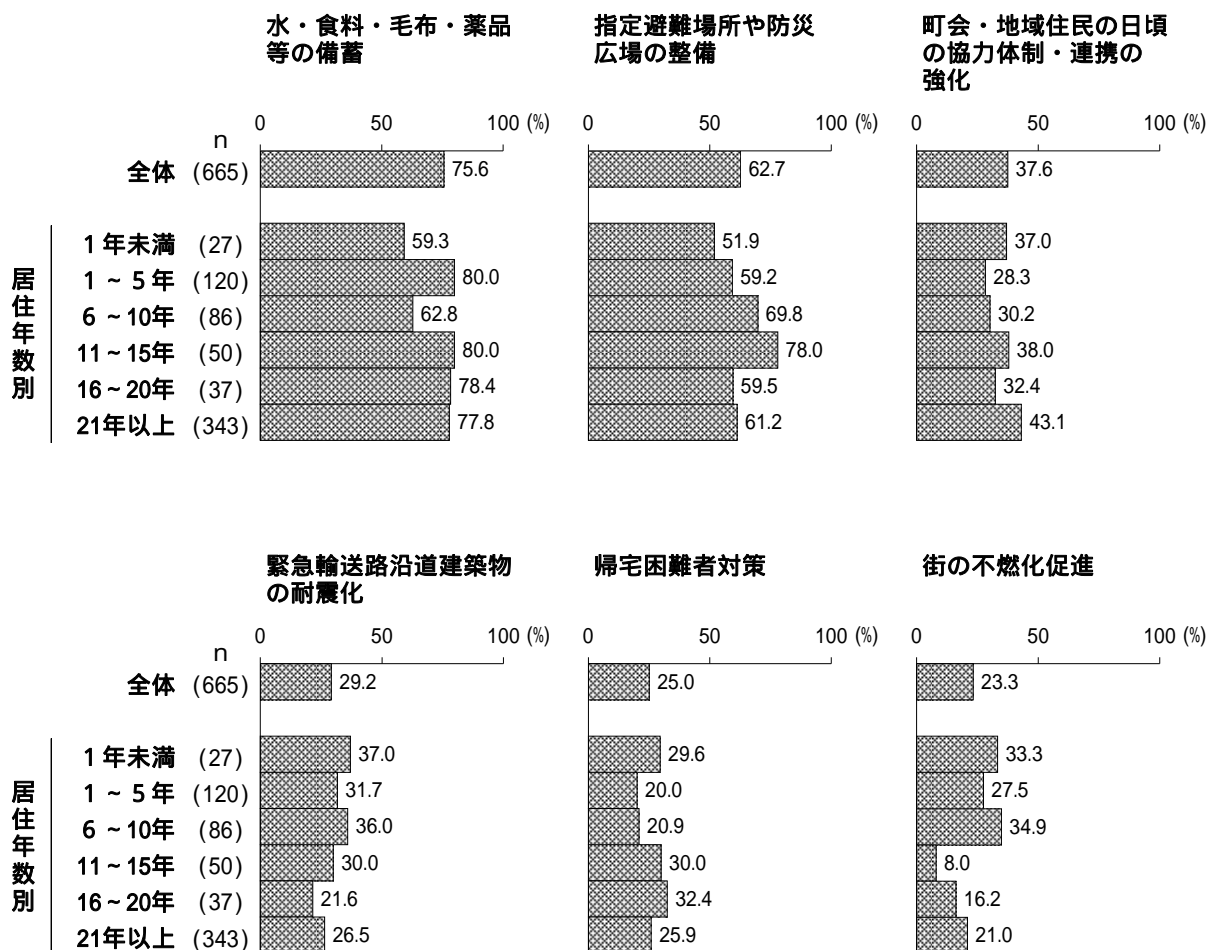
<図表5-9> 災害に対する備え、取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別(上位6項目)



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

居住年数別でみると、「指定避難場所や防災広場の整備」は、11～15年（78.0%）で約8割と最も高くなっている。（図表5 - 10）

<図表5 - 10> 災害に対する備え、取り組みとして大切なもの 居住年数別（上位6項目）



6 . 環境対策のための取り組み

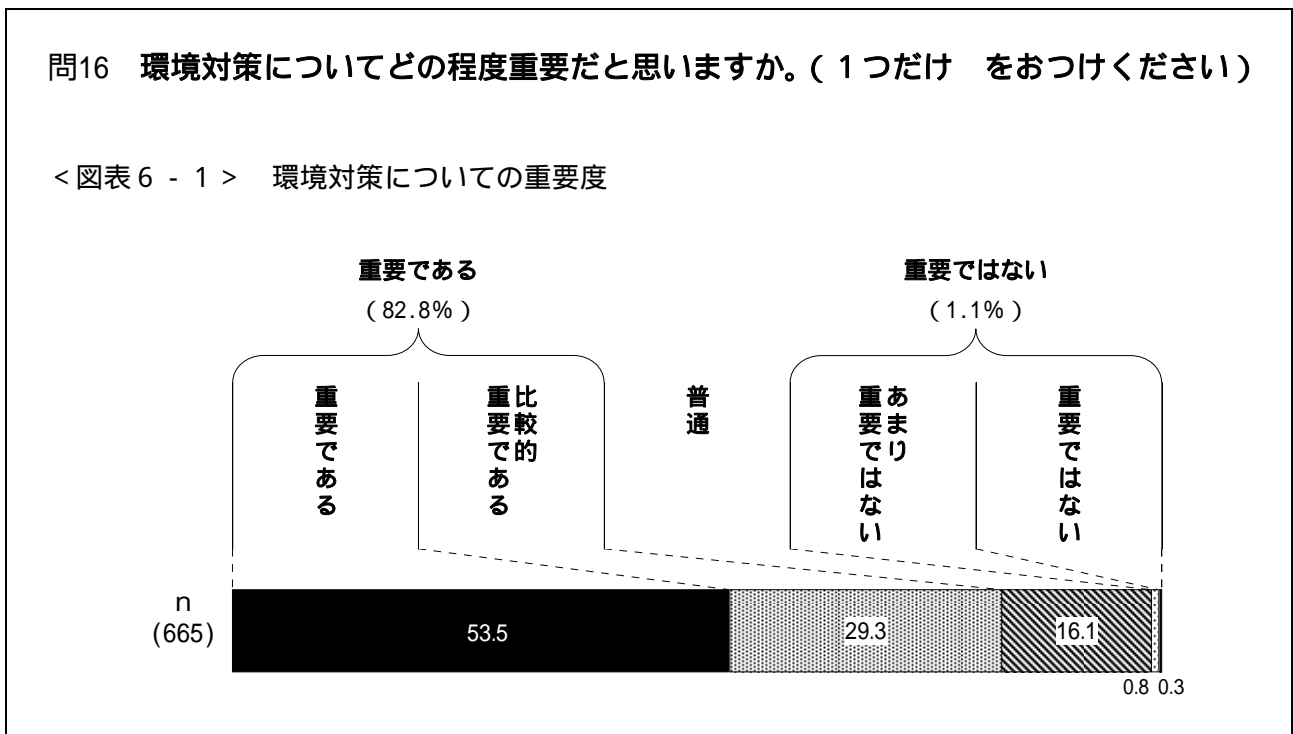
台東区には、上野公園、隅田川など自然的な環境があります。

一方、ごみ減量、リサイクル、地球温暖化対策など、環境問題への取り組みが強く求められています。

区では、水と緑の保全など、うるおいのある生活環境づくりと、昔ながらの知恵を生かして生活様式を見直すなど、環境に配慮した社会づくりに取り組んでいます。

(1) 環境対策についての重要度

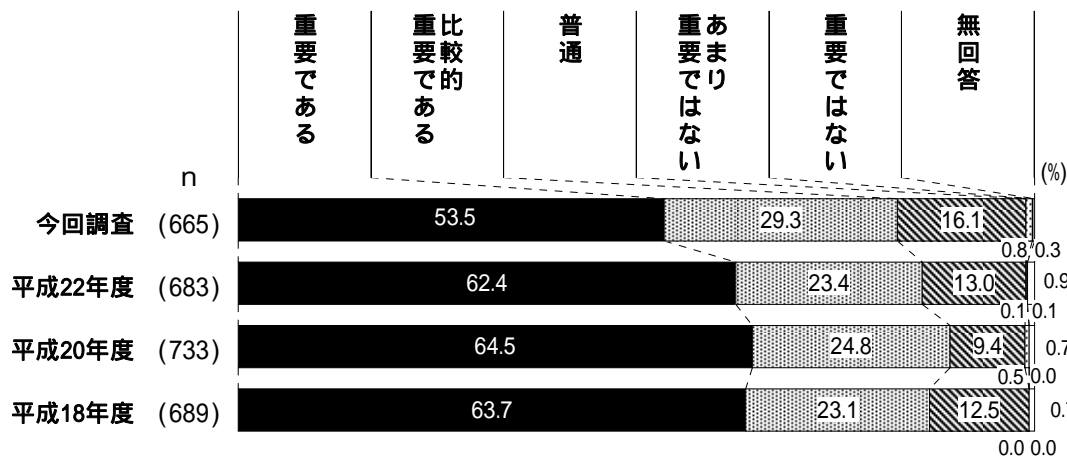
《重要である》が8割を超える



環境対策についてどの程度重要かを聞いたところ、「重要である」(53.5%)が5割台半ばで最も高くなっている。これに「比較的重要な」(29.3%)を合わせると、《重要である》は82.8%で8割を超えている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.1%である。(図表6-1)

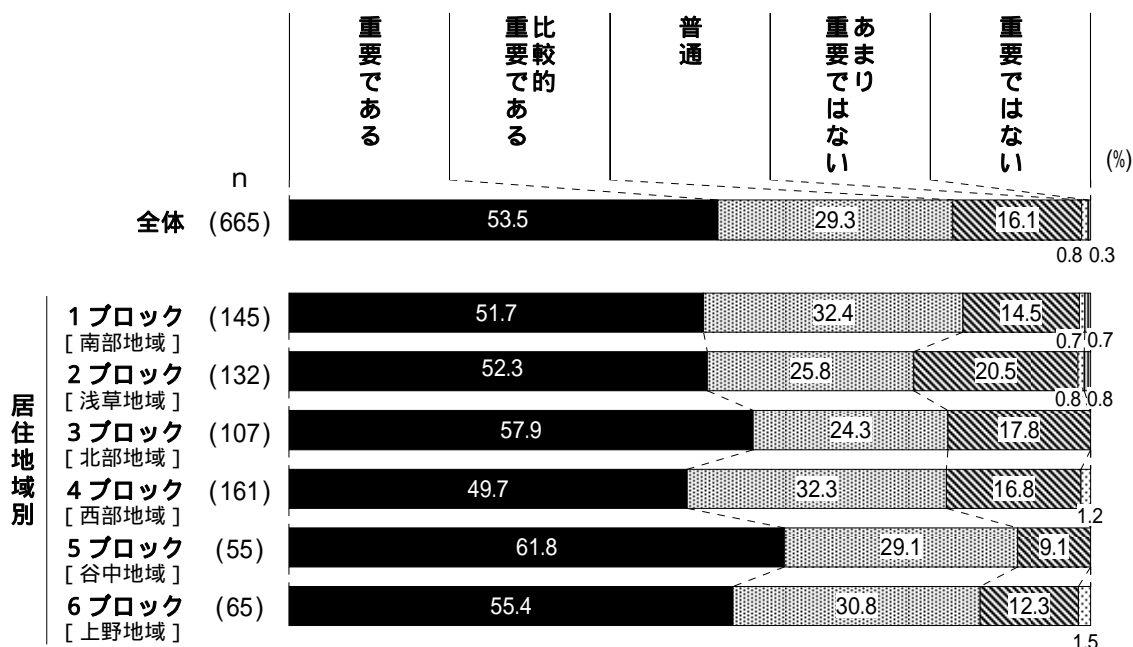
過去の調査結果と比較すると、《重要である》(82.8%)は、平成22年度(85.8%)より3.0ポイント減少している。また、「重要である」に限れば、8.9ポイントの減少となっている。(図表6-2)

<図表6-2> 環境対策についての重要度 経年比較



居住地域別で見ると、《重要である》は、5ブロック[谷中地域](90.9%)で9割と高くなっている。(図表6-3)

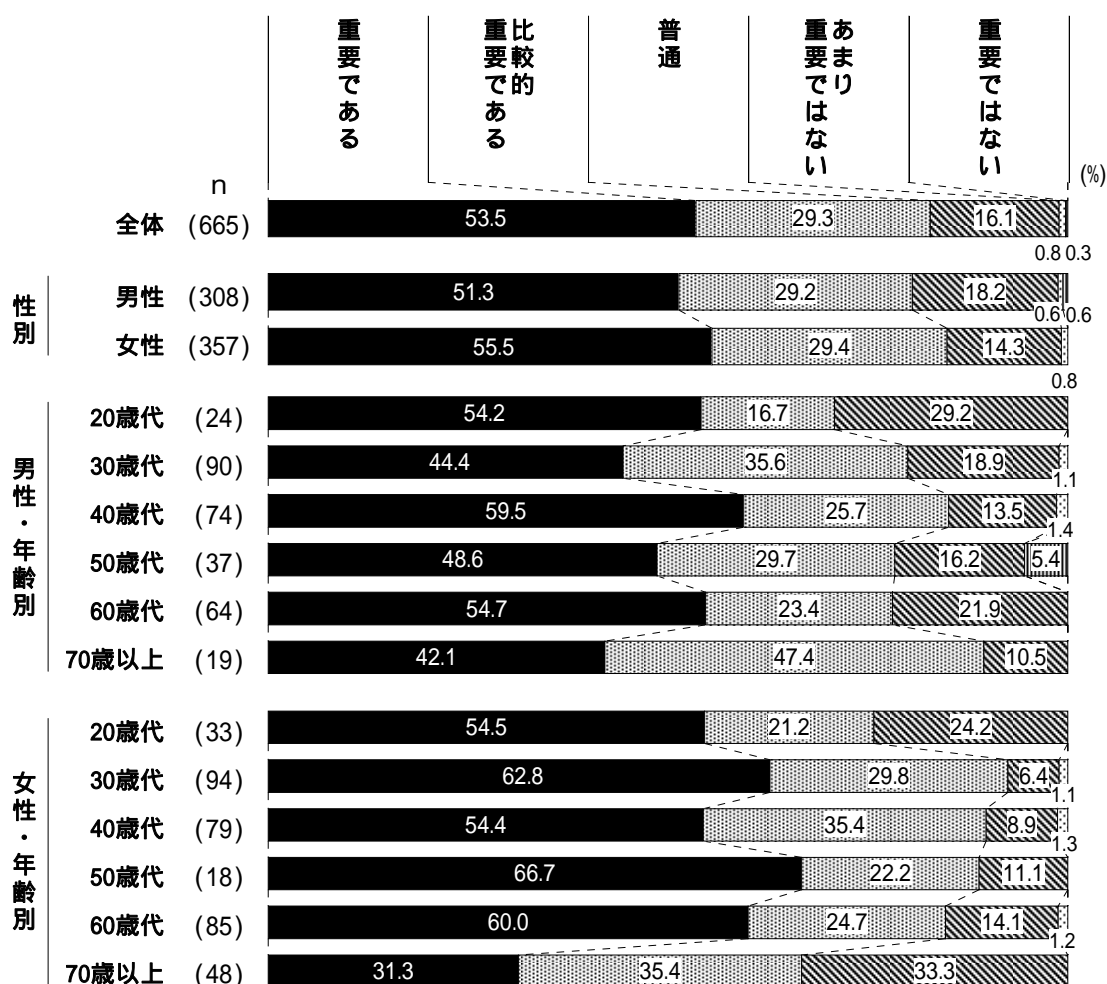
<図表6-3> 環境対策についての重要度 居住地域別



性別でみると、《重要である》は、女性（84.9%）の方が男性（80.5%）より4.4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の30歳代（92.6%）と40歳代（89.8%）で9割前後と高くなっている。（図表6 - 4）

<図表6 - 4> 環境対策についての重要度 性別 / 性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

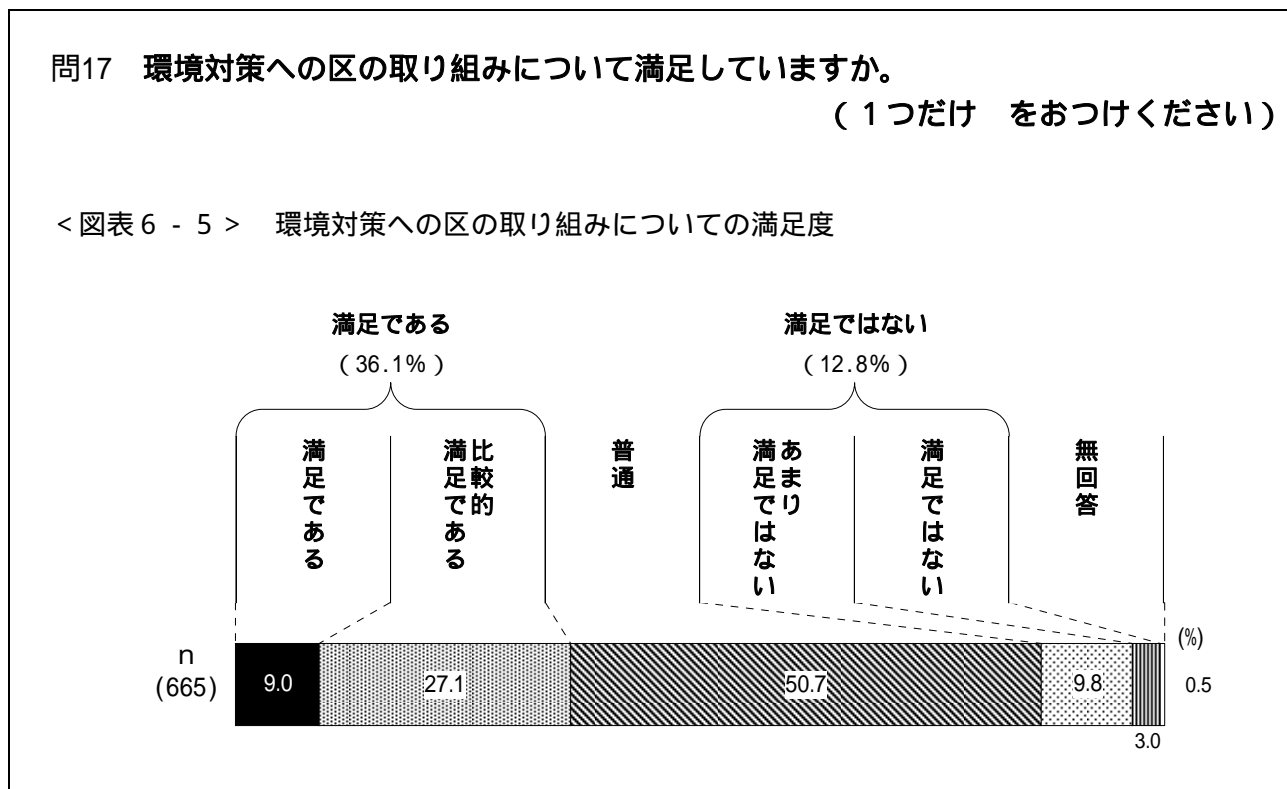
(2) 環境対策への区の取り組みについての満足度

「普通」が5割、「満足である」は3割台半ば

問17 環境対策への区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

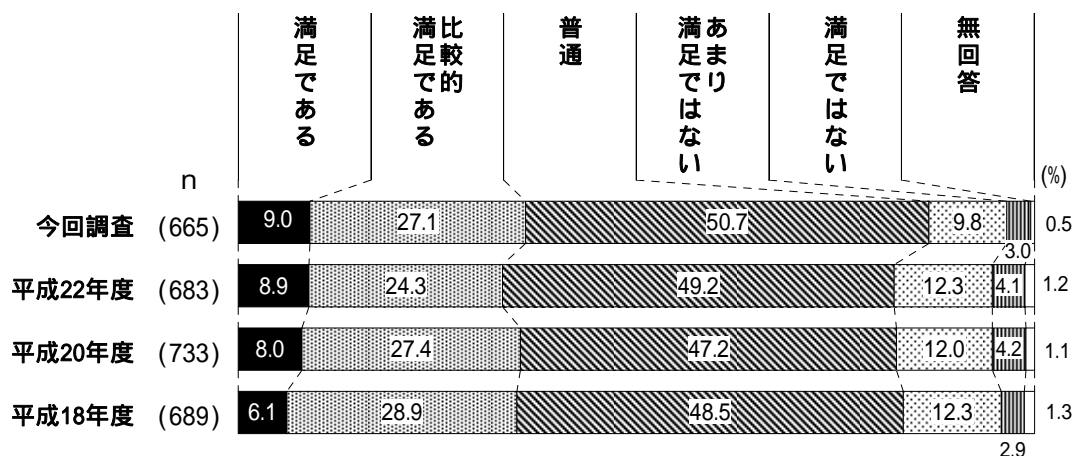
<図表6-5> 環境対策への区の取り組みについての満足度



環境対策への区の取り組みについて満足度を聞いたところ、「普通」(50.7%)が5割で最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は36.1%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は12.8%である。(図表6-5)

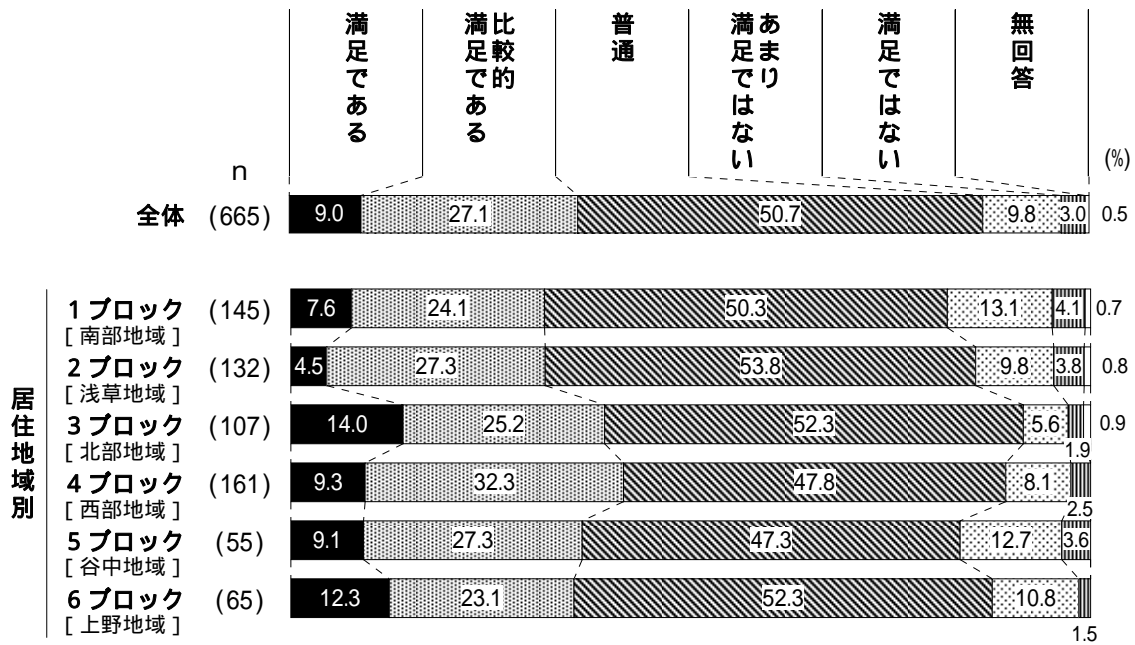
過去の調査結果と比較すると、《満足である》(36.1%)は、平成22年度(33.2%)より2.9ポイント増加している。(図表6-6)

<図表6-6> 環境対策への区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、4ブロック[西部地域]（41.6%）と3ブロック[北部地域]（39.2%）で4割前後と高くなっている。一方、《満足ではない》は、1ブロック[南部地域]（17.2%）で約2割と高くなっている。（図表6-7）

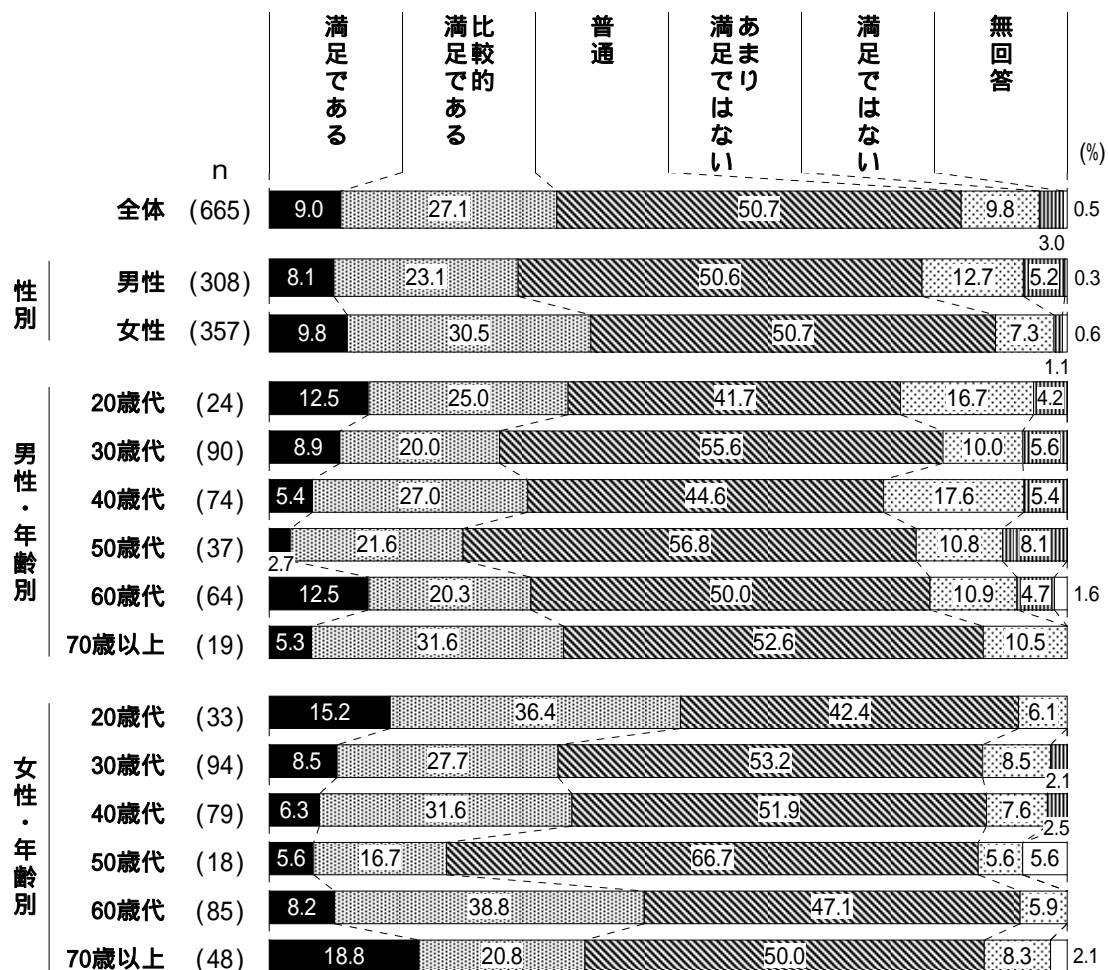
<図表6-7> 環境対策への区の取り組みについての満足度 居住地域別



性別でみると、《満足である》は、女性（40.3%）の方が男性（31.2%）より9.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の20歳代（51.6%）で5割を超え、60歳代（47.0%）で約5割と高くなっている。（図表6-8）

<図表6-8> 環境対策への区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

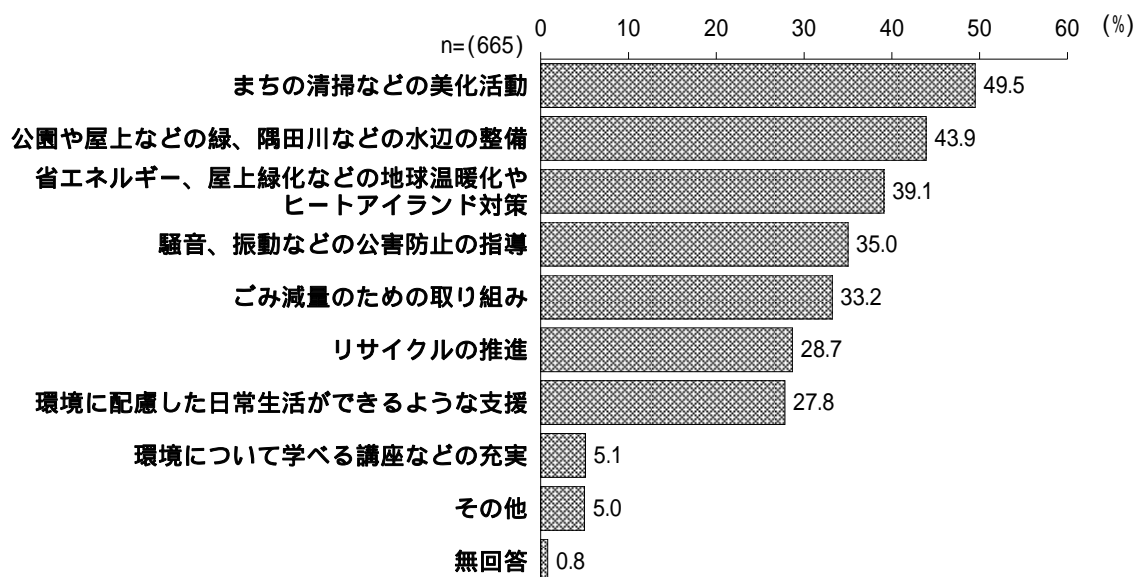
(3) 環境対策のための取り組みとして大切なもの

「まちの清掃などの美化活動」が約5割

問18 環境対策のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

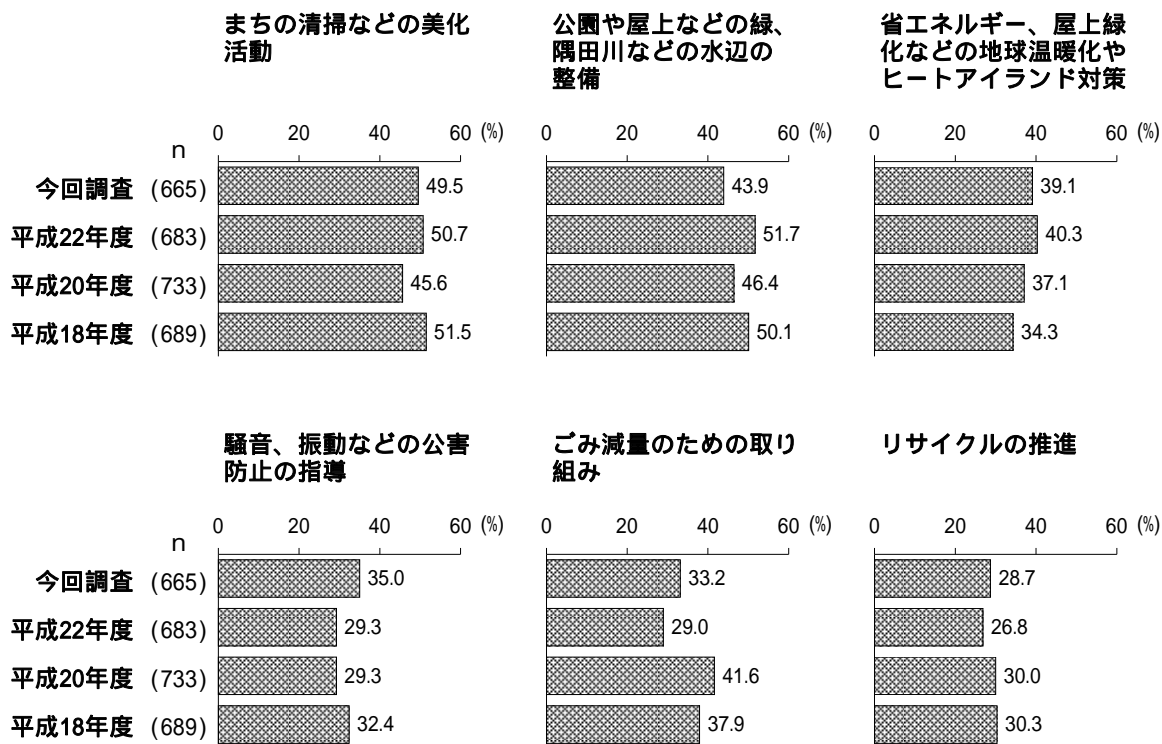
<図表6-9> 環境対策のための取り組みとして大切なもの(複数回答)



環境対策のための取り組みとして、大切なものを聞いたところ、「まちの清掃などの美化活動」(49.5%)が約5割と最も高くなっている。次いで、「公園や屋上などの緑、隅田川などの水辺の整備」(43.9%)が4割台半ば、「省エネルギー、屋上緑化などの地球温暖化やヒートアイランド対策」(39.1%)が約4割となっている。(図表6-9)

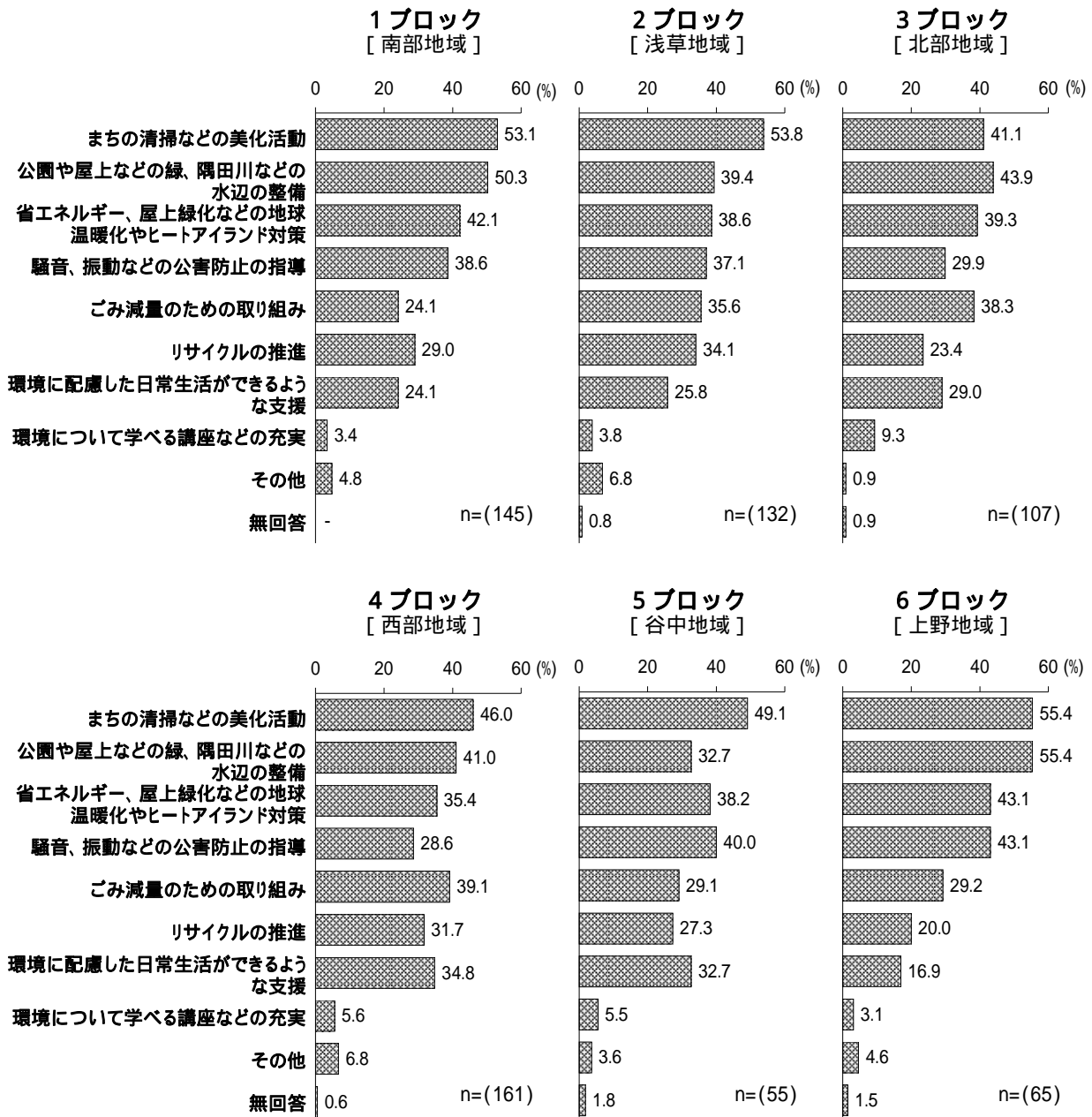
過去の調査結果と比較すると、「公園や屋上などの緑、隅田川などの水辺の整備」(43.9%)は、平成22年度(51.7%)から7.8ポイント減少している。一方、「騒音、振動などの公害防止の指導」(35.0%)は平成22年度(29.3%)から5.7ポイント、「ごみ減量のための取り組み」(33.2%)は平成22年度(29.0%)から4.2ポイント増加している。(図表6-10)

<図表6-10> 環境対策のための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



居住地域別でみると、「まちの清掃などの美化活動」は、6ブロック[上野地域]（55.4%）、2ブロック[浅草地域]（53.8%）、1ブロック[南部地域]（53.1%）で5割台半ばと高くなっている。「公園や屋上などの緑、隅田川などの水辺の整備」は、6ブロック[上野地域]（55.4%）で5割台半ばと高くなっている。（図表6-11）

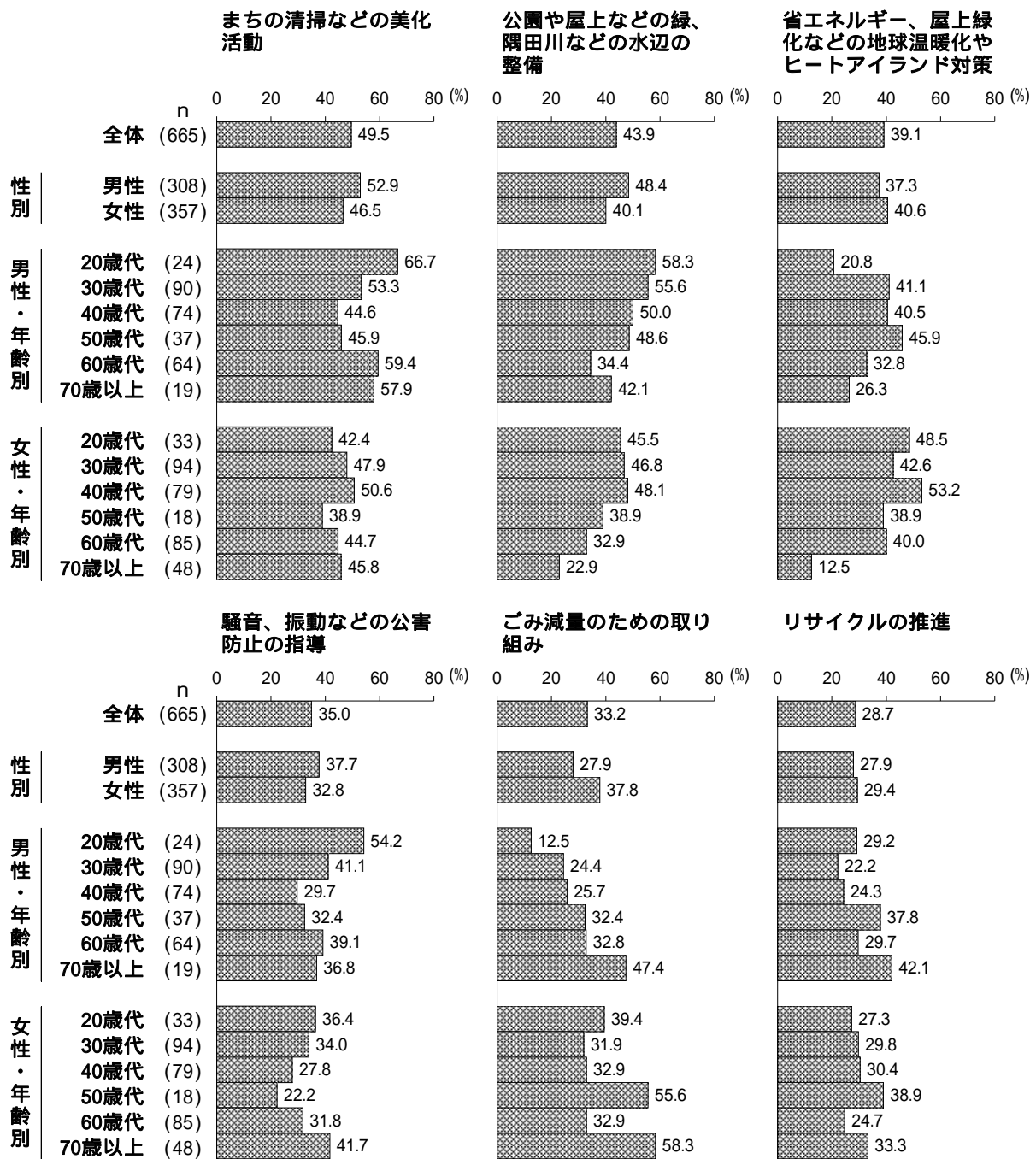
<図表6-11> 環境対策のための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「まちの清掃などの美化活動」は、男性（52.9%）の方が女性（46.5%）より6.4ポイント、「公園や屋上などの緑、隅田川などの水辺の整備」は、男性（48.4%）の方が女性（40.1%）より8.3ポイント高くなっている。一方、「ごみ減量のための取り組み」は、女性（37.8%）の方が男性（27.9%）より9.9ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「まちの清掃などの美化活動」は、男性の60歳代（59.4%）で約6割と最も高くなっている。「公園や屋上などの緑、隅田川などの水辺の整備」は、男性では50歳代以下、女性では40歳代以下で高くなっている。「ごみ減量のための取り組み」は、女性の70歳以上（58.3%）で約6割と特に高くなっている。（図表6-12）

<図表6-12> 環境対策のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



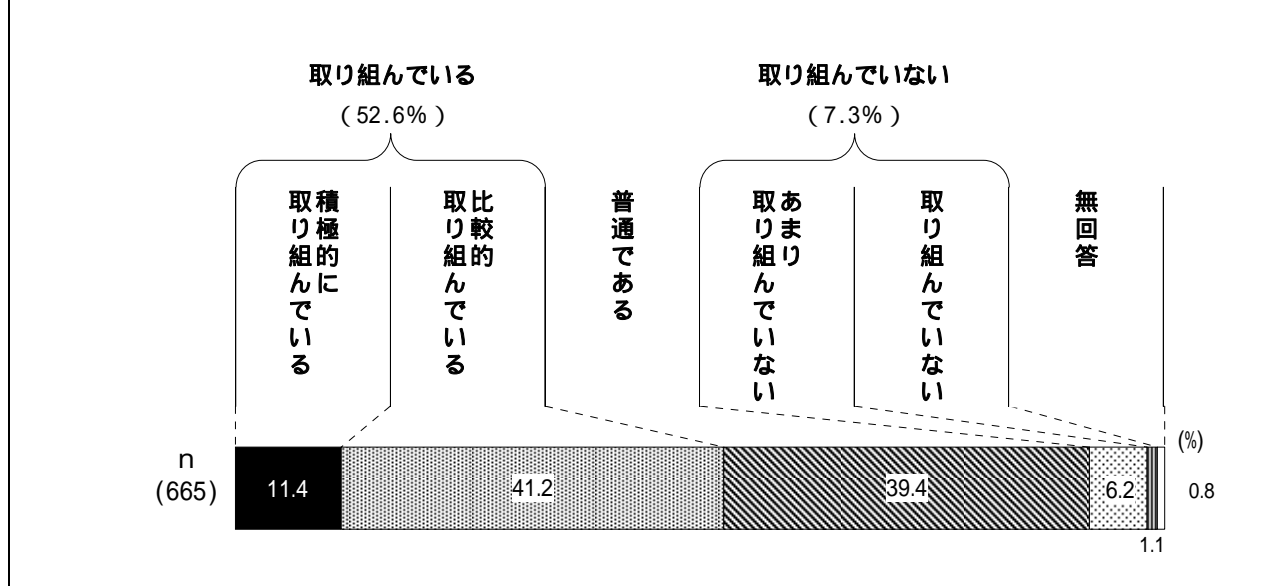
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(4) 環境に配慮した行動への取り組み

《取り組んでいる》が5割を超える

問19 あなたは、電気の節約などの省エネルギーや集団回収などのリサイクル、緑の保全など、環境に配慮した行動に取り組まれていますか。(1つだけをおつけください)

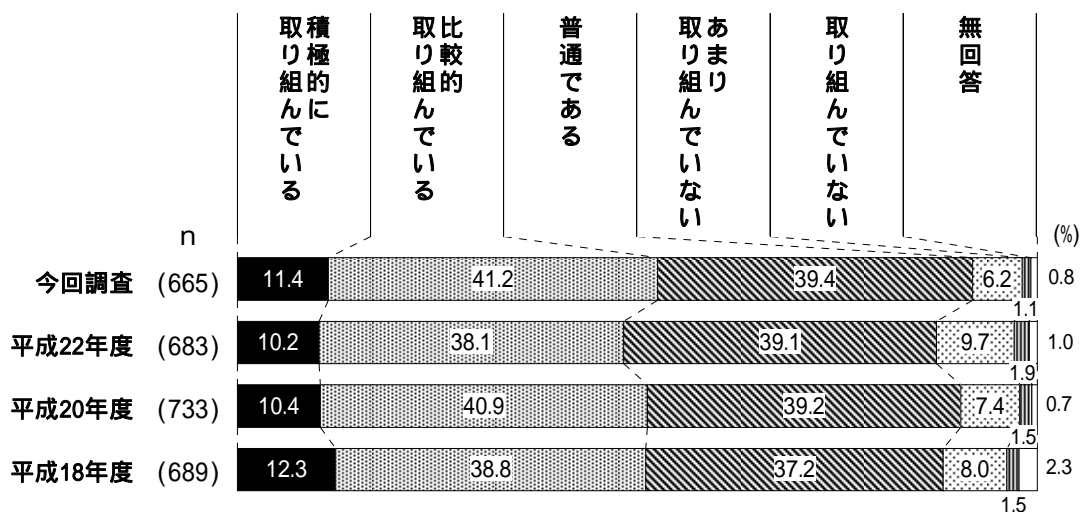
<図表6-13> 環境に配慮した行動への取り組み



環境に配慮した行動への取り組みについて聞いたところ、《取り組んでいる》(「積極的に取り組んでいる」と「比較的取り組んでいる」の合計)が52.6%で5割を超える。「普通である」(39.4%)は約4割、《取り組んでいない》(「取り組んでいない」と「あまり取り組んでいない」の合計)は7.3%である。(図表6-13)

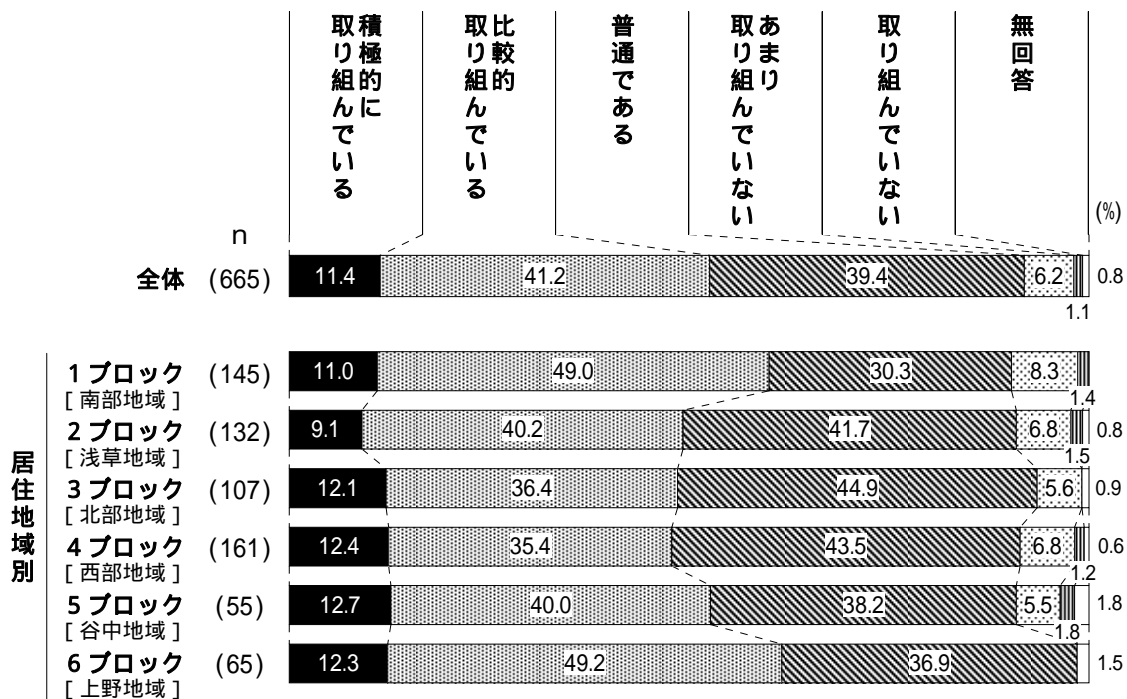
過去の調査結果と比較すると、《取り組んでいる》(52.6%)は、平成22年度(48.3%)より4.3ポイント増加している。(図表6-14)

<図表6-14> 環境に配慮した行動への取り組み 経年比較



居住地域別でみると、《取り組んでいる》は、6ブロック[上野地域]（61.5%）と1ブロック[南部地域]（60.0%）で6割台と高くなっている。（図表6 - 15）

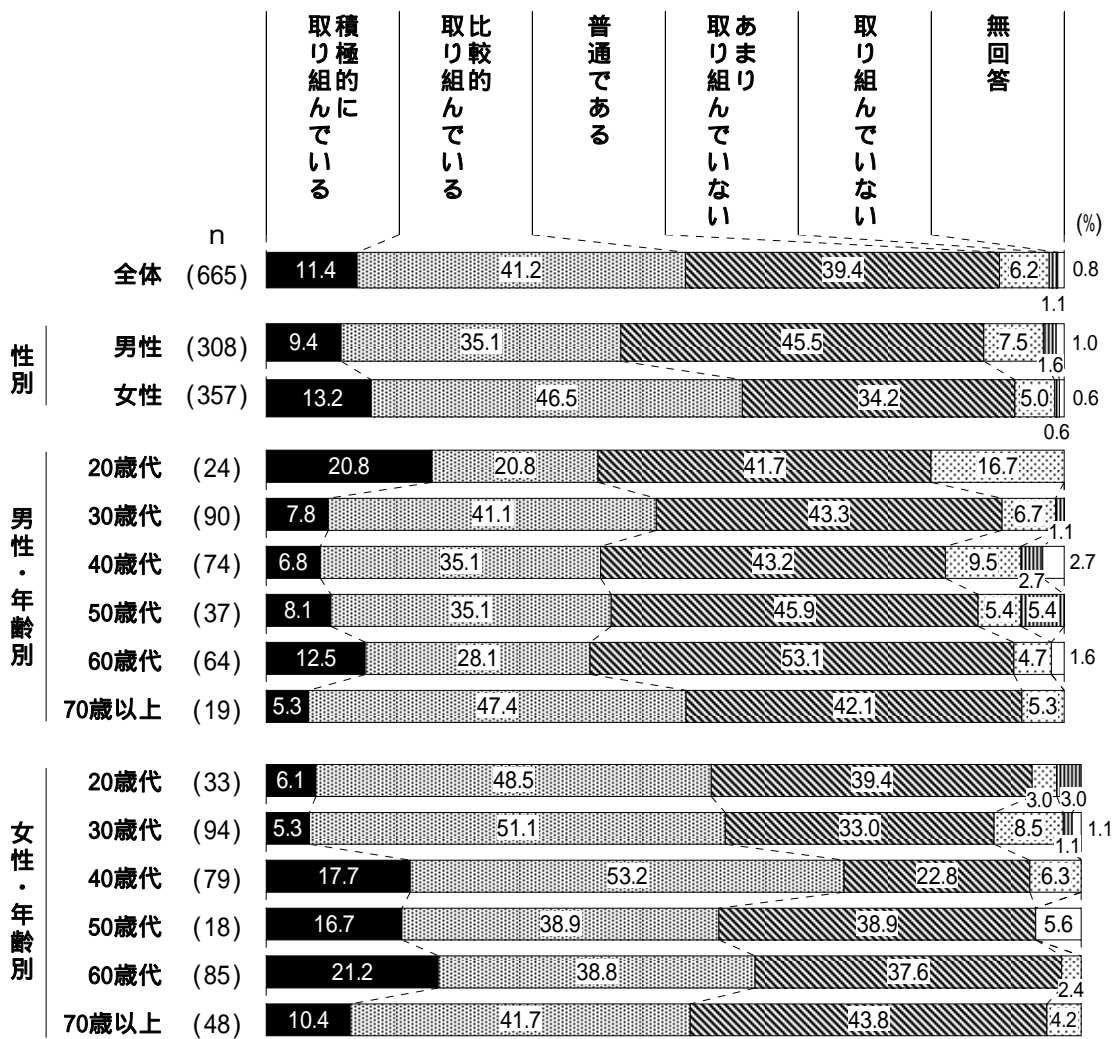
<図表6 - 15> 環境に配慮した行動への取り組み 居住地域別



性別でみると、《取り組んでいる》は、女性（59.7%）の方が男性（44.5%）より15.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《取り組んでいる》は、女性の40歳代（70.9%）で7割と特に高くなっている。
（図表6 - 16）

<図表6 - 16> 環境に配慮した行動への取り組み 性別 / 性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

7. 生涯学習のための取り組み

生活様式や価値観の多様化が進む中で、区民の一人ひとりが、心の豊かさや生きがいを、自分に合った形で実現していくことや、学習の成果を地域での交流やさまざまな課題解決に活かしていくことが大切です。

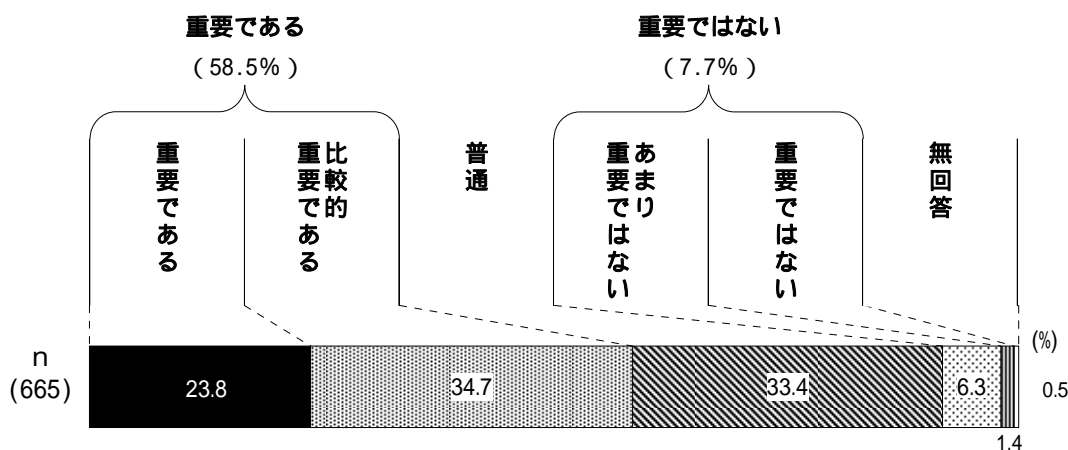
区では、生涯学習センターを核として、区民相互が学び合い、交流する環境づくりを進めています。

(1) 生涯学習についての重要度

《重要である》が約6割

問20 生涯学習についてどの程度重要だと思いますか。(1つだけをおつけください)

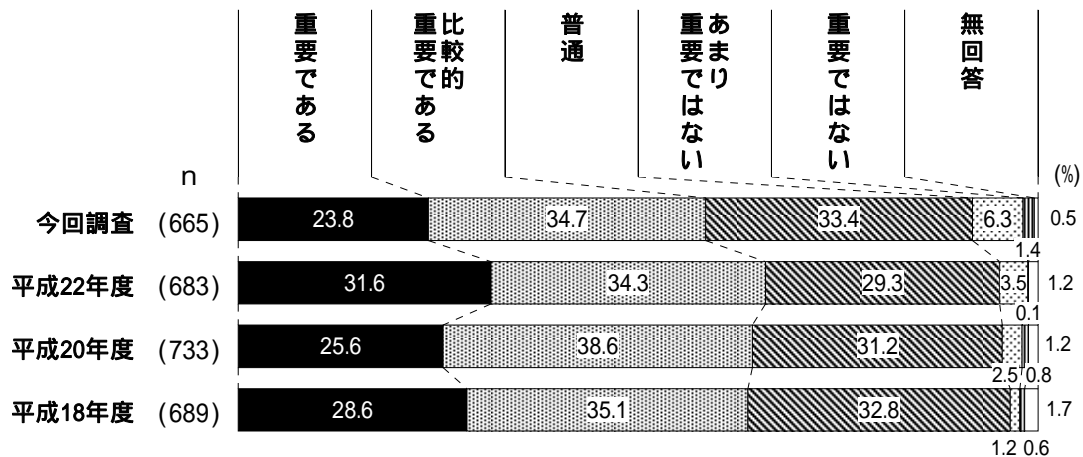
<図表7-1> 生涯学習についての重要度



生涯学習がどの程度重要かを聞いたところ、「重要である」(23.8%)に「比較的 importantである」(34.7%)を合わせると、《重要である》は58.5%で約6割となっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は7.7%である。(図表7-1)

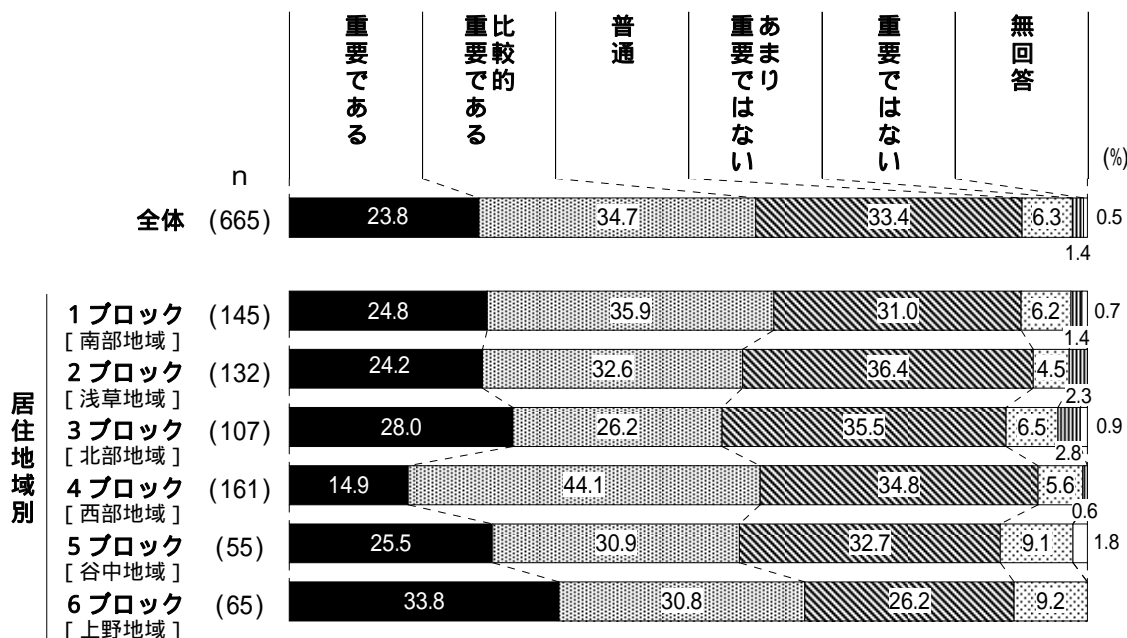
過去の調査結果と比較すると、《重要である》(58.5%)は、平成22年度(65.9%)より7.4ポイント減少している。(図表7-2)

<図表7-2> 生涯学習についての重要度 経年比較



居住地域別で見ると、《重要である》は、6ブロック[上野地域](64.6%)で6割台半ばと最も高く、1ブロック[南部地域](60.7%)で6割となっている。(図表7-3)

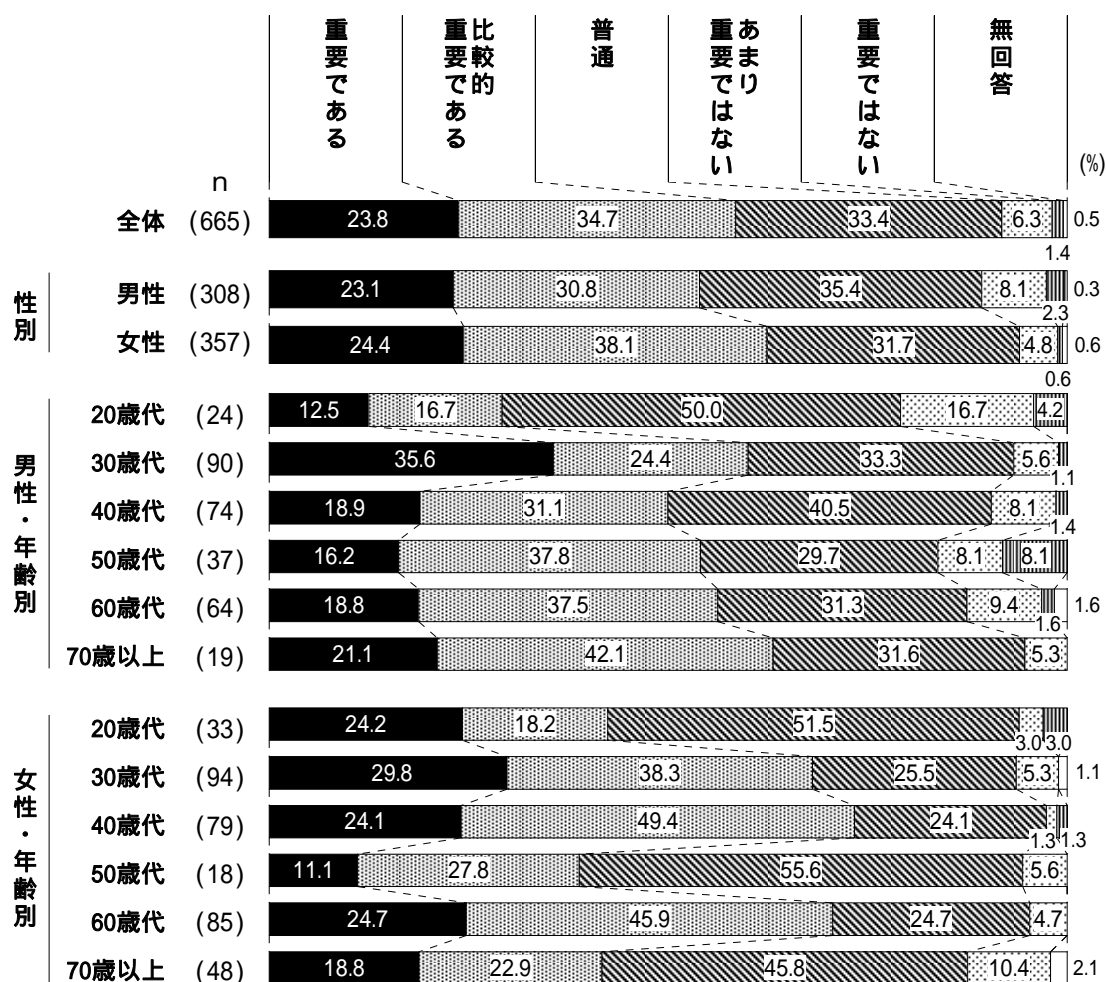
<図表7-3> 生涯学習についての重要度 居住地域別



性別でみると、《重要である》は、女性（62.5%）の方が男性（53.9%）より8.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の40歳代（73.5%）と60歳代（70.6%）で7割台と高くなっている。（図表7 - 4）

<図表7 - 4> 生涯学習についての重要度 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

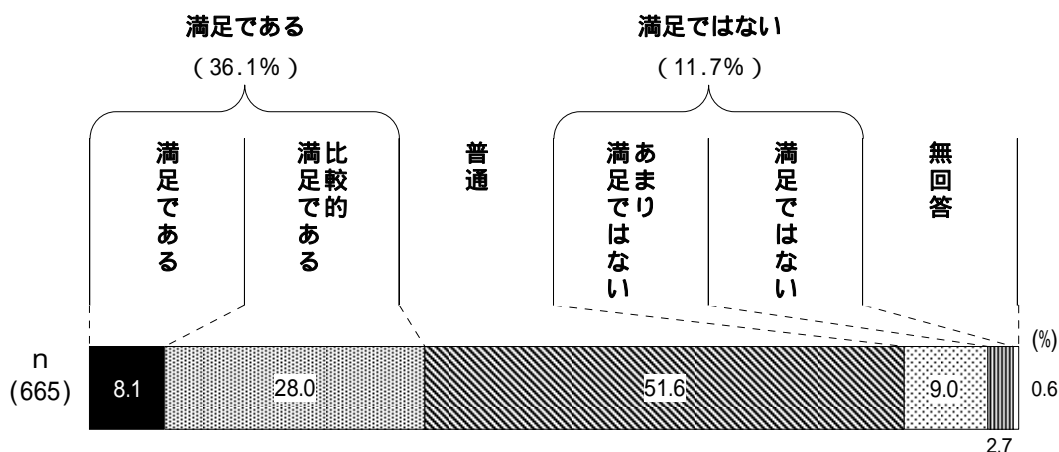
(2) 生涯学習への区の取り組みについての満足度

「普通」が5割を超える

問21 生涯学習への区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

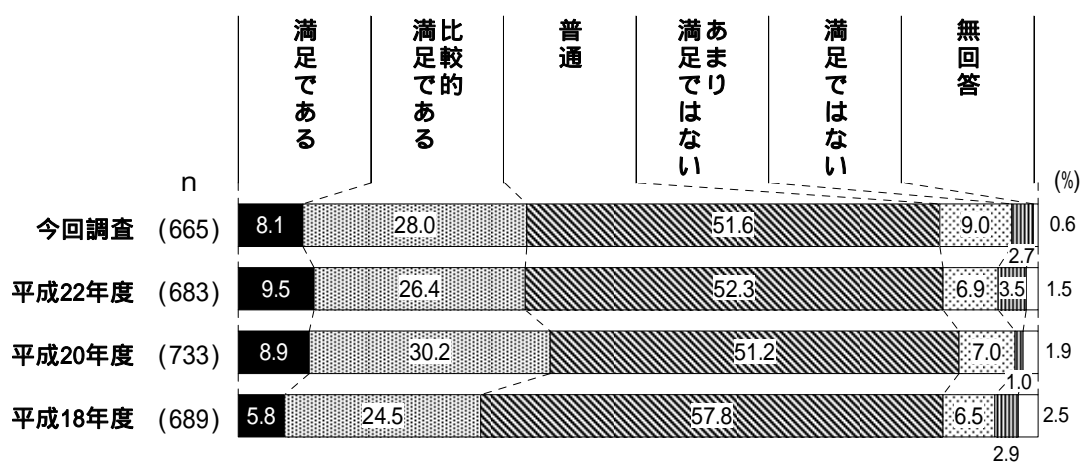
<図表7-5> 生涯学習への区の取り組みについての満足度



生涯学習への区の取り組みについての満足度について聞いたところ、「普通」(51.6%)が5割を超えて最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は36.1%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は11.7%である。(図表7-5)

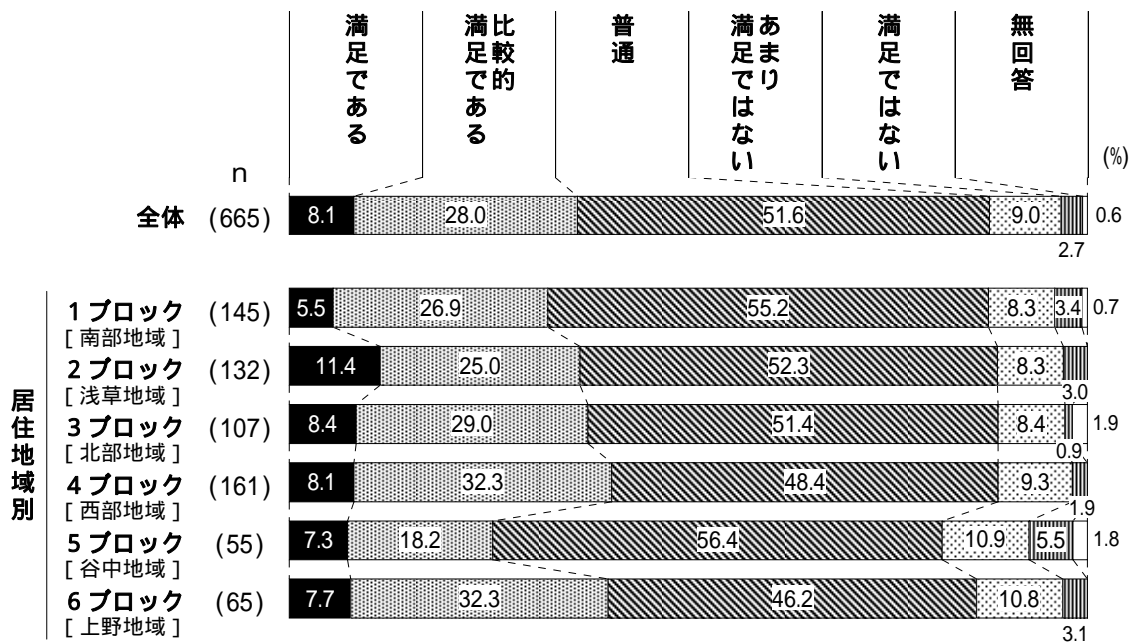
過去の調査結果と比較すると、《満足である》に特に大きな変化はみられない。(図表7-6)

<図表7-6> 生涯学習への区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、4ブロック[西部地域]（40.4%）と6ブロック[上野地域]（40.0%）で4割と高くなっている。（図表7 - 7）

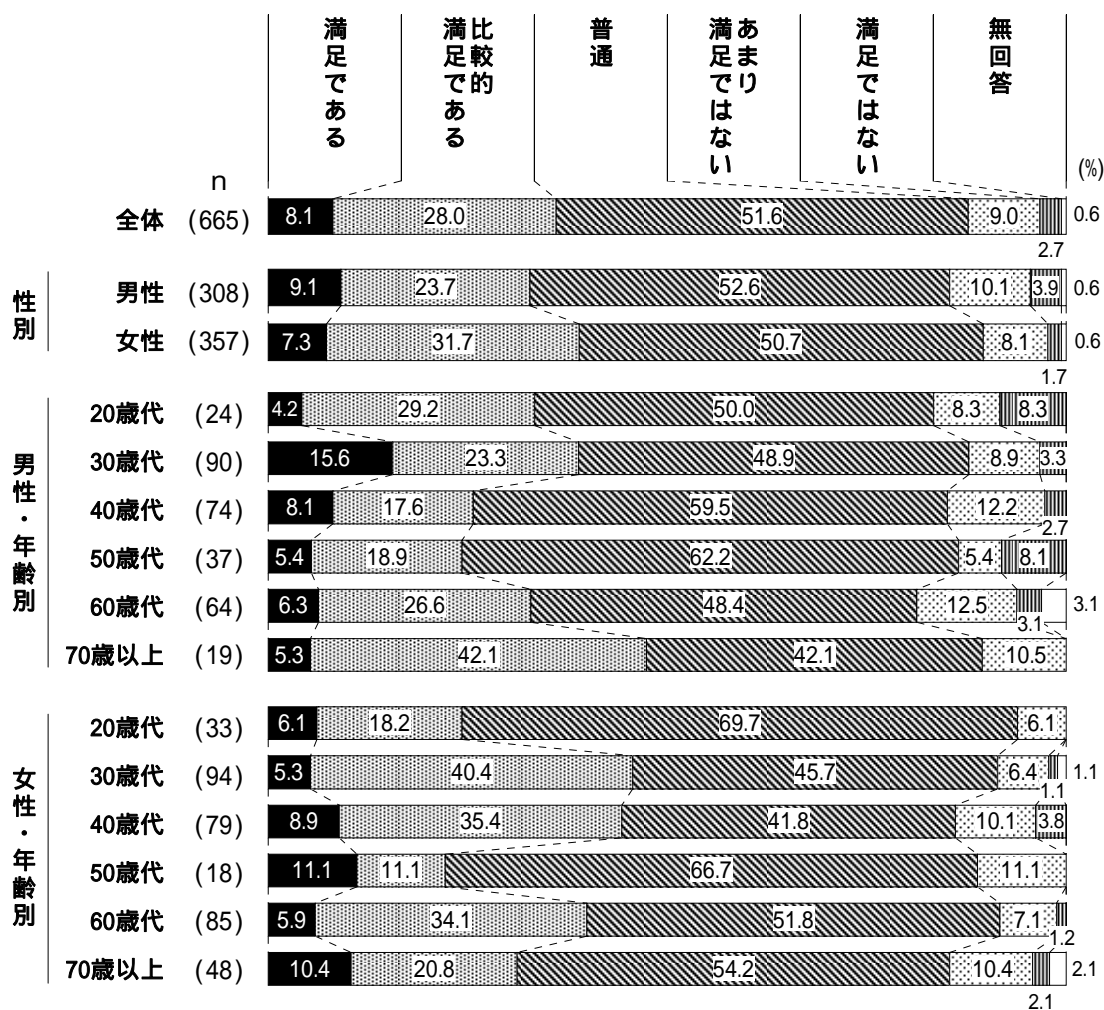
<図表7 - 7> 生涯学習への区の取り組みについての満足度 居住地域別



性別でみると、《満足である》は、女性（39.0%）の方が男性（32.8%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の30歳代（45.7%）と40歳代（44.3%）で4割台半ばと高くなっている。（図表7-8）

<図表7-8> 生涯学習への区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

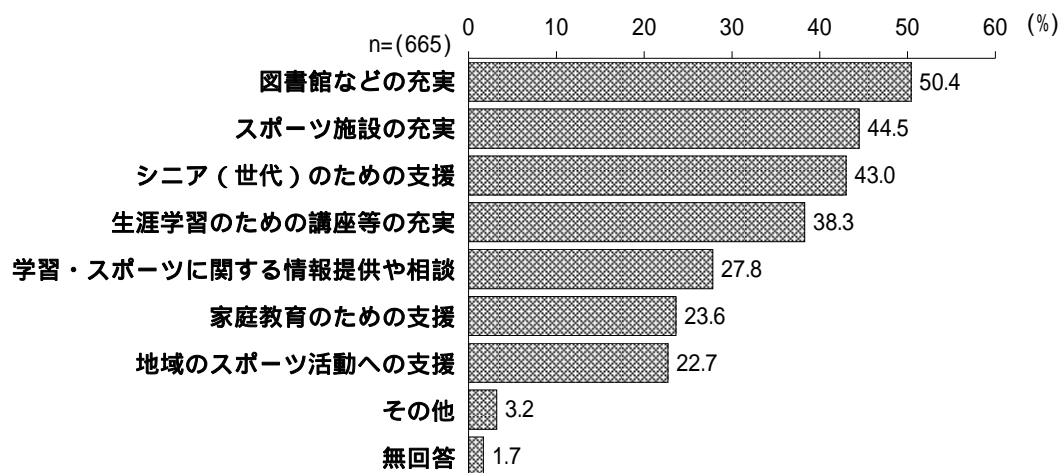
(3) 生涯学習のための取り組みとして大切なもの

「図書館などの充実」が5割

問22 生涯学習のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

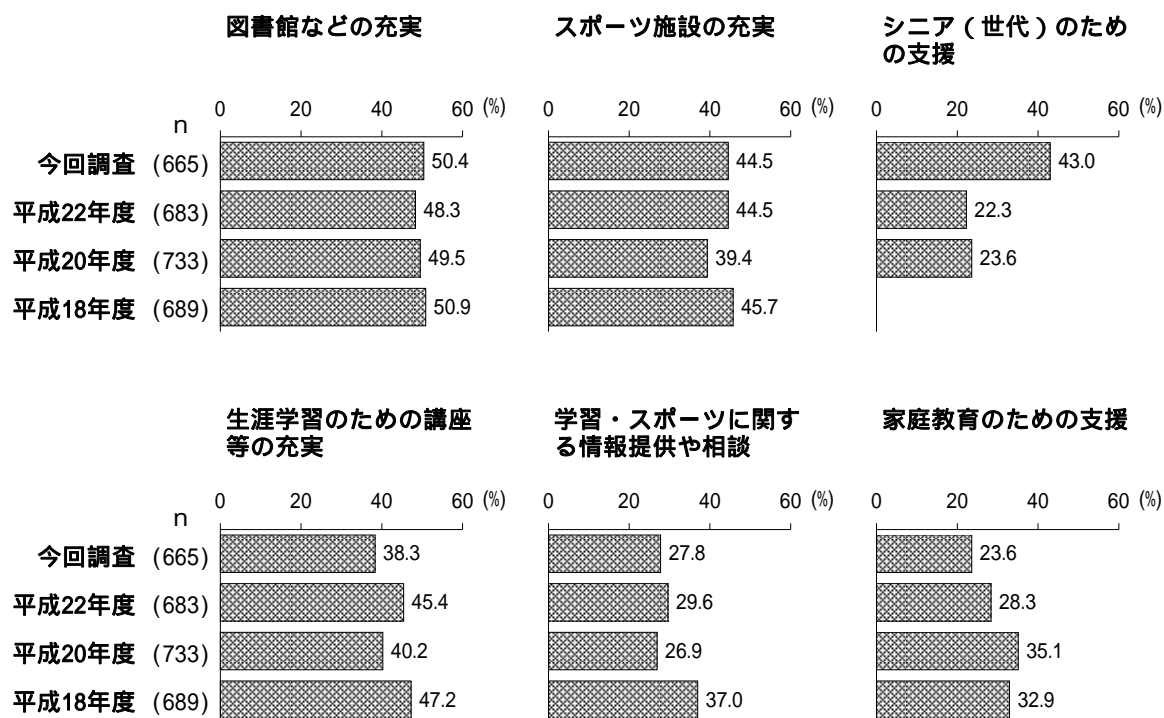
<図表7-9> 生涯学習のための取り組みとして大切なもの(複数回答)



生涯学習のための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「図書館などの充実」(50.4%)が5割で最も高くなっている。次いで、「スポーツ施設の充実」(44.5%)と「シニア(世代)のための支援」(43.0%)が4割台半ばとなっている。(図表7-9)

過去の調査結果と比較すると、「生涯学習のための講座等の充実」(38.3%)は平成22年度(45.4%)から7.1ポイント、「家庭教育のための支援」(23.6%)は平成22年度(28.3%)から4.7ポイント減少している。(図表7-10)

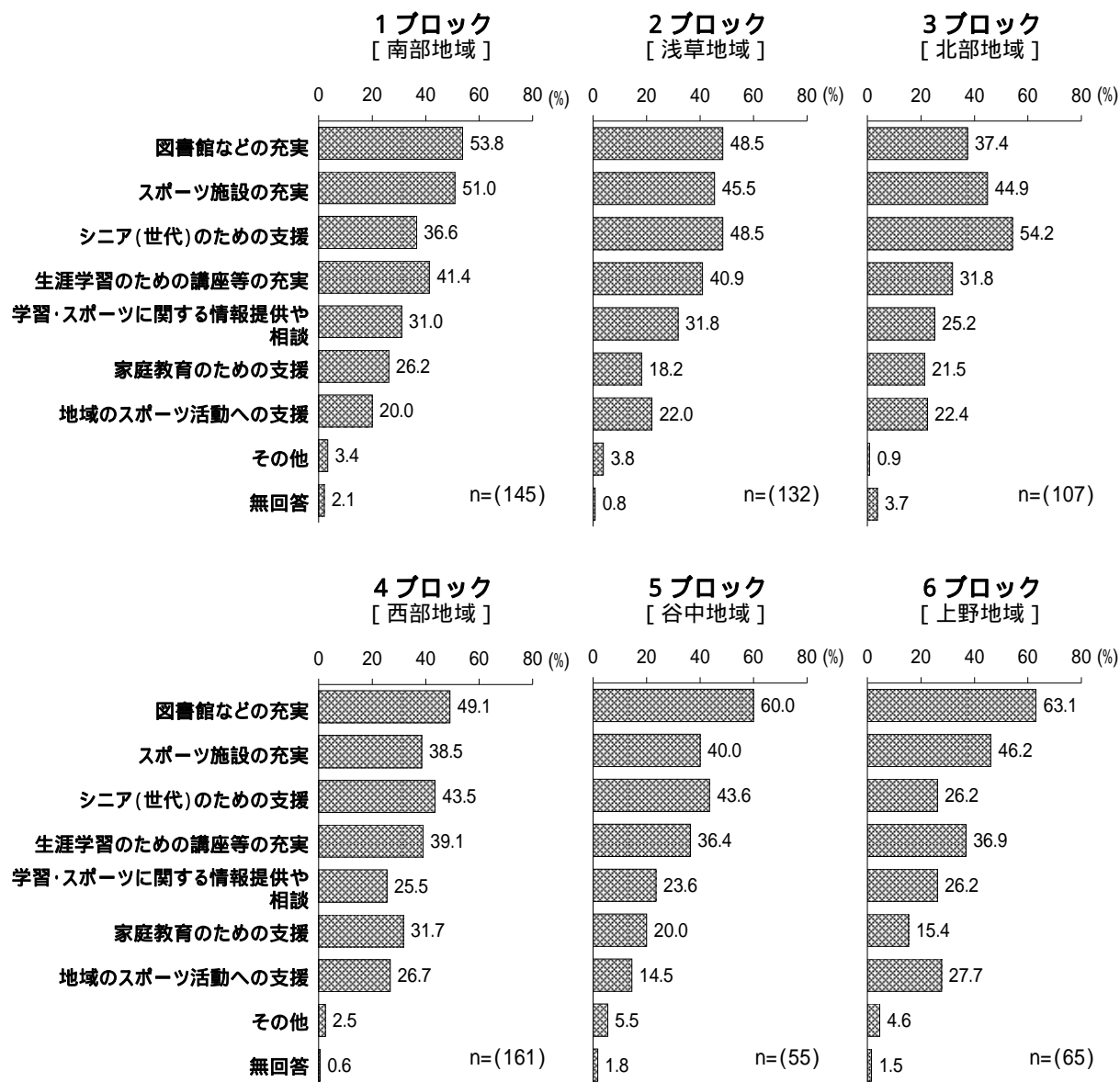
<図表7-10> 生涯学習のための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



平成18年度はなし、平成20年度と平成22年度は「団塊世代のための支援」、今回調査は「シニア(世代)のための支援」

居住地域別でみると、「図書館などの充実」は、6ブロック[上野地域] (63.1%)と5ブロック[谷中地域] (60.0%)で6割台と高くなっている。「シニア(世代)のための支援」は、3ブロック[北部地域] (54.2%)で5割台半ばと高くなっている。(図表7-11)

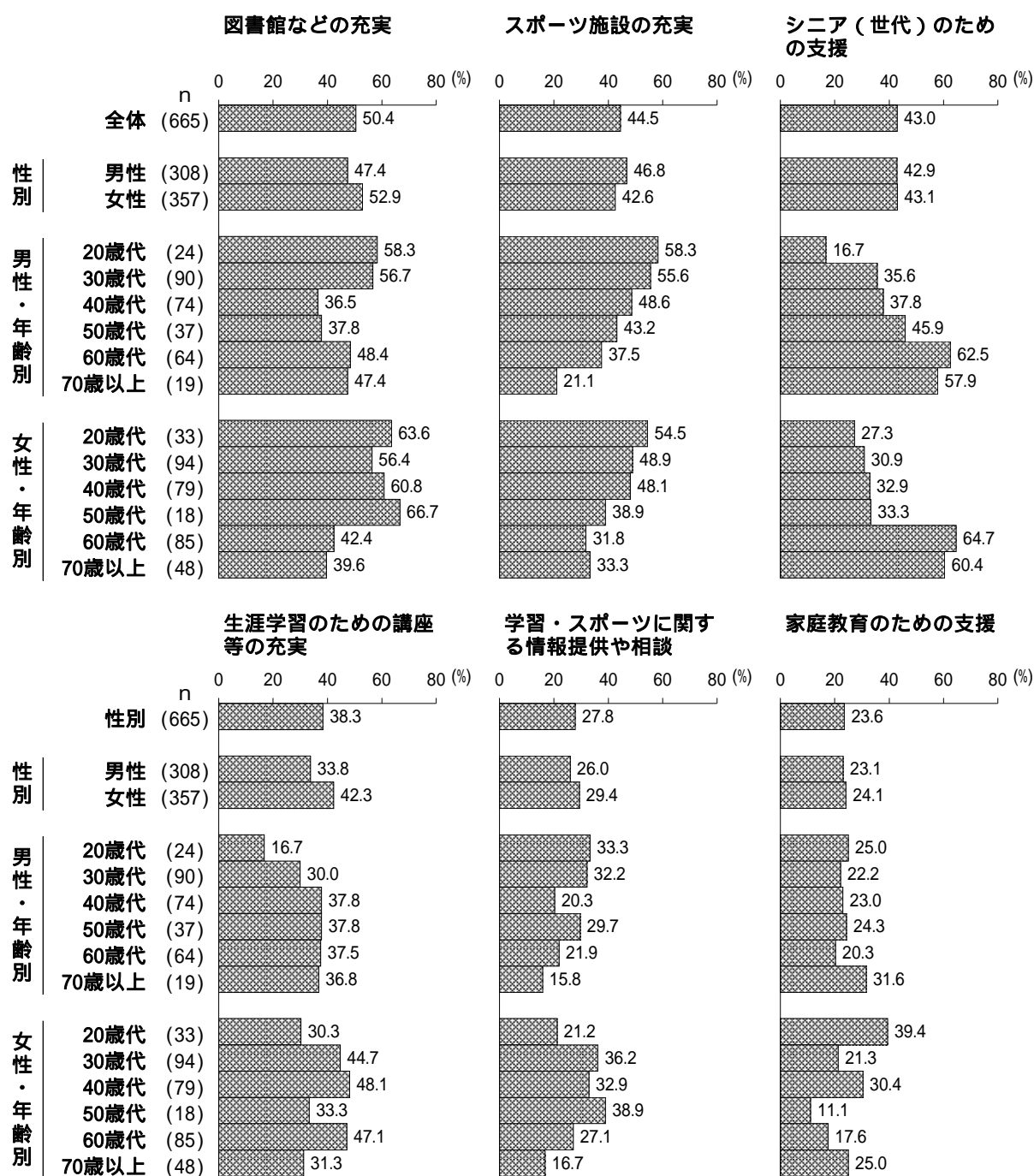
<図表7-11> 生涯学習のための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「図書館などの充実」は、女性（52.9%）の方が男性（47.4%）より5.5ポイント、「生涯学習のための講座等の充実」は、女性（42.3%）の方が男性（33.8%）より8.5ポイント高くなっている。一方、「スポーツ施設の充実」は、男性（46.8%）の方が女性（42.6%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「図書館などの充実」は、女性の20歳代（63.6%）と40歳代（60.8%）で6割台と高くなっている。「スポーツ施設の充実」は、男女ともおおむね年齢が上がるほど割合は低くなっている。また、「シニア（世代）のための支援」は、男女とも60歳代で最も高く、「家庭教育のための支援」は、女性の20歳代（39.4%）で約4割と高くなっている。（図表7 - 12）

<図表7 - 12> 生涯学習のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



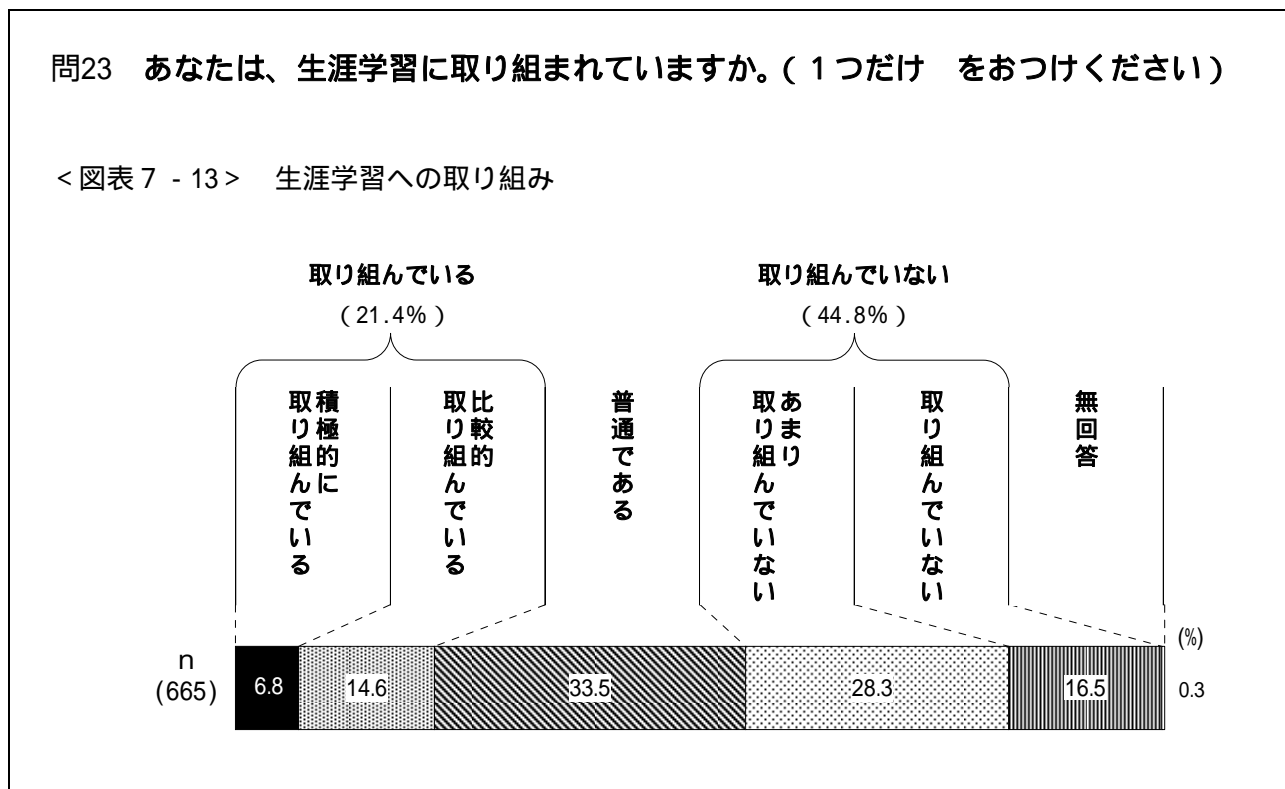
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(4) 生涯学習への取り組み

《取り組んでいない》が4割台半ば

問23 あなたは、生涯学習に取り組まれていますか。(1つだけをおつけください)

<図表7-13> 生涯学習への取り組み

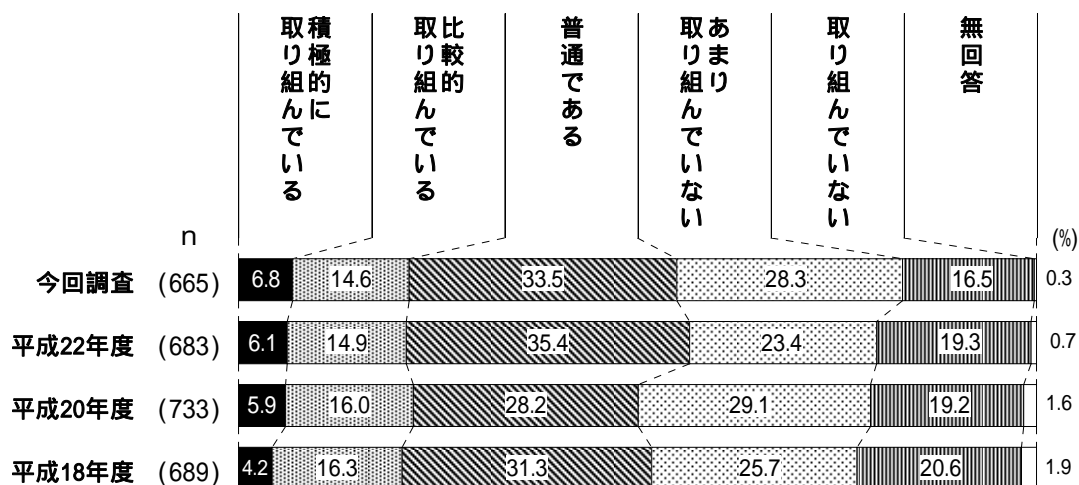


生涯学習への取り組みについて聞いたところ、「普通である」(33.5%)が3割台半ばで最も高くなっている。《取り組んでいる》(「積極的に取り組んでいる」と「比較的取り組んでいる」の合計)は21.4%、《取り組んでいない》(「取り組んでいない」と「あまり取り組んでいない」の合計)は44.8%である。

(図表7-13)

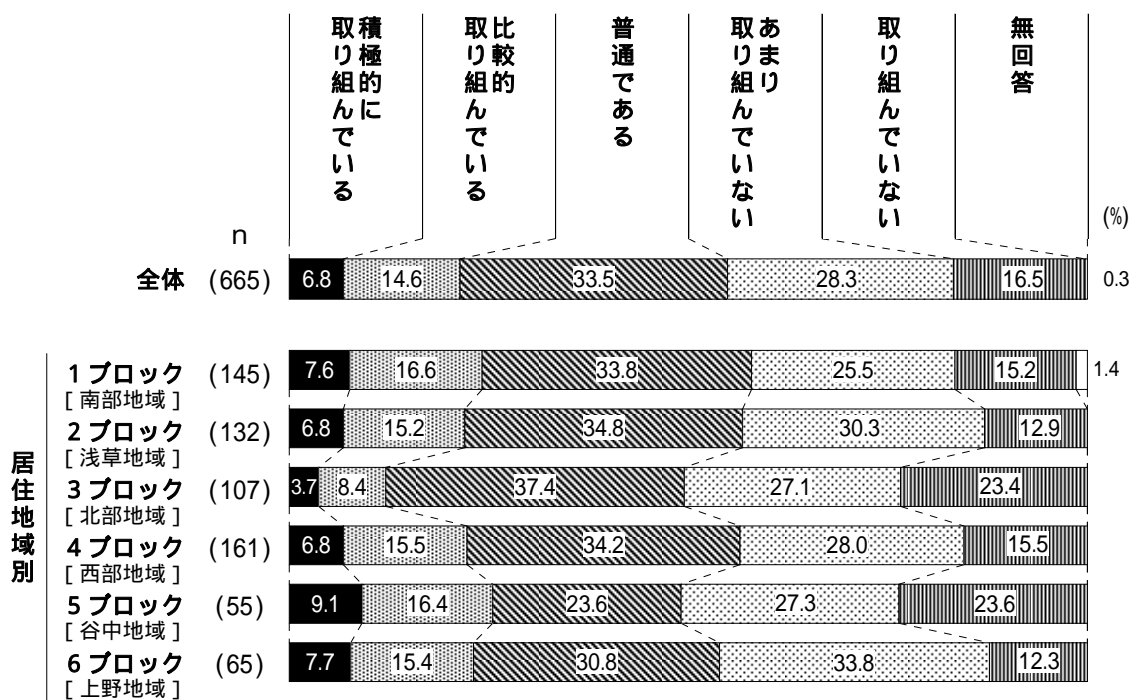
過去の調査結果と比較すると、《取り組んでいる》に特に大きな変化はみられない。(図表7-14)

<図表7-14> 生涯学習への取り組み 経年比較



居住地域別でみると、《取り組んでいる》は、3ブロック[北部地域]（12.1%）で1割を超える程度と低くなっている。一方、《取り組んでいない》は、5ブロック[谷中地域]（50.9%）と3ブロック[北部地域]（50.5%）で5割と高くなっている。（図表7 - 15）

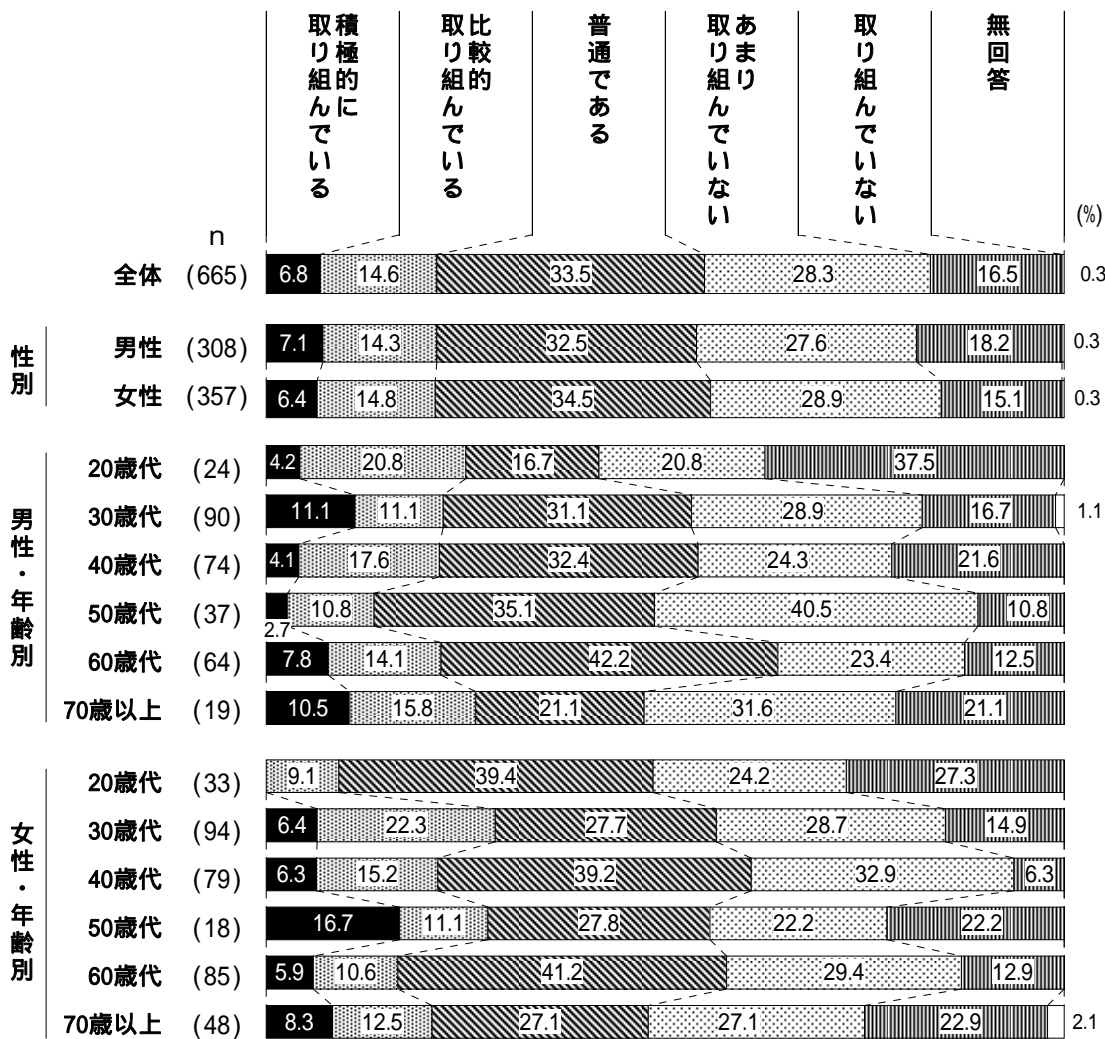
<図表7 - 15> 生涯学習への取り組み 居住地域別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《取り組んでいる》は、女性の30歳代（28.7%）で約3割と最も高くなっている。一方、《取り組んでいない》は、男性の50歳代（51.3%）、女性の20歳代（51.5%）と70歳以上（50.0%）で5割台と高くなっている。（図表7 - 16）

<図表7 - 16> 生涯学習への取り組み 性別/性・年齢別



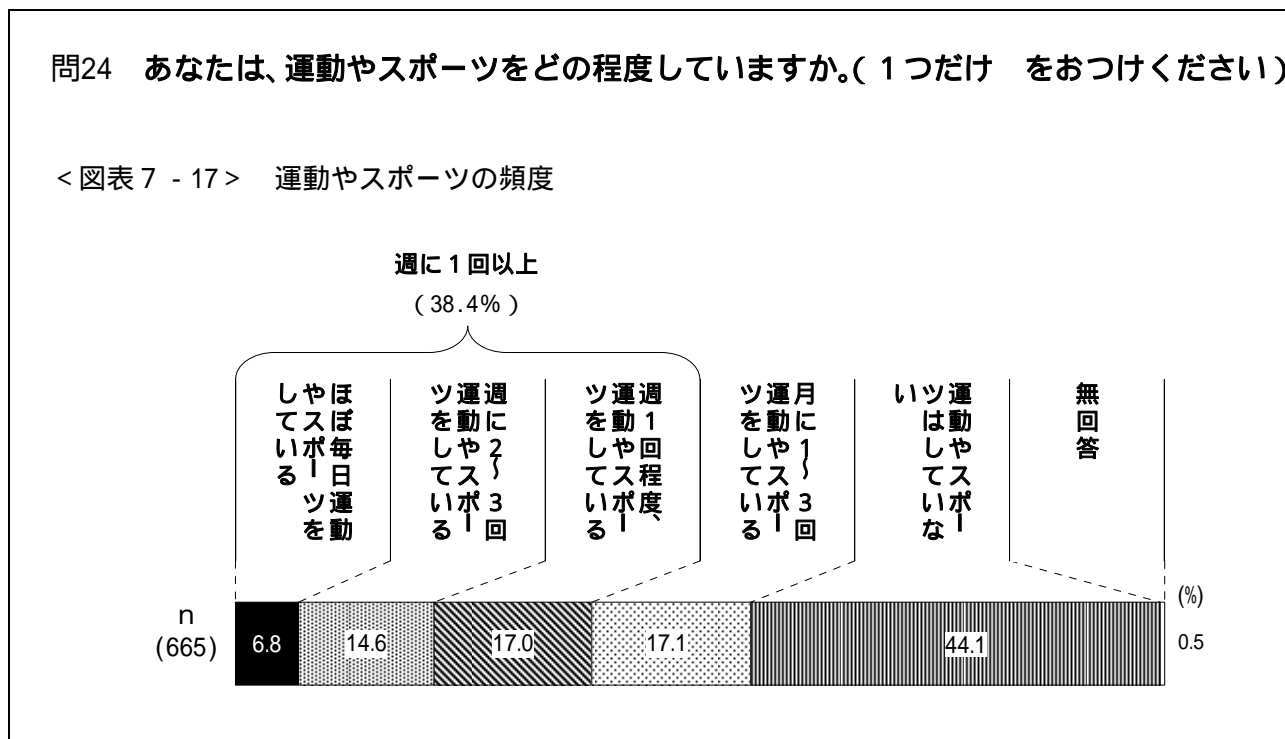
(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(5) 運動やスポーツの頻度

「運動やスポーツはしていない」が4割台半ば、《週に1回以上》が約4割

問24 あなたは、運動やスポーツをどの程度していますか。(1つだけをおつけください)

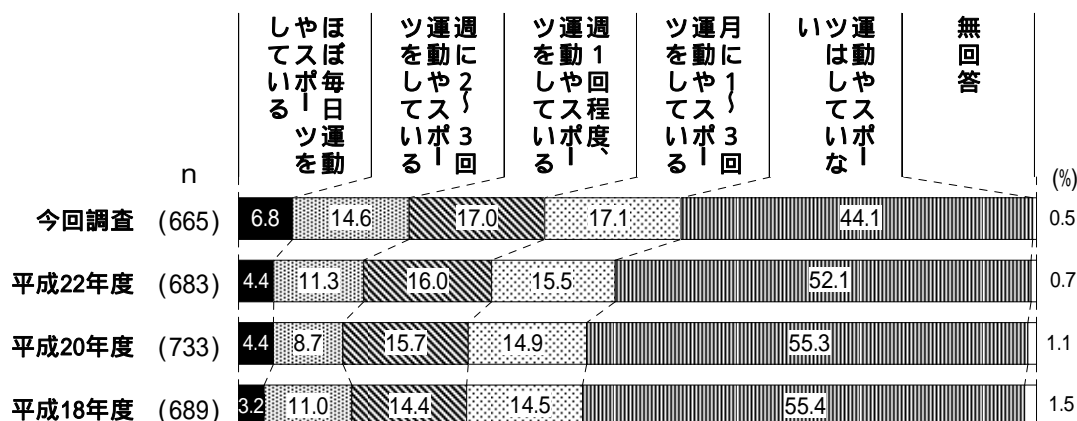
<図表7-17> 運動やスポーツの頻度



スポーツの頻度について聞いたところ、「運動やスポーツはしていない」(44.1%)が4割台半ばで最も高くなっている。一方、「ほぼ毎日運動やスポーツをしている」(6.8%)、「週に2~3回運動やスポーツをしている」(14.6%)、「週1回程度、運動やスポーツをしている」(17.0%)を合わせると、《週に1回以上》は38.4%で約4割となっている。(図表7-17)

過去の調査結果と比較すると、選択肢が一部異なるため単純に比較はできないが、《週に1回以上》(38.4%)は平成18年度(28.6%)以降増加傾向がみられる。(図表7-18)

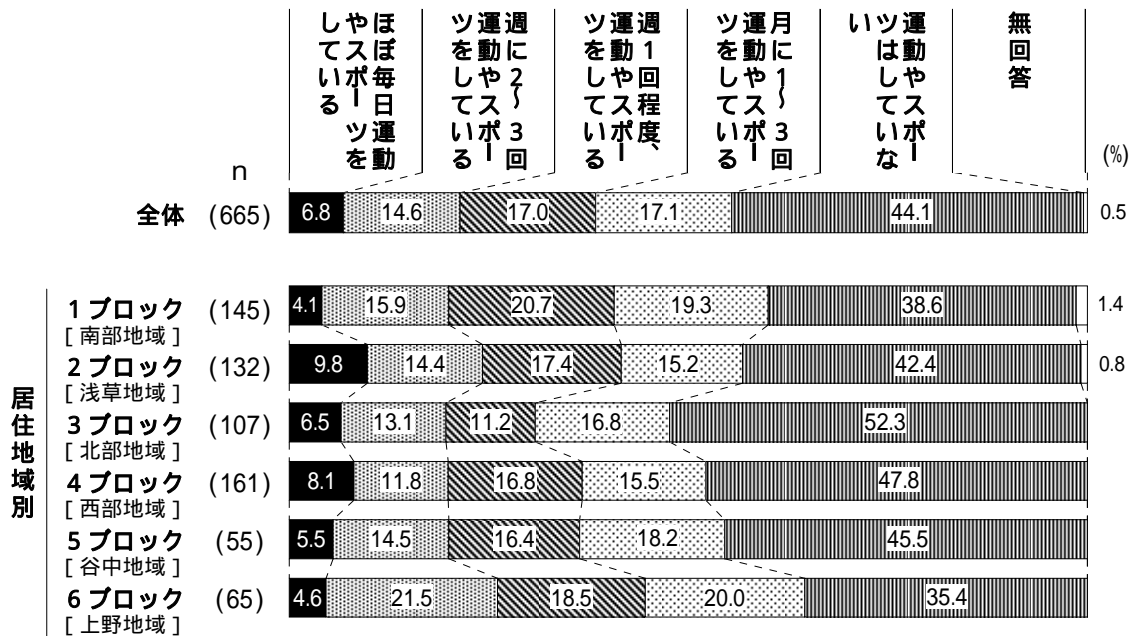
<図表7-18> 運動やスポーツの頻度 経年比較



今回調査より質問文および選択肢に「運動」を追記。

居住地域別でみると、《週に1回以上》は、6ブロック[上野地域]（44.6%）、2ブロック[浅草地域]（41.6%）、1ブロック[南部地域]（40.7%）で4割台と高くなっている。一方、「運動やスポーツはしていない」は、3ブロック[北部地域]（52.3%）で5割を超えて高くなっている。（図表7 - 19）

<図表7 - 19> 運動やスポーツの頻度 居住地域別



性別でみると、《週に1回以上》は大きな違いはみられないが、「運動やスポーツはしていない」は、女性（47.6%）の方が男性（39.9%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《週に1回以上》は、女性の60歳代（48.3%）で約5割、男性の30歳代（40.0%）と40歳代（43.3%）で4割台と高くなっている。一方、「運動やスポーツはしていない」は、女性の70歳以上（60.4%）で6割と高くなっている。（図表7-20）

<図表7-20> 運動やスポーツの頻度 性別/性・年齢別



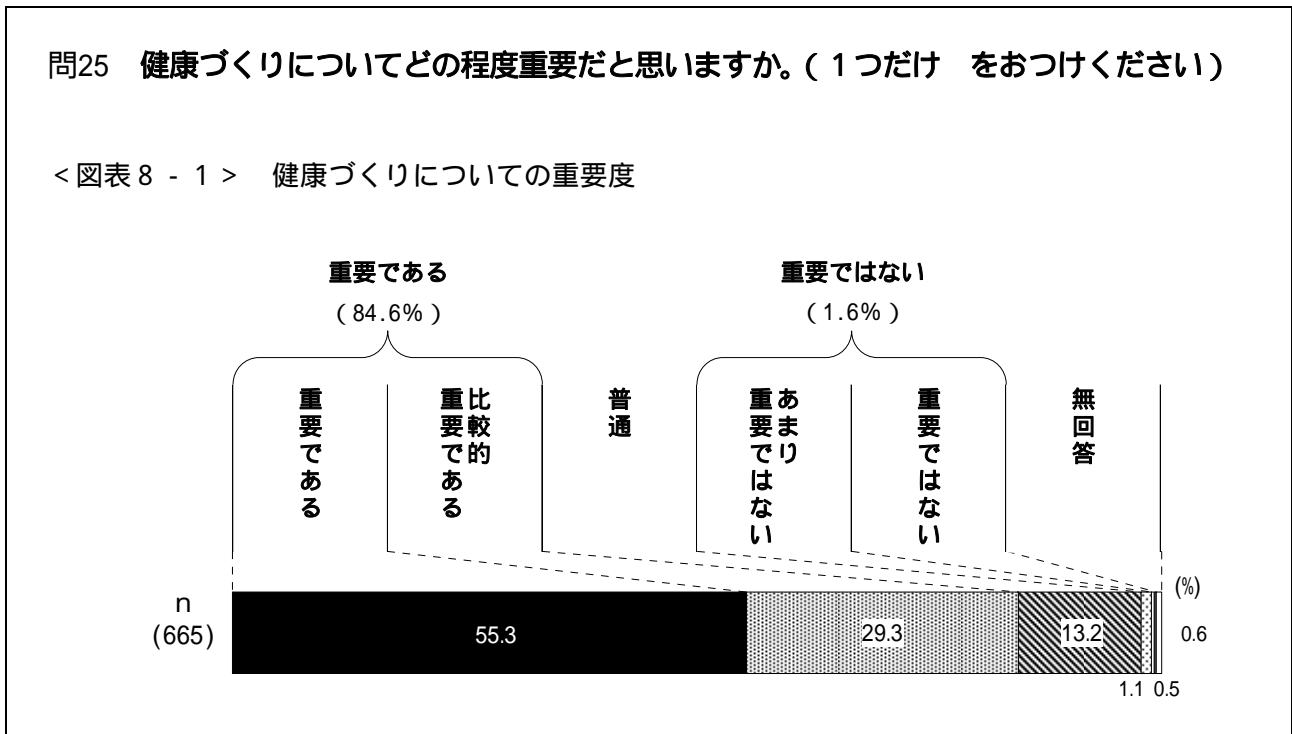
(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

8 . 健康づくりのための取り組み

すべての区民が、それぞれに健康を維持し、いきいきとした日常生活を送れることが大切です。
区では、だれもが生涯を通じて心と体の健康づくりに取り組めるように、生活習慣病の予防、親子の健康づくり、介護の予防、地域の健康づくり活動などを支援しています。

(1) 健康づくりについての重要度

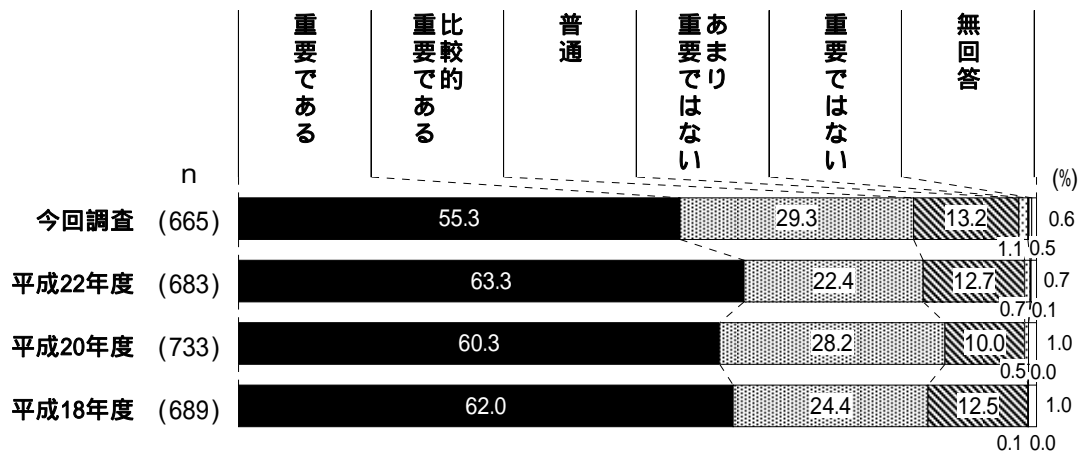
《重要である》が 8 割台半ば



健康づくりがどの程度重要かを聞いたところ、「重要である」(55.3%)が5割台半ばで最も高くなっている。これに「比較的重要である」(29.3%)を合わせると、《重要である》は84.6%で8割台半ばとなっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.6%である。(図表8-1)

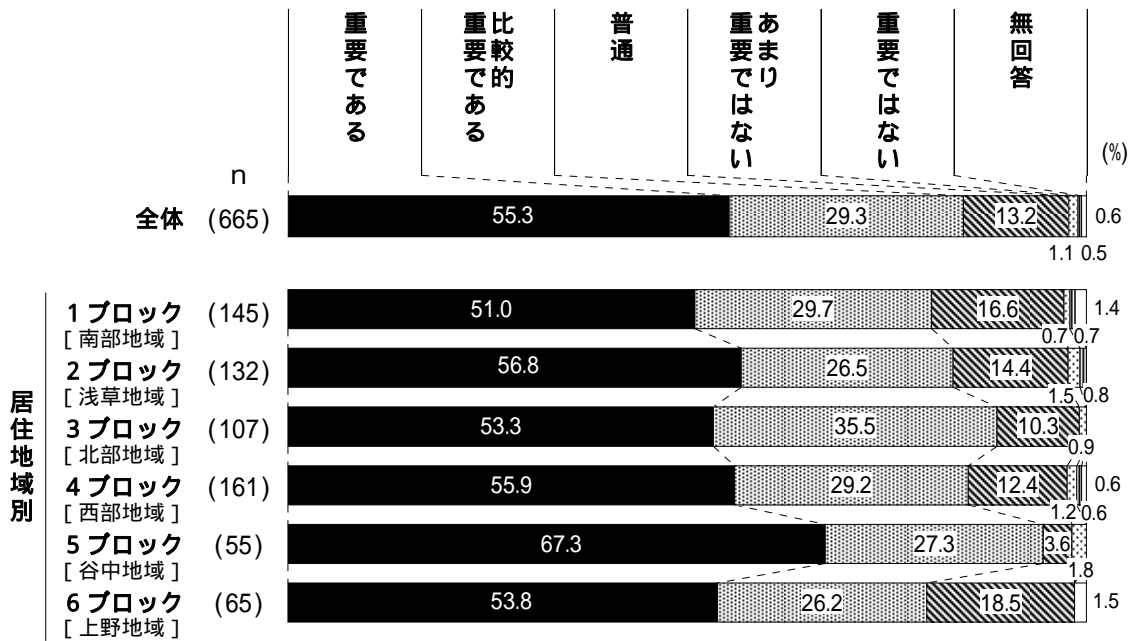
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表8 - 2)

<図表8 - 2> 健康づくりについての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、5ブロック[谷中地域] (94.6%) で9割台半ばと高くなっている。(図表8 - 3)

<図表8 - 3> 健康づくりについての重要度 居住地域別

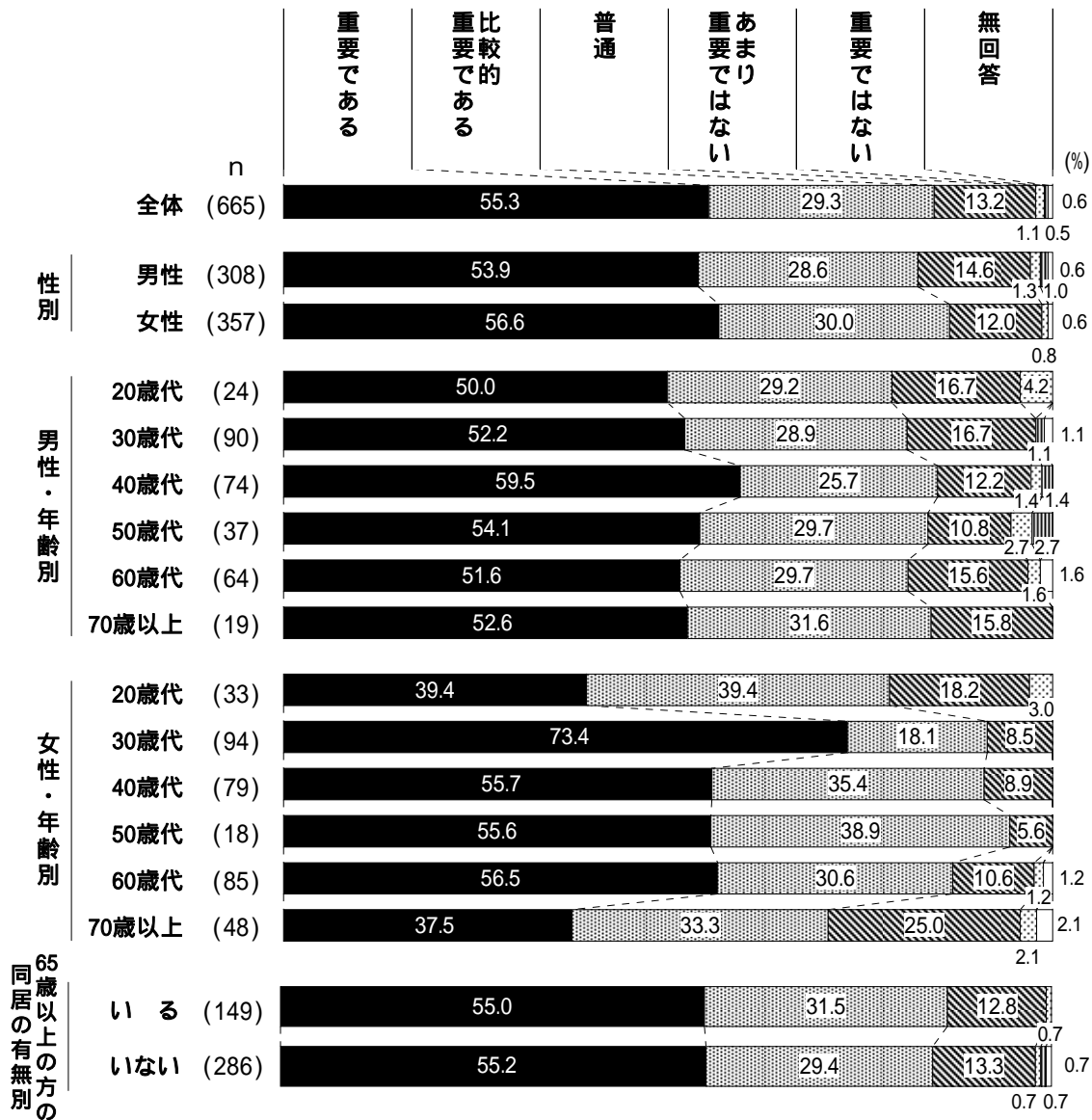


性別でみると、《重要である》は女性（86.6%）の方が男性（82.5%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の30歳代（91.5%）と40歳代（91.1%）で9割を超えて高く、特に女性30歳代は「重要である」（73.4%）が7割台半ばと高くなっている。

65歳以上の方の同居の有無別でみると、大きな違いはみられない。（図表8 - 4）

<図表8 - 4> 健康づくりについての重要度 性別/性・年齢別/65歳以上の方の同居の有無別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

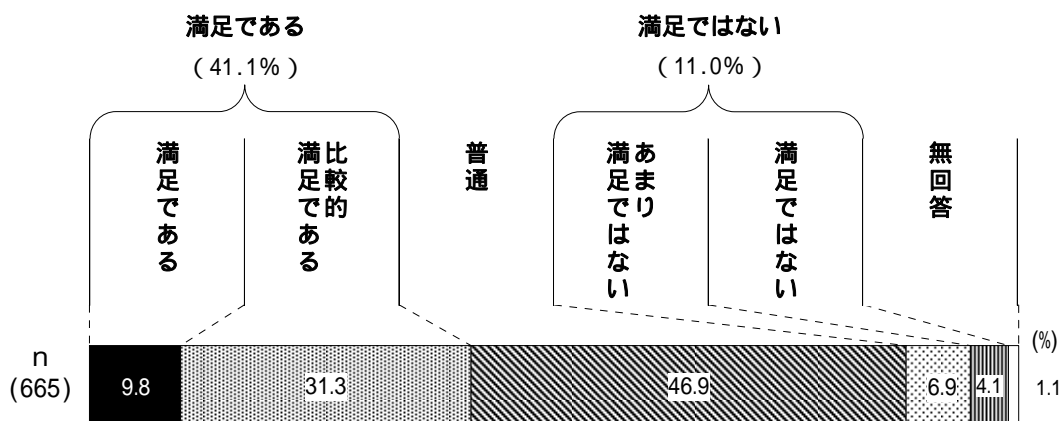
(2) 健康づくりのための区の取り組みについての満足度

「普通」が4割台半ば、《満足である》は4割を超える

問26 健康づくりのための区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

<図表8-5> 健康づくりのための区の取り組みについての満足度

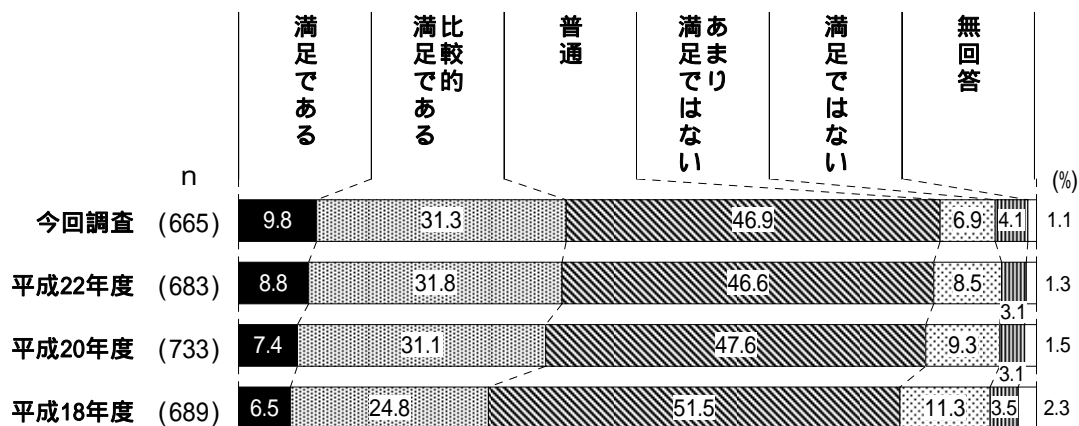


健康づくりのための区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、「普通」(46.9%)が4割台半ばで最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は41.1%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は11.0%である。(図表8-5)

過去の調査結果と比較すると、《満足である》は、平成20年以降、特に大きな変化はみられない。

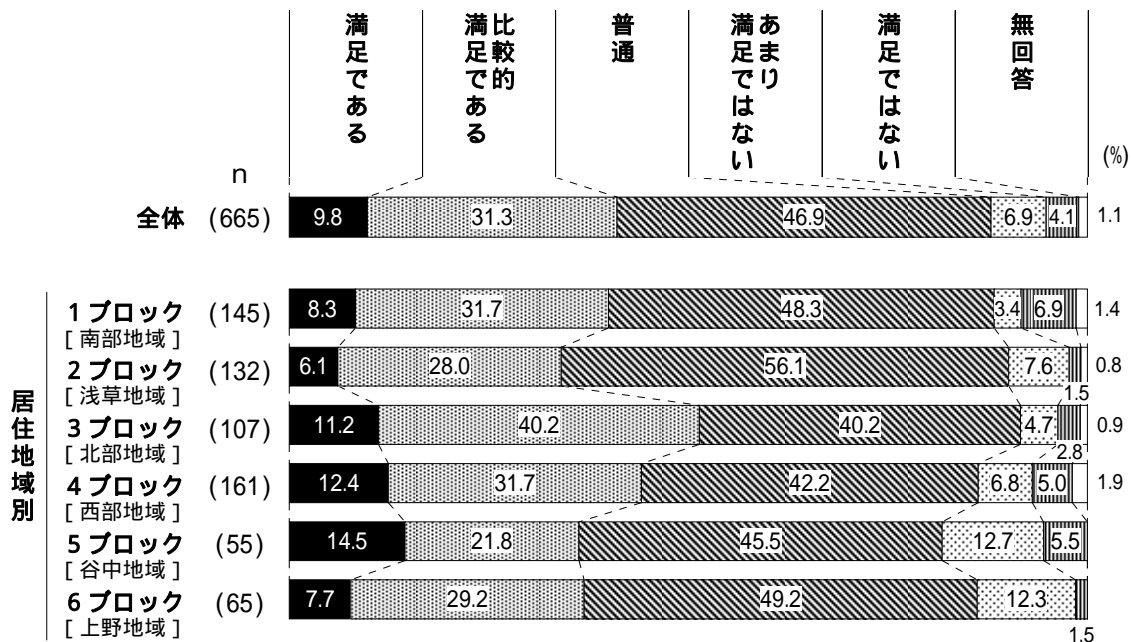
(図表8-6)

<図表8-6> 健康づくりのための区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、3ブロック[北部地域] (51.4%) で5割を超えて最も高くなっている。(図表8 - 7)

<図表8 - 7> 健康づくりのための区の取り組みについての満足度 居住地域別

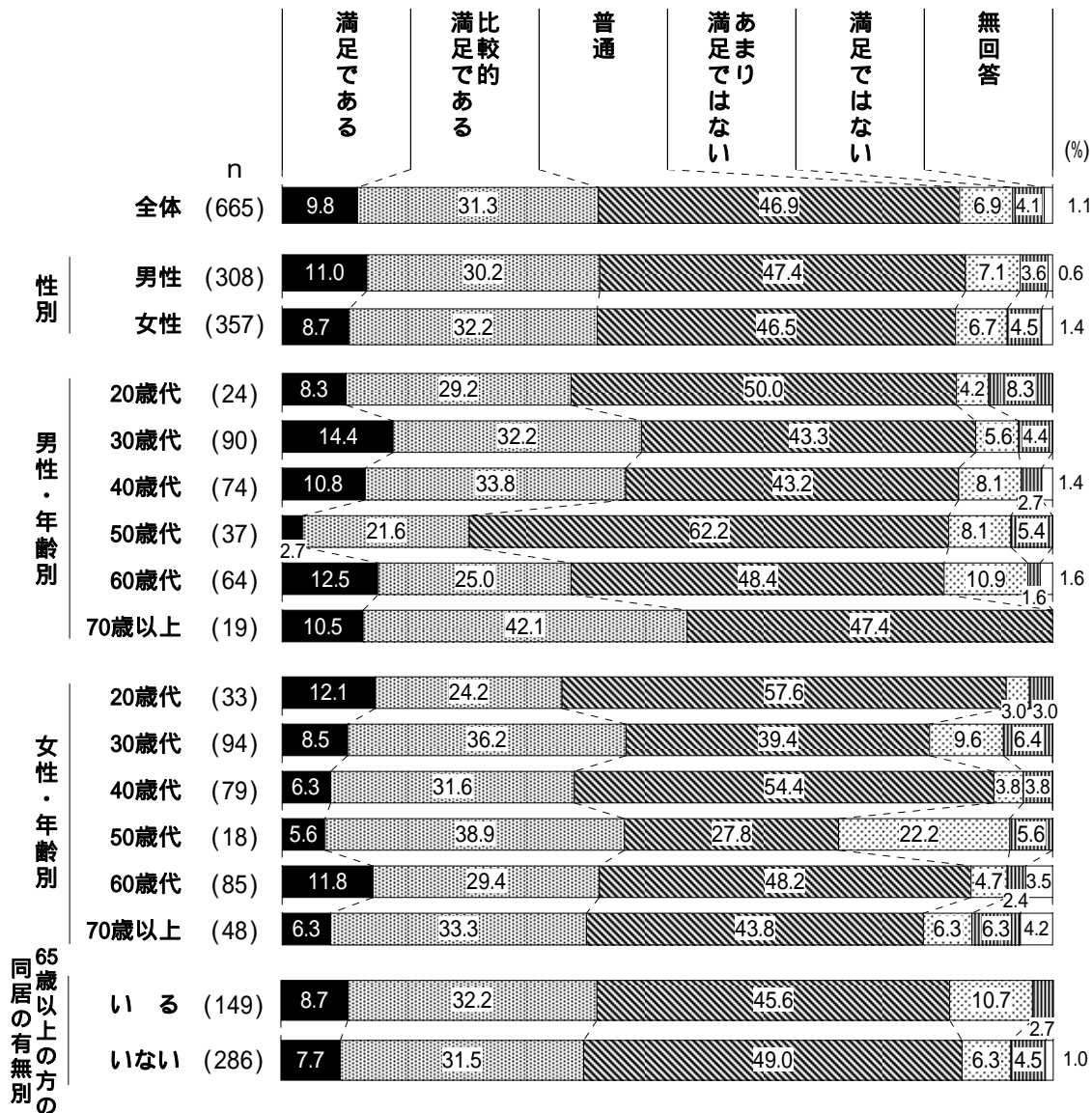


性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《満足である》は、男性の30歳代（46.6%）と40歳代（44.6%）、女性の30歳代（44.7%）で4割台半ばと高くなっている。

65歳以上の方の同居の有無別でみると、大きな違いはみられない。（図表8 - 8）

<図表8 - 8> 健康づくりのための区の取り組みについての満足度 性別 / 性・年齢別 / 65歳以上の方の同居の有無別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

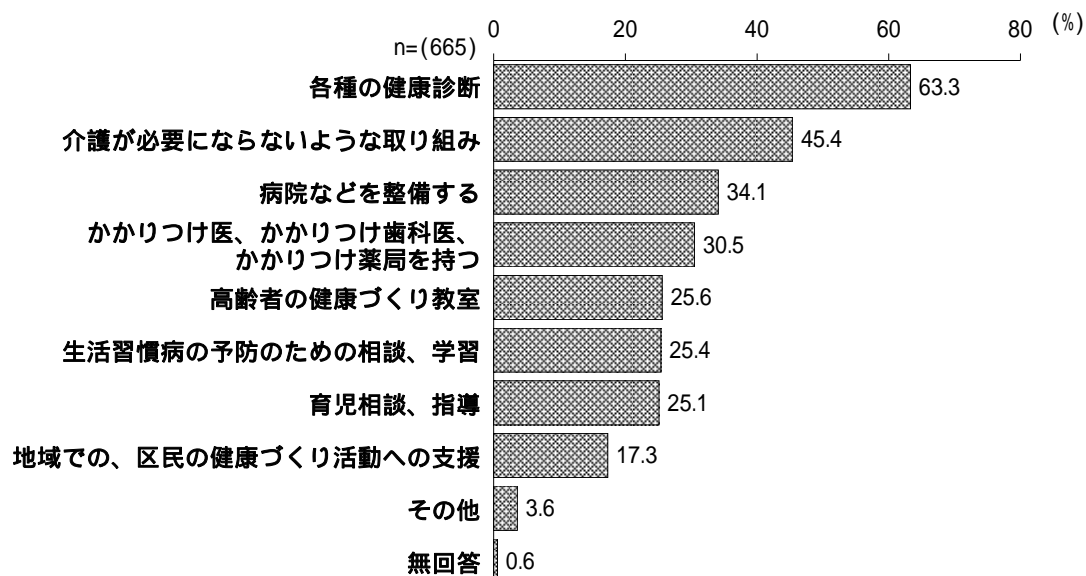
(3) 健康づくりのための取り組みとして大切なもの

「各種の健康診断」が6割台半ば

問27 健康づくりのため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

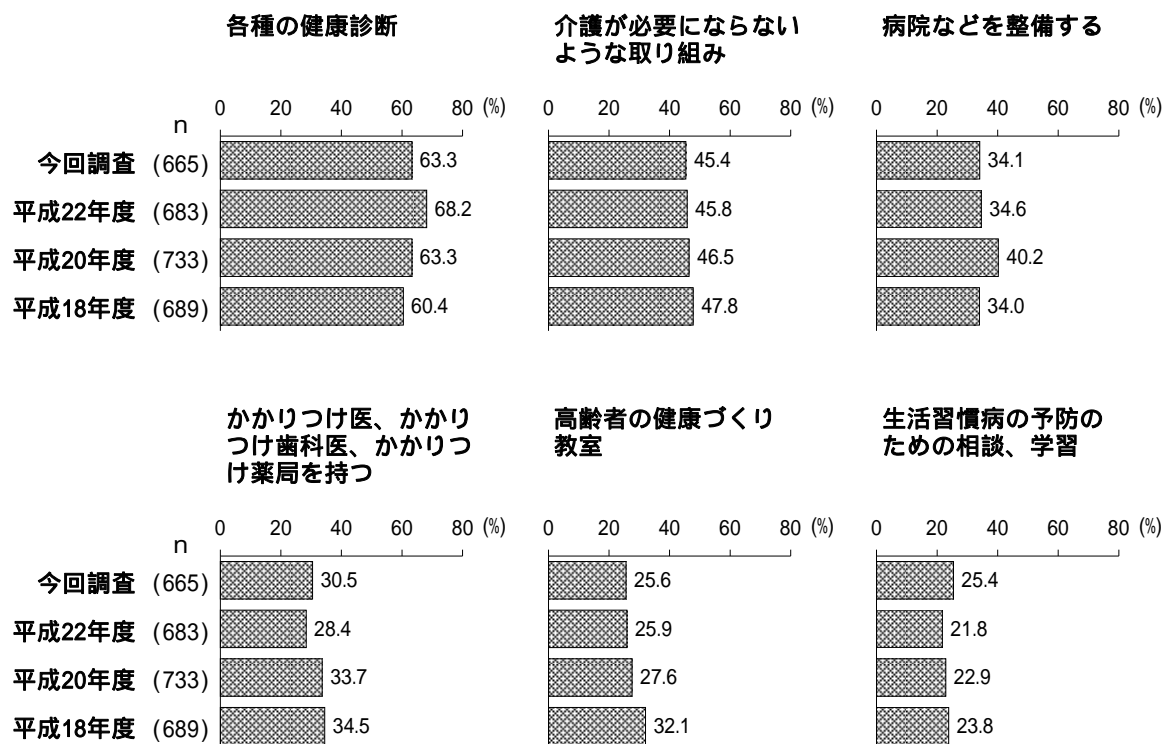
<図表8-9> 健康づくりのための取り組みとして大切なもの(複数回答)



健康づくりのための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「各種の健康診断」(63.3%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「介護が必要にならないような取り組み」(45.4%)が4割台半ば、「病院などを整備する」(34.1%)が3割台半ばとなっている。(図表8-9)

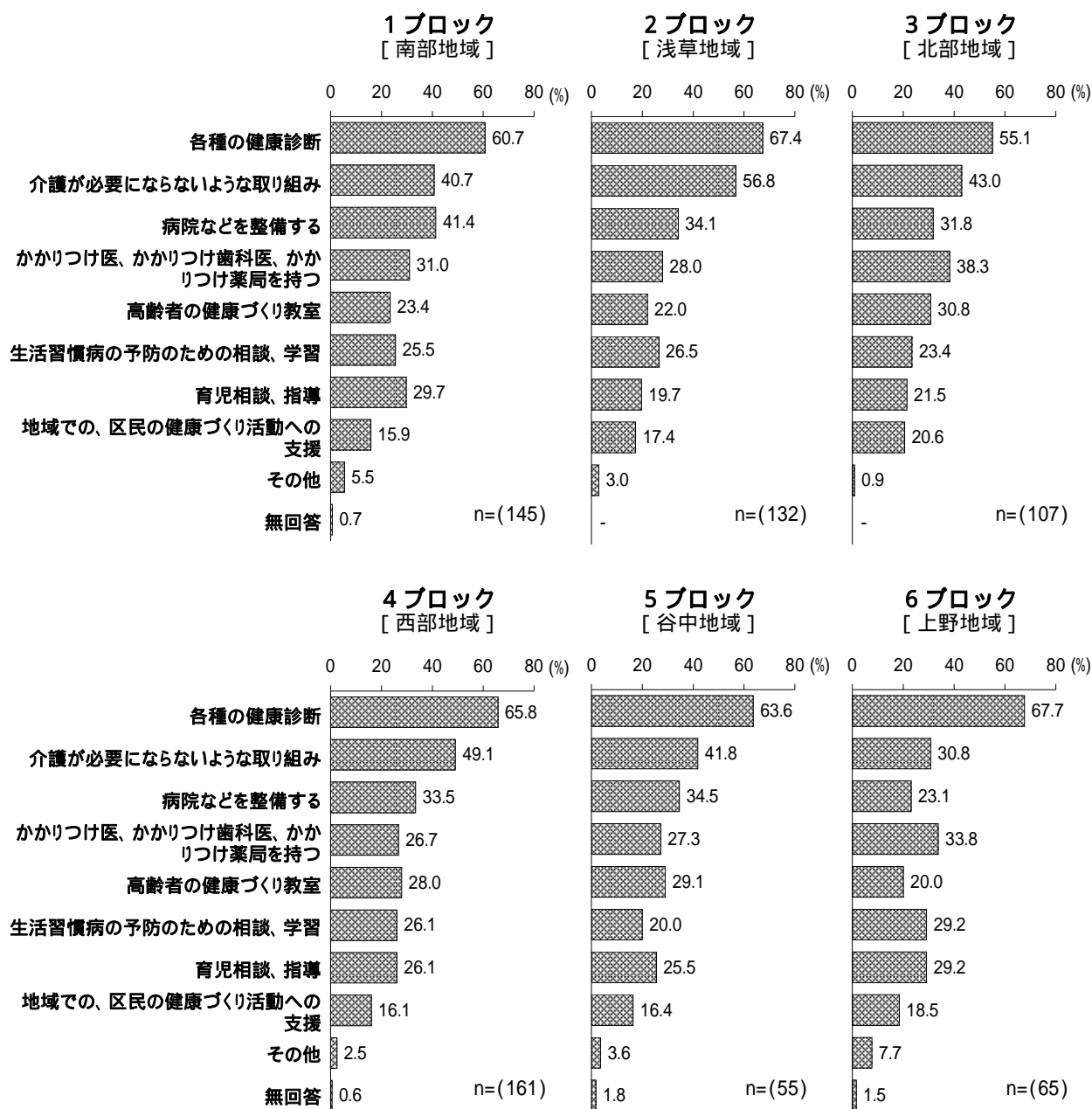
過去の調査結果と比較すると、「各種の健康診断」(63.3%)は、平成22年度(68.2%)から4.9ポイント減少している。一方、「生活習慣病の予防のための相談、学習」(25.4%)は、平成22年度(21.8%)から3.6ポイント増加している。(図表8-10)

<図表8-10> 健康づくりのための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



居住地域別でみると、いずれの地域も「各種の健康診断」が最も高いが、3ブロック[北部地域] (55.1%)では唯一6割未満となっている。「介護が必要にならないような取り組み」は、2ブロック[浅草地域] (56.8%)で5割台半ばと高くなっている。「病院などを整備する」は、1ブロック[南部地域] (41.4%)で4割を超えて高くなっている。(図表8 - 11)

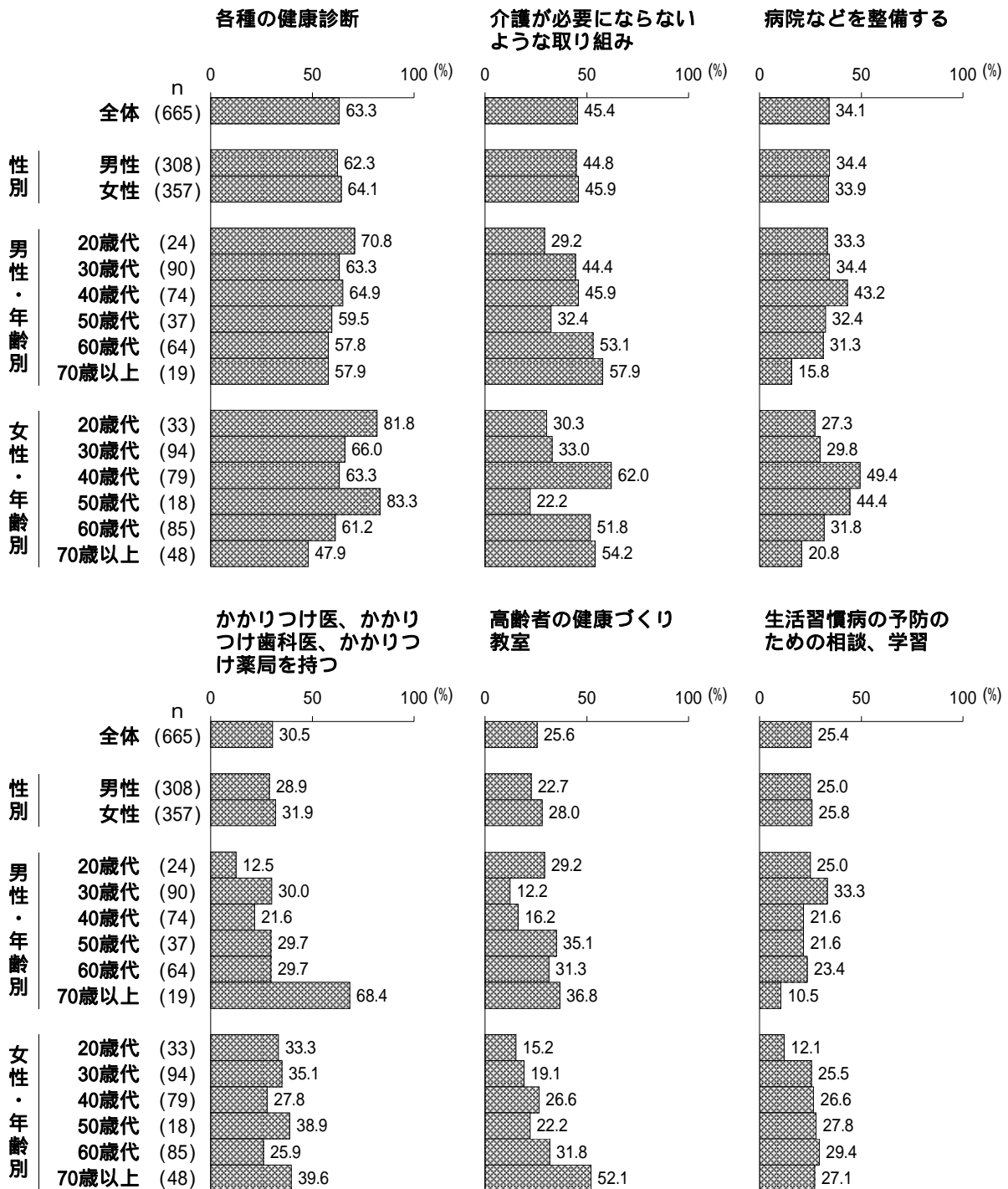
<図表8 - 11> 健康づくりのための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別でみると、「高齢者の健康づくり教室」は、女性（28.0%）の方が男性（22.7%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「各種の健康診断」は、女性の20歳代（81.8%）で8割を超えて高くなっている。「介護が必要にならないような取り組み」は、女性の40歳代（62.0%）で6割を超え、「病院などを整備する」でも、女性の40歳代（49.4%）で約5割と最も高くなっている。「高齢者の健康づくり教室」は、女性の70歳以上（52.1%）で5割を超えて最も高くなっている。（図表8 - 12）

<図表8 - 12> 健康づくりのための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

65歳以上の方の同居の有無別で見ると、「介護が必要にならないような取り組み」は、65歳以上の方がいる人（53.7%）の方がいない人（38.8%）より14.9ポイント高くなっている。（図表8 - 13）

<図表8 - 13> 健康づくりのための取り組みとして大切なもの 65歳以上の方の同居の有無別
（上位6項目）

